旧松本市立博物館(日本民俗資料館)
記録保存調査報告書

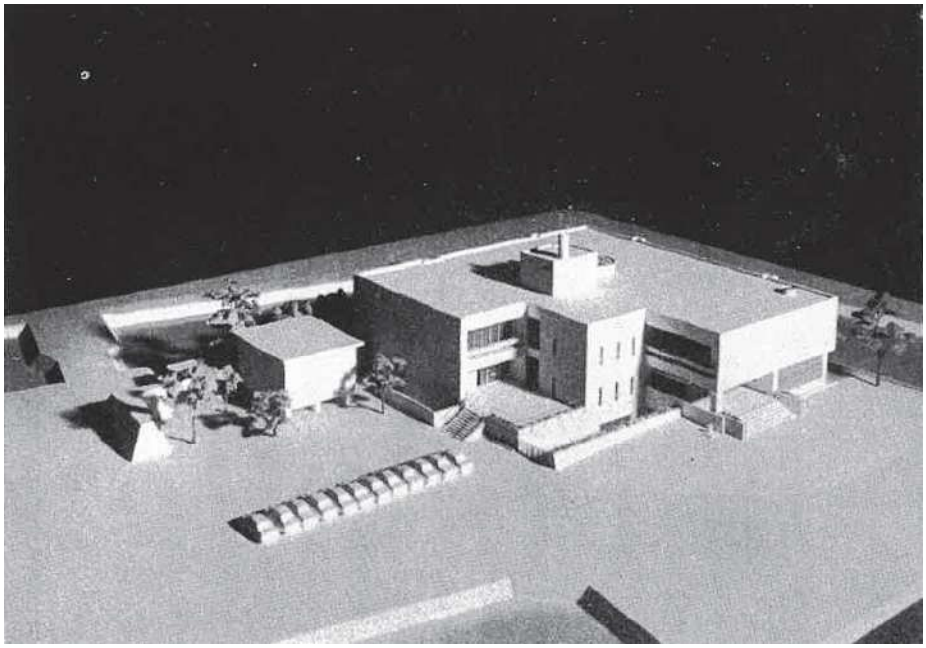


令和７年3月(令和8年3月追加)

松　本　市
公益社団法人 長野県建築士会



位置図



日本民俗資料館模型　（北西方向より）

『博物館の意義』より転載



1.旧松本市立博物館外観(北西)　　令和6年(2024)10月



2.旧松本市立博物館外観(南東)　　令和6年(2024)2月



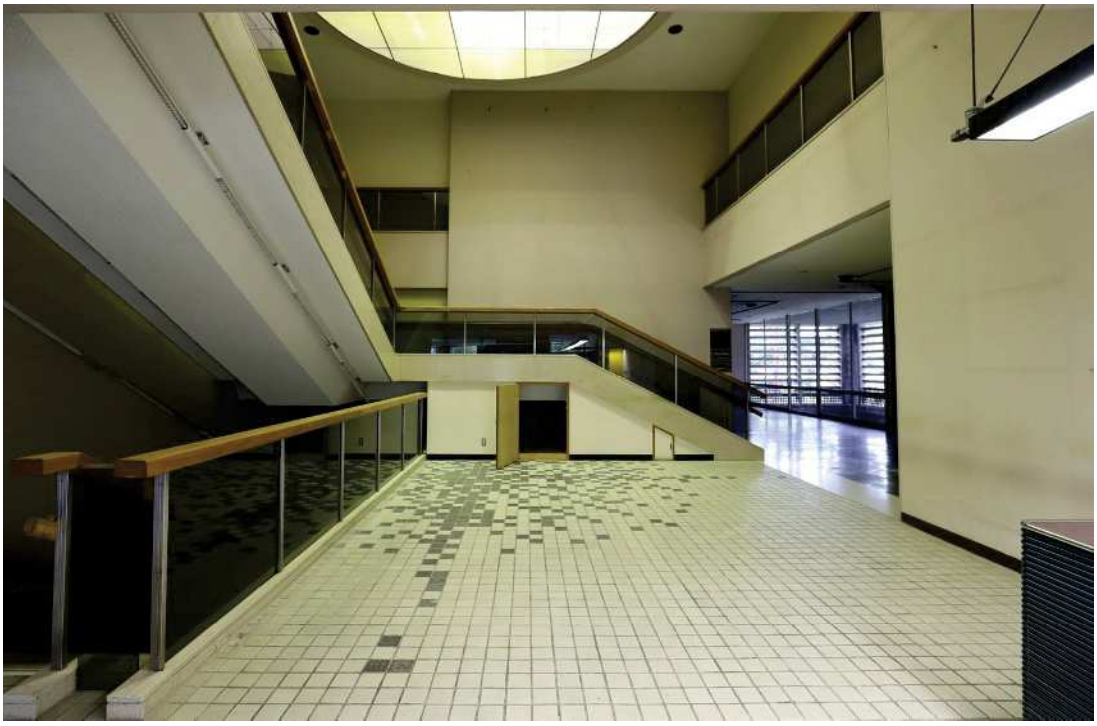
3.重要民俗資料収蔵庫外観（東北）　　令和6年(2024)10月



4.市役所屋上から　　令和6年(2024)9月



5.旧松本市立博物館　エントランスホール　　令和6年(2024)12月



6.旧松本市立博物館　1 階 階段ホール　　令和6年(2024)12月



7.旧松本市立博物館　１階 階段ホール
令和6年(2024)12月



８.旧松本市立博物館　１階 階段ホール
令和6年(2024)12月



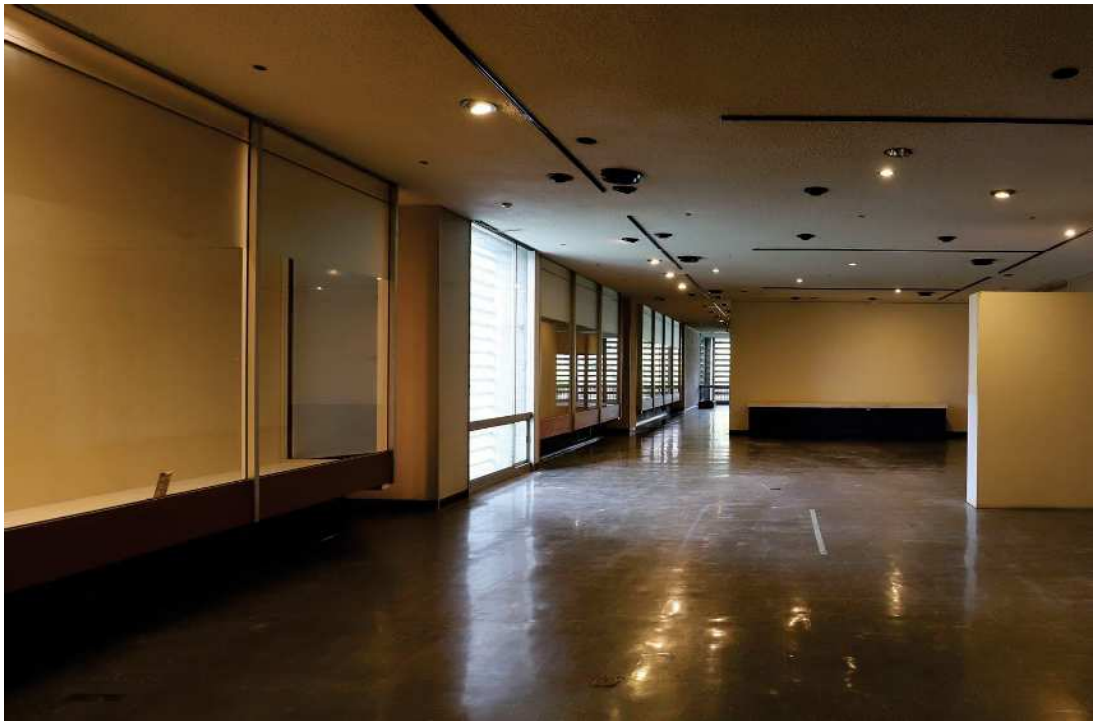
9.旧松本市立博物館　１階 階段見下げ
令和6年(2024)12月



10.旧松本市立博物館　地階 階段見上げ
令和6年(2024)12月



11.旧松本市立博物館　1 階展示室(歴史)　　令和6年(2024)12月



12.旧松本市立博物館　1 階展示室(民俗)　　令和6年(2024)12月



13.旧松本市立博物館　２階展示室　　令和6年(2024)12月



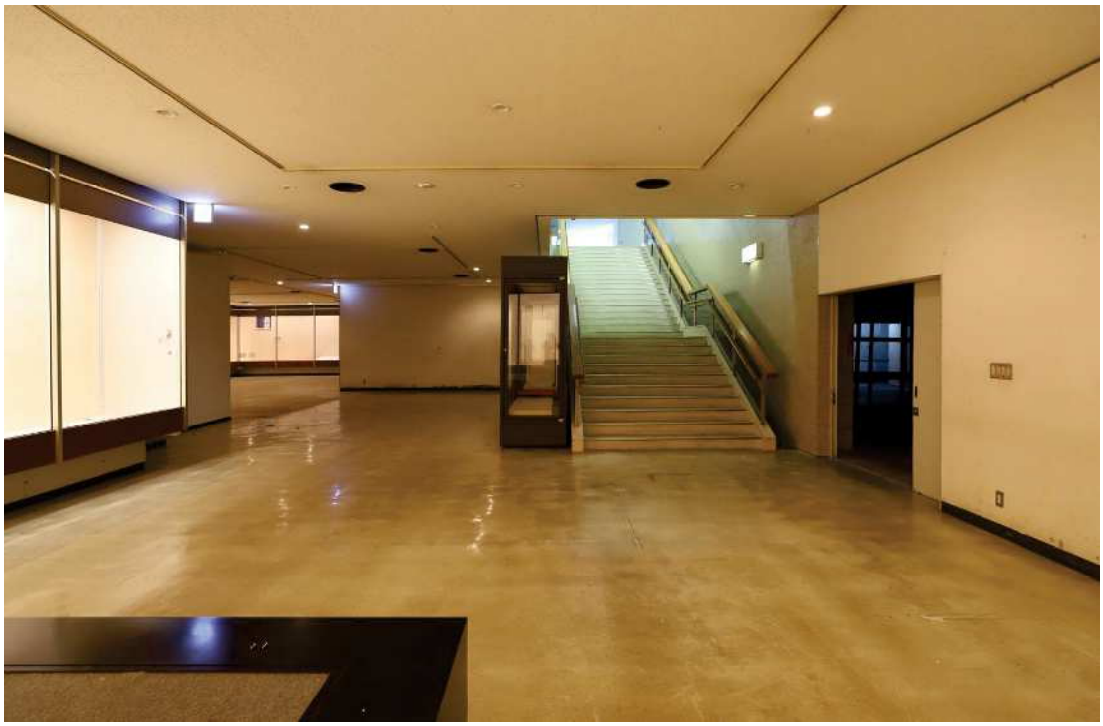
14.旧松本市立博物館　２階図書研究室　　令和6年(2024)12月



15.旧松本市立博物館　1 階館長室　　令和6年(2024)12月



16.旧松本市立博物館　1 階 事務室　　令和6年(2024)12月



17.旧松本市立博物館　地階展示室　　令和6年(2024)12月



18.旧松本市立博物館　地階展示室　　令和6年(2024)12月



19.旧松本市立博物館　講堂　　令和6年(2024)12月



20.旧松本市立博物館　展望バルコニー　　令和6年(2024)10月



21.旧松本市立博物館　メインエントランス　令和6年(2024)10月



22.旧松本市立博物館　屋上　　令和6年(2024)10月



23.重要民俗資料収蔵庫 外観(西面)　　令和6年(2024)10月



24.重要民俗資料収蔵庫 内観
令和6年(2024)10月



25.重要民俗資料収蔵庫 内観
令和6年(2024)10月



26.旧松本市博物館　マツモト建築芸術祭(2024年2月23日～3月24日)

令和4年(2022)から始まった、
マツモト建築芸術祭の第3回目
のメイン会場として使われた。



27.展示室　　Photo by kiuchikazumi



28.階段ホール



29.ポーチ(旧切符売り場窓口)

例　　言

1　本書は令和６年(2124)４月から令和８年(2126)３月まで行われた、「旧松本市立博物館（日本民俗資料館)」の解体前調査報告書である。

2　松本市から公益社団法人長野県建築士会が委託を受け、長野県建築士会松筑支部が調査を実施した。

3　調査は「日本民俗資料館」の建築及び史料の調査を行い、記録保存を目的に実施された。

4　掲載の写真については、特記のないものは調査者の撮影による。

5　調査担当者・写真撮影担当者・執筆担当者は以下のとおりである。

・建物調査及び写真撮影(五十音順)

赤羽直美　　荒井洋　　川島智隆　　野口大介

長谷川繁幸　　藤松幹雄　　米山文香

・報告書作成(図面作成含む)

野口大介　　米山文香

6　本書の作成に当たり、次の方々、団体からご指導、ご協力を賜った。

・松本市立博物館　　・松本市建築指導課　　・浅間温泉文化センター

・上田市教育委員会　　・公益社団法人長野県建築士会ヘリテージマネージャー協会

・マツモト建築芸術祭実行委員会(写真提供)　　・横山元信氏(写真提供)

凡　　例

1　本文の用語は、現代仮名遣い、常用漢字を原則とした。ただし、固有名詞・専門用語と、一部特別な表現については、その限りではない。

2　本文の寸法標記は、原則としてメートル法を用いた。

3　年号は原則として和暦年号を用い、西暦年号を(　)書きで併記した。

目　次

位置図
口　絵
例　言
凡　例

1　調査の目的と概要
　(1)調査の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　(2)調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2　敷地の概要
　(1)松本市 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　(2)松本城(城下町・城郭) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3　沿革
　(1)博物館の沿革 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　(2)建設の経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　(3)建設工事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　(4)松本市出身の民俗学者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
4　建築形式と技法
　(1)敷地と建築の構え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　(2)建築の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　(3)創建時の建築技法等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　(4)改修等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
5　建設関係者
　(1)設計者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　(2)施工者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
6　類例建造物
　(1)県内に残る類例建築物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　(2)類例建造物比較調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
7　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
8　参考文献等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
9　写真
　(1)施工時 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
　(2)竣工時 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
　(3)調査時 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
10　解体中調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

資　料 ：　重要民俗資料収蔵庫建設及び改修の経緯、日本民俗資料館新築時の概要、元設計図・施工図(一部)
図　面 ：　日本民俗資料館元設計図、調査時配置図･各階平面図(旧松本市立博物館/重要民俗資料収蔵庫)など

1　調査の目的と概要

(1)調査の目的

日本民俗資料館は、昭和42年(1967)に竣工した。平成17年(2005)に松本市立博物館となり、新博物館が大名町に移転新設されたことに伴って閉館した令和3年(2021)まで、50年の余、市民や観光客に利用された。史跡松本城の二の丸という特殊な立地であったため、現地での建て替えは史跡保護のため不可能であり、また現地に建物を残すことも、保存の声があったが不可能であった。新博物館への移転が完了後、解体撤去へ向けて進む中、建物の現況と当建築の歴史を記録保存する方針となった。

本調査では、現況平面を調査し、設計図面との差異を検証して、竣工後の変更か建築中の変更かを明らかにし、現況と竣工時の平面を明らかにした。また、建築当時、地方都市における博物館施設として注目された建築や設備について、記録を収集、記録した。

(2)調査の概要

調査対象の概要

名　　称	旧松本市立博物館(日本民俗資料館)	重要民俗資料収蔵庫
員　　数	1棟	1棟
所 在 地	松本市丸の内4番1号(松本城二の丸)	松本市丸の内4番1号(松本城二の丸)
構造/形式及び 建築面積	鉄筋コンクリート造/陸屋根 地下1階、地上2階+塔屋 建築面積1,331.53㎡	鉄筋コンクリート造/陸屋根 地上2階 建築面積102.40㎡
所 有 者	㈶日本民俗資料館⇒松本市	松本市
建設年/大規模改修等年	昭和42年(1967)※改修不祥	昭和36年(1961)/昭和47年(1972)

本調査は、松本市教育委員会文化財課の発注にて、公益社団法人長野県建築士会が受託、長野県建築士会松筑支部が調査を実施し、令和6年(2024)4月から令和7年(2025)2月を中心に、現地確認及び写真撮影、史料収集を行い、まとめたものを印刷物およびデジタルデータ(DVD)で納品した。史料収集は、松本市立博物館、松本市立図書館、松本市文書館、国会図書館デジタルライブラリーを主として行った。

2　敷地の概要

(1)松本市

松本市は、東に美ヶ原高原、西に北アルプスの山脈に挟まれた盆地で、まちの中心地は山から流れ出る河川の扇状地の扇端で、湧水に恵まれた地である。浅間温泉をはじめ多くの温泉があり、上高地や国宝の松本城と旧開智学校校舎など、観光資源に恵まれ、鉄道、高速道路、空港があり、国内のみならず、近年は外国からの観光客も多い。長野県内では、県庁所在地の長野市に次ぐ人口(令和7年2月現在約23万4千人)をもつ。市の中央部は古くから交通の要所として城下町が栄えた。明治維新後は、風穴を使った夏秋蚕種の研究開発を基に蚕種製造で全国でトップシェアを誇った。明治23年(1890)に片倉製糸の工場が進出して近在の蚕業を牽引し、松本の近代化に大きく貢献した。

蚕業では大きなお金が動くため、多くの銀行が設立され、松本は長野県の経済金融の中心地とし日本銀行松本支店が置かれた。明治初期から高い就学率で教育県と認識され、戦後にはスズキメソードの才能教育で世界から注目された。平成４年(1992)からは、世界中から一流の音楽家が集まるサイトウキネンフェスティバル松本(平成27年(2015)からはセイジ･オザワ松本フェスティバルと改称)が開催されている。明治期から北アルプスの登山ルートの開拓がなされ、大正期には北アルプスは登山ブームに沸き、現在も玄関口として多くのアルピニストを迎えている。松本市のキャッチフレーズには、「文化薫るアルプスの城下町」「三ガク都(楽都･岳都･学都)」などがある。また、戦災から免れたことから、まちなかに歴史的建造物が多く残り、松本市では城下町の雰囲気を伝える建物を後世に継承するために松本市登録文化財制度をもうけたり、建物の高さや色彩など制限する景観条例を設けるなど、景観に配慮したまちづくりに取り組んでいる。

【歴史的建造物の一例】



旧光屋店舗兼主屋(ﾋｶﾘﾔﾋｶﾞｼ)
明治20年(1887) 国登録有形文化財



旧デリー(壱の蔵)
明治40年(1907)　市登録文化財



宮島耳鼻咽喉科医院
大正3～9年(1914～1920)頃

(2)松本城(城下町・城郭)

松本市は、善光寺街道(北國西街道)・糸魚川街道(千国街道)･野麦街道(飛騨道)･保福寺街道(江戸道)が通り、交通の要所として人･物が集まり出入りし商都として栄えた。城下町は城郭を中心に計画的に造られたものである。天正13年(1585)に小笠原貞慶が三重の堀や親町枝町の地割など、城下町の基礎を築いた。天正18年(1590)に入城した石川数正とその子康長が天守を始め、城郭・城下町の整備を行った。城下町は、南北に善光寺街道である本町･中町･東町が親町、その枝町として伊勢町(野麦街道)他９町、24の小路があり、商家や職人などの町屋が建並び、周縁部には広い敷地を持つ寺社仏閣が、外部からの敵襲に備える場として配された。城下町の中心に、総濠･



『松本市史』昭和8年版　より転載(附図)

外堀・内堀に護られた城が築造された。現在、城下町には城下町の特徴である「食い違い」「丁の字」「鉤の手」といった防御のための道筋が残り、三重の堀のうち内堀はほぼ残り、一部埋め立てられていた外濠の一部も現在復元に向けて整備が進んでいる。総濠の一部も東側の片端の堀が残っている。建造物は国宝である天守、御金蔵が残り、復元された黒門、太鼓門、焼失した本丸御殿の外郭や二の丸御殿の間取の平面表示が整備されている。その外、活用のために観光案内所を兼ねた事務所棟・便所棟などや防災のための施設が置かれている。

旧松本市立博物館の敷地は、松本城二の丸の東南の一隅であり、石川和正の時代に古山地御殿(藩主の私的な生活の場として造られたと考えられている)が造られ、享保12年(1727)に本丸御殿が焼失し、戸田氏はここを拡張して新御殿を造った。維新後、明治4年(1871)から城郭の櫓や門塀は払い下げられ破壊されていった。明治初期、古山地・新御殿に長野県筑摩出張所がおかれた。明治18年(1885)、古山地・新御殿跡に松本中学が造られ、昭和10年(1935)の移転まで二の丸は学校用地として、本丸は運動場などに使われた。昭和５年(1930)に松本城(本丸・二の丸・内堀・埋立てていない外堀)が国の史跡に、11年(1936)には国宝(旧法)に指定(昭和27年(1952)に新法(文化財保護法)による国宝指定)されたのを契機に、学校を移転し公園とする計画が成され、戦後に中学の校舎を後利用した市立博物館、小動物園や児童遊園地が造られた。旧松本市立博物館が昭和42年(1967)に日本民俗資料館として建築されるにあたり、前年に文化庁からの指導を受け、史跡としての整備の将来計画を立てた。それにより、新博物館は現地改築でなく、移転新築となった。

3　沿革

(1)博物館の沿革

旧松本市立博物館は日本民俗資料館として開館している。その前身は明治39年(1906)に開館した、明治三十七、八年戦役紀念館である。この紀念館は日露戦争に赴いた松本町の人々が母校松本尋常高等小学校(旧開智学校)に戦利品などを参考品として贈ったことに、当時の校長、三村寿八郎が感激し、一点ずつに説明を記して校舎の一室に展示し児童教員のみならず、広く町民にも公開したのが始まりである。当初は「時局室」と呼ばれた。戦後、出征兵士の帰郷につれ寄贈品が増え、明治39年(1906)、学校内に建物を建て、「明治三十七、八年戦役紀念館」と命名した。小学校付属施設ではあったが、町立博物館的要素も濃かった。戦利品だけでなく、図書や標本、旧藩士からの武具なども増え、館内は、戦役記念品室・博物整理標本室・教育品研究室・地理歴史参考室・図書室の5室であった。明治41年(1908)に松本町が市制施行され、市の代表的な施設となり、大正8年(1919)に「松本紀念館」と改称、13年(1924)には将来の美術館を目的に美術室を開室した。このころには郷土博物館への内容



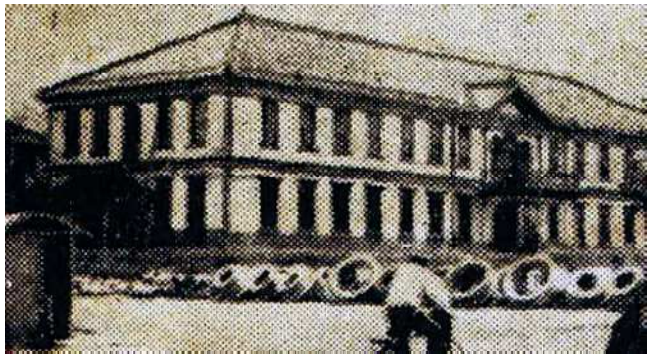
明治三十七、八年戦役記念館　『博物館100年モノ語り』より転載

図版はすべて『博物館１００年モノ語り』より転載

の変化が見られた。昭和3年(1928)に場所を学校表門付近に移転、6年(1931)に学校から松本市へ移管、「松本市立松本紀念館」となった。資料の寄贈がますます増え、施設の充実が求められ、昭和13年(1938)、二の丸にあった県立松本中学校(深志高校の前身)跡に移転(施設後利用)となった。当時の館内展示室は、戦役記念室・歴史室(３室)・地理室・科学室・山岳室(２室)で、外部には、当時の高山植物研究の第一人者であった河野齢蔵によるロックガーデンもあった。昭和20年(1945)、戦後の混乱のなか一時閉館し疎開させていた収蔵品が戻され、10月には再開した。新時代の博物館としてあるべき姿が求められ、有識者、史談会や山岳関係者らが会合を持ち、館長に就任した岡茂雄の下で新博物館の計画がまとめられた。昭和22年(1947)、松本博物館と改称、直後移転が決まったため一時閉館し、翌年に地蔵清水の旧市立中学校の校舎(現日本銀行松本支店の場所)にて松本市立博物館として開館した。山岳、民俗、考古、歴史、教育の五部門の総合博物館としての活動と、松本城の管理を行うこととなった。しかしこの場所も日本銀行に売却が決まり、二の丸の旧松本中学校の校舎を改修して移転した。山と城、総合、美術の三室が加わり、総合博物館としての充実を果たし、昭和27年(1952)には博物館法による県下第一号の総合博物館として登録された。翌年には小動物園が併設された。



松本紀念館(元県立松本中学校の校舎に移転後)



松本市立博物館(元市立松本中学校の校舎に移転後)



松本市立博物館(元県立松本中学校の校舎に再移転後)

戦後民俗資料の収集が本格化し、文化財保護法の制定により有形民俗文化財が相次いで指定される中、老朽化した施設での文化財の保管が問題となり、昭和36年(1961)、耐震・耐火仕様の重要民俗資料収蔵庫が建設された。博物館本館についても、建物の老朽化と狭隘化が問題となり、建設資金について国庫補助や民間からの寄付を受けるため、昭和41年(1966)財団法人日本民俗資料館が設立された。建設場所は現地再建と決まり、同年起工、翌年竣工した。財団名、館名の「日本民俗資料館」は、日本でも類まれな重要な民俗資料を多く収蔵する、ということで命名された。

平成17年(2005)、財団が解散し、松本市へ建築等が寄付され、再び松本市立博物館となった。

平成11年(1999)に「松本城およびその周辺整備計画」が策定され、松本城二の丸からの博物館早期移転が示され、平成28年(2016)の松本市基幹博物館施設構想で大手門駐車場敷地が基幹博物館の建設予定地に決定、旧松本市立博物館は松本城周辺整備のため解体されることが決まった。

(2)建設の経緯

ア　重要民俗資料収蔵庫

松本市では戦後、民俗資料の収集が本格化した。昭和25年(1950)に制定された文化財保護法で民俗資料にも光が当てられ、重要民俗資料の指定が新たに加わったことで、新たに民俗資料が相次いで指定された。それに伴って、老朽化した施設での文化財の保管が問題となった。昭和36年(1961)、国の補助金を得て、耐震・耐火仕様の重要民俗資料収蔵庫が建設されることとなった。着工前に設計内容について文化財保護委員会(文化庁の前身)から一部修正の指示(残されている設計図面と相違の有る屋根形状かと考えられる)があったり、史跡の現状変更の手続きなどがあり、予定工期から大きく遅れて着工、年度末に竣工した。総事業費は3,047,000円(設計料など経費を除く工事費は2,790,000円)のうち半額の1,500,000円を国庫補助、450,000円の県補助金を受けた。

イ　日本民俗資料館

昭和30年代に入り、松本市立博物館も建物の老朽化と狭隘化が問題となってきた。また、国では明治100年という節目紀念事業の一環として、国立歴史民俗博物館の設置が決定された。それに先行する形で、一地方都市である松本市は本格的な民俗資料の博物館を造ることを目指した。多額の建設資金について、国庫補助や民間からの寄付を受けるため、昭和41年(1966)に財団法人日本民俗資料館が設立された。財団の目的は松本市博物館が所蔵していた重要民俗資料コレクションを含む貴重資料の保管および展示と、それらを収容できる空間と設備を持った新しい施設、日本民俗資料館の建設であった。名誉館長には松本市出身の民俗学者の岡正雄、顧問には動物学者の犬飼哲夫、社会学者の有賀喜左衛門など各学会のオーソリティーが就任した。財団の理事長であった降旗徳弥市長は、建設に先立ち市民への理解を深めるために、岡正雄による講演会『博物館の意義』を開催した。この中で岡正雄は、新たに出発する松本の博物館について、郷土博物館的要素を持つ、郷土の自然・生活文化を総合的に研究し展示する博物館がふさわしく、民俗博物館は地方主義が前提で、松本の博物館は郷土民俗博物館にならざるを得ない、と述べている。そして、松本が持つアルプスという財産を民俗学的な視点で採り込むこと、さらには山岳スポーツに関するインフォメーションオフィスの併設まで提案し、博物館を観光の対象としても捉え、観光部局との連携を訴えている。また、博物館の使命として、学校･研究機関との連携の重要性を説き、研究者とのかかわりが博物館の活動を支えることになる、博物館は単なる鑑賞の場ではなく地域社会の共同の研究施設にならねばならない、と述べている。法人名「日本民俗資料館」がそのまま施設名になることに関しては、「博物館」としないことへの違和感を訴えている。

建設場所は、旧開智学校が移築されていた開智周辺と、二の丸での現地建替えの２案が上がっていたが、現地再建と決まり、昭和41年(1966)起工、翌年竣工した。総工費は約２億円(設計費用の他事務費他経費込み)で、善意の寄付と国･県･市費でまかなわれた。寄付者の芳名･会社名の銘板が入口北脇にはめ込まれた。このうち信越放送株式会社は、協賛依頼に応じ、テレビの学校放送の時間利用によって生まれる電波料の益金を、協賛スポンサー名を附して寄付、協賛広告料120万/口の半額60万円/口を寄付した。

(3)建設工事

ア　重要民俗資料収蔵庫　　（新築時）

着工：昭和36年(1961)2月～竣工：昭和36年(1961)3月

総工費　2,790,000円

株式会社　原組　（松本市桜町）　※電気設備工事を含む

イ　日本民俗資料館

着工：昭和41年(1966)10月～竣工：昭和42年(1967)10月

総工費　約1億8千万円

主体工事	株式会社間組	（係員:松本福納）
電気設備工事	関東電気工事株式会社	（係員:藤原芳夫）
空調・給排水衛生設備工事	株式会社間組	（係員:松本福納）
空調・給排水衛生設備工事	三建設備工業株式会社	（係員:古屋勲）
昇降機工事	日本エレベーター製造㈱	（係員:新井昭）

(4)松本市出身の民俗学者

紀念館館長の岡茂雄と財団法人日本民俗資料館の館長を務めた岡正雄は兄弟であり、共に現松本市立博物館の北側にあった家に生まれた。岡家は戸田氏の家臣で、先祖には、御預所の奉行兼軍師役等を務め、治績の向上に貢献したことで幕府から重賜を得た岡無理弥がいる。兄の茂雄は明治27年(1894)の生まれで、陸軍士官学校を出て軍人となったが休職して、東京帝国大学人類学教室へ選科生として入学、鳥居龍蔵のもとで学ぶ。大正13年(1924)に民族･民俗学や考古学専門の「岡書院」を創立。翌年には山岳書の出版を専門とする「梓書房」を創立。学術史上の名著となる多くの書籍、雑誌を世に送り出した。南方熊楠を最初に見出し、鳥居龍蔵や新村出の著作を出版するなど、岩波書店と並ぶ良心的な出版人として知られた人物である。(平成元年(1989)死去)

弟の正雄は明治31年(1898)の生まれで、旧制松本中学、第二高等学校を経て、東京帝国大学文学部社会学科を卒業し、文部省学術研究会議嘱託となり、東京女子歯科医学専門学校のドイツ語教師を兼任した。オーストリアに渡り、ウィーン大学のヴィルヘルム・シュミットのもとで民族学を学び、帰国後、日本民族学会が主催した千島樺太調査に随行。昭和13年(1938)にウィーン大学が設立した日本学研究所の所長として招かれ、昭和15年(1940)の帰国後は、文部省直轄の民族研究所設立に奔走し、3年後の同研究所発足時には総務部長となった。戦後、日本民族学協会理事長として学界に復帰し、昭和26年(1951)の東京都立大学への赴任を皮切りに、明治大学教授、東京外国語大学教授、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長、和洋女子大学教授を歴任し、多くの研究者を指導した。学界では、国際人類学民俗学連合会長、文化財保護審議会部長、長野県文化財専門委員などを歴任した。民族学が未だ大学に基盤を持たなかった時代に、雑誌「民族」の編集作業などを通し人的ネットワークを作ったり、東京都立大学大学院に社会人類学の専攻を設け、大学での文化人類学の研究･教育 制度の構築に貢献するなど、民族学草創期のオーガナイザーとしても高く評価されている。(昭和57年(1982)死去) 兄弟共に民俗・民族学に通じ、日本民俗資料館の開設に当たり、多大な貢献を果たした。

4　建築形式と技法

(1)敷地と建築の構え

日本民俗資料館は、史跡松本城の二の丸の東南隅、古山地御殿跡に建つ。建物は松本城外堀に面し、堀の法面から狭いところでは１ｍ程度で、かつての南東隅櫓のような配置でもある。堀との間には赤松が１列植えられている。明治18年(1885)の松本中學校開校式繁栄之図に描かれた松の木を彷彿とさせるが、日本民俗資料館建設後(時期不祥)に植えられたものである。堀に面した南面と東面は、そのほとんどがプレキャストコンクリートパネルの外壁で、１階の開口部(事務室の窓及び井戸跡を展示している内部庭の開口)はプレキャストコンクリートの水平ルーバーで閉ざした印象であり、城郭の「外に閉じる」形態を踏襲しているようである。エントランスのある西面は打って変わって大きな開口部やテラスが配され、松本城公園、天守を訪れる人の動線に対して、引き寄せる構成となっている。開館当時の観覧券や案内パンフレットには、本丸から撮影した北西からのアングルの写真やパーススケッチが使われており、この面を顔として考えられた設計であったことが判る。ただし、調査時はエントランスへのスロープの手前に植えられた松の木がテラスを覆い隠し、西北面を裏方的雰囲気にしてしまっていた。２階建てと階数を抑え、城郭建築のように雁行したような平面構成とし、立地する松本城内の景観に配慮している。



日本民俗資料館の開館当初の観覧券　『博物館１００年モノ語り』より転載

重要民俗収蔵庫は、湿気対策として、コンクリートの四角い箱をコンクリートの丸柱で床(梁型)下１ｍほど持ち上げて据えた、高床式倉庫のような佇まいである。窓はなく壁の高所に天井裏換気のガラリが四面につく。当初の設計では寄棟勾配屋根であったが、陸屋根に変更して造られた。

(2)建築の特徴

ア　日本民俗資料館

日本民俗資料館は、史跡松本城二の丸に建築するにあたり、**お城との調和**を図って計画されている。その工夫として、高さを抑えた階層計画、水平ラインを強調した落ち着いた意匠、城郭建築のように雁行した平面構成(外周)、石垣に調和する石の素材感を持つ外壁仕上げ、天守の月見櫓と呼応するような西面のテラスと展望バルコニー、外堀に面した面の閉鎖的な意匠等が挙げられる。また、敷地内にあった「てまがりの井戸」も展示の一つとして建物内に採り込んでいる。

計画段階から、新しい時代の博物館施設として、どのような機能を持たせるか検討され、収集と保存･調査研究･展示だけにとどまらない社会教育の場、という**３つの機能**を備え、当時としては北信越東海地方において最大規模を誇り、この種の施設として備えるべき設備は一通り備え機能的にできていた。防湿･防盗･防虫･殺菌･防火に配慮がなされ、殺虫用の燻蒸室が設けられた。

調査研究、講演会や映写会などの実施を踏まえ、学芸員室（研究図書室）、講堂が設けられた。

西向きのメインエントランスと、北側のテラスから入るサブエントランスがあり、廊下の途中に可動間仕切りがあって、展示室を区切ることで**２つの企画を独立して実施できる**ようになっていた。それぞれのエリアに、受付窓口、トイレが配置されていた。(調査時はサブエントランスは閉鎖、可動間仕切りは取り払われ、サブ用トイレは車いす対応多目的トイレに改修されていた)

メインエントランスの上部の外壁は、開口部が無い大きな壁面で、落ち着きとともに圧迫感も感じつつ入ると、玄関ホール奥には開放的な吹抜け上部にトップライトによる採光がとられ、自然光が落ちる階段で地下階の展示スペースへと誘われるよう計画されている。外壁の開口部(窓)にはルーバーが設けられ、博物館としての機能に支障がない形で**自然光を採り込んでいる**。開館当初は、陳列品が見やすいようにと、壁面にコバルト色の布地が貼りつめられていたという。(調査時には改変されていた)また、外部から直接荷解き室へ搬入できるスロープが設けられている。

装飾の少ない四角い箱のような外観や、後出(3)で述べるプレキャストコンクリートパネルや、化粧目地や板枠コンクリート打ち放しといった表情を持たせたコンクリート仕上げ面、アルミサッシの採用など、**戦後の昭和モダニズム**の特徴をもった外観意匠を持つ。

イ　重要民俗資料収蔵庫　（竣工時）

シャッターとドアが二重に付けられた入口の先に風除室があり、内部は１層１部屋の収蔵庫であった。重要民俗資料を保管するということで、湿気対策として上げ床式の形態が採用されている。床から4.5ｍの高さに不燃板仕上げの天井が張られ、壁面の高い位置に取られた換気用ガラリで天井裏の換気ができるように計画されていた。天井から40㎝下がって水平に１ｍ幅の持ち出しがあり、天井との隙間部分の奥まった部分に収蔵庫内の換気口があった。外気が直接収蔵庫内に入らないようにするためと考えられる。断熱材が使われていなかったが、外壁への日射を遮る軒の深い庇、設計変更で採用されなかったが屋上からの熱気を緩和する置き屋根など、機械に頼らない工夫が、当初設計図から読み取れる。

(3)創建時の建築技法等

ア　日本民俗資料館　　※当初設計図より

鉄筋コンクリートラーメン(柱梁)構造　既成コンクリートパイル(杭)(300φ、L=6･9ｍ)
陸屋根(均しモルタル+アスファルト防水+押さえコンクリート+仕上防水モルタル)

第二次大戦で敗戦した日本は、国際社会への復帰を目指していく中で、建築においてはモダニズムの路線を邁進した。昭和12年(1937)から27年(1952)まで、大戦の影響などによる資材統制のため、鉄筋コンクリート建築が制限された時期があった。統制が解除された直後の1950年代後半から60年代は、コンクリートでいろいろな表情を表現した建築が生み出され、戦後の昭和モダニズム、日本の近現代建築の黄金期と言える。地方都市においては大都市に若干遅れて、技術や意匠が移入した。高度成長期の都市の急速な開発、建築ラッシュで、工期を短期化する様々な工法が考案された。その中の一つにプレキャストコンクリートパネルが挙げられる。現場での型枠や打設養生が不要となり工期が短縮できたり、品質の安定性もあることから、よく使われた。日本

民俗資料館は外壁に、砕石洗出しの均一な仕上がりを得られる化粧プレキャストコンクリートパネルが使われた外、１階の「庭」(ててまがりの井戸の展示空間)や事務室の窓のルーバー、テラスやバルコニーの手摺、フラワーボックスなどにもプレキャストコンクリートが使用されている。また、昭和32年(1957)に国内で生産が始まったアルミサッシは、軽量でさびにくく加工しやすいことで経済成長に伴い生産量を伸ばしていた。昭和34年(1959)建築の松本市役所本庁舎はスチールサッシであるが、日本民俗資料館では外部建具にアルミサッシが採用されている。(地下階はスチール製、エントランスはステンレス製)また、建物の用途上、吸音のため石綿を含む吹付材や吸音板が使用されていた。設備としては、燻蒸室など博物館ならではのもののほか、館内BGM放送設備や、展望バルコニーにアルプスの眺望を楽しむための望遠鏡が備え付けられた。

イ　重要民俗資料収蔵庫　　※当初設計図より

鉄筋コンクリートラーメン(柱梁)構造　外周地中連続基礎(中央独立基礎) 屋根スラブ＋木製小屋組みアルミ板(厚0.5)瓦棒葺き寄棟屋根　庇は鉄筋コンクリート造

※日本民俗資料館建設中の航空写真では屋根が陸屋根である。文化財保護委員会からの指導により設計変更をしたと思われる。(陸屋根:コンクリートスラブ＋防水層＋砂利敷押さえ)

重要民俗文化財を収蔵する施設として、防火のため耐火建築物としてコンクリート造が採用された。先に述べたように、当初設計図では、機械空調に依らず、天井懐をとって換気口を設けたり、大きな庇や置き屋根による遮熱、上げ床による防湿を計画したことがうかがわれる。しかしながら、断熱材は使用されておらず、置き屋根も陸屋根に変更したようなので、コンクリートは蓄熱するため、夏場の環境はあまり良くなかったのではないかと推察する。

(4)改修等

ア　日本民俗資料館

改修の経緯は不祥である。設計図面等と調査時の差異から、下記が改修部分と考えられる。

・屋上の仕様(設計図ではアスファルト防水→調査時は鋼鈑による金属防水)
・メインエントランスの北側からスロープによるアプローチを設置
・メインエントランスホールと南側展示室との境をフラワーボックス設置から壁に改修
・１階及び地階のメイン階段下に倉庫を増設、地階搬入口奥に倉庫増設
・１階廊下の可動間仕切り撤去、トイレの改修(男女トイレ→車いす対応･多目的トイレ)
・２階の図書研究室の北側のバルコニーをラウンジ(屋内)に改修
・地階の公仕室を間仕切り変更、和室から洋室へ、設備入替
・サブエントランスと展示室の間や２階のメイン階段前と展示室の間への間仕切り壁増設
・アスベスト含有材料の撤去や封じ込め工事(平成18年度(2006)㈱北健施工)

イ　重要民俗資料収蔵庫

昭和47年(1972)から翌年にかけて、展示室にする改修をした。既存の天井を撤去、屋根スラブ下にアルミ箔付グラスウール25㎜を入れた天井を張り、可能な限り空間を大きくしたうえで、床から2.7ｍの高さに南西北側にＪの字にギャラリー(棚床)を鉄骨造で増築し、ギャラリーとその下に展示用収納ケースが作られた。東北角に設けられた階段横の壁は、階段下の空調機械室からのダクトスペースを兼ね吹出口が付いた。調査時は展示用ケースは撤去されて倉庫になっていた。

5　建設関係者

(1)設計者

日本民俗資料館は、石本建築事務所の設計による。同事務所は当時、全国各地で庁舎など多く手掛けており、昭和34年(1959)に建築の松本市役所本庁舎もそこに含まれ、実績を認められ設計業務受注に至ったものと考えられる。創業者の石本喜久治(明治27年(1894)～昭和38年(1963))は、東京帝国大学在学中に同大工学部 建築学科６人(石本喜久治･滝沢真弓･堀口捨巳･森田慶一･矢田茂･山田守)で結成した分離派建築会(様式建築からの分離と建築実利主義の克服を目指し、日本に近代建築運動の先駆をなした)の主導メンバーとして活躍、卒業後、竹中工務店設計部に勤務した。ワイマールのバウハウスに学び、その新建築思想に共鳴する。分離派運動の金字塔と評価される。先見性と独立不羈(どくりつふき:他から何の束縛を受けず、制御されることなく、自らの考えでで行動すること)の精神を持ち、設計者として多くの作品を残し、当時の日本の建築界を先導した建築家の一人である。竹中工務店に在職中の昭和２年(1927)に白木屋百貨店の仕事が舞い込んだことをきっかけに、片岡石本建築事務所を立ち上げた。昭和６年(1931)に石本建築事務所と改称、石本亡き後もその理念を引継ぎ現在も続く、日本における組織事務所の草分け的存在である。

当時(昭和中期)における設計として、県内では類例で挙げる物件などがあるほか、長岡市庁舎、太田市庁舎、加茂市庁舎をはじめとした多くの庁舎や、松山市民会館、総社市総合文化センター、青森県立郷土館、遠野市民センター 市民会館･公民館、旭川ニュー北海ホテル、丸井新宿店、丸善石油本社ビルなどがある。近年では、かつて設計した上田市役所の建替えの設計も行っている。

重要民俗資料収蔵庫の設計は、設計図面に記名がされており、松本市岡田町の所一級建築事務所(所 英三:大正10年(1921)生まれ)による。事務所の詳細は不明であるが、所家は松本市文書館に家に伝わる古文書などを多数寄贈しており、歴史文化に理解を寄せる人物であったことが窺われる。なお収蔵庫は、昭和47年(1972)から翌年にかけて、諏訪市の本田氏からを寄贈されることになった古時計のコレクションの収蔵・展示空間に改修する工事をしているが、この時の設計者は石本建築事務所である。　　石本建築事務所HP　会社情報(沿革：ISHIMOTOのあゆみ)参照

(2)施工者

施工者は、３沿革－(3)建設工事に挙げたとおりであるが、ここでは日本民俗資料館の建築主体工事を請け負った株式会社 間組(はざまぐみ)について述べる。間組は、明治22年(1889)、間猛馬(はざまたけま)が九州鉄道株式会社から門司機関車庫･客車庫の新設工事を請け負い、福岡県門司で創業した。橋梁やダム建設など大規模な建設工事を請け負った。大正９年(1920)東京へ進出し、昭和６年(1931)に株式会社間組となった。以後ダム工事などのほかにも、東宮仮御所や戦後の明治神宮戦災復興御造営工事、名古屋城再建工事(昭和34年(1959))、伊藤忠商事東京本社ビル(昭和55年(1980))など、建築工事も多く手掛けるようになる。平成13年(2001)西武建設株式会社と事業提携、平成15年(2003)には会社分割により新生ハザマを設立し安藤建設株式会社と資本業務提携、株式会社安藤・間となった。

安藤ハザマ HP　会社情報(沿革：安藤ハザマのあゆみ：1873年－2012年)参照

6　類例建造物

(1)長野県内に残る類例の建築物-1

（令和7年2月時点）、昭和30～40年代に建築された石本建築事務所設計物件

名称･用途･所在地	外観写真	構造･規模･設計者	建築年	備考
松本市役所本庁舎 庁舎 松本市丸の内3-7		RC造 地上5階･地下1階建て 延床 約6,188㎡ 設計：石本建築事務所	昭和34年 (1959)	平成18~20年(2006~2008)に耐震補強工事、外付ブレース等(斜材を増設
上田市役所 庁舎 上田市大手1丁目11-16	 右の本庁舎は建替え済み(解体)	RC造 地上6階建て 延床：不詳 設計：石本建築事務所	昭和42年 (1967)	右の本庁舎は建替えで解体(新庁舎の設計も石本建築事務所)
上田市民会館 文化施設 上田市二の丸 1	 上田市HPより(竣工当時)	RC造一部鉄骨造 地上2階･地下1階建て 延床 約3,231㎡ 設計：石本建築事務所	昭和38年 (1963)	平成26年(2014)に閉館 令和7年度解体予定
軽井沢町庁舎 庁舎 軽井沢町長倉2381-1		RC造 地上3階建て 延床 3,901㎡ 設計：石本建築事務所	昭和43年 (1968)	建替え予定
上田市立図書館 図書館 上田市材木町1丁目2番47号		RC造 地上2階建て 延床 2,021㎡ 設計：石本建築事務所	昭和45年 (1970)	
下諏訪町庁舎 庁舎 下諏訪町4613番地8		RC造 地上4階･地下1階建て 延床 4,579㎡ 設計：石本建築事務所	昭和45年 (1970)	平成28年(2016)に耐震改修 設計：坂本建築事務所

6　類例建造物

(1)長野県内に残る類例の建築物-2　（令和7年2月時点）、昭和30～40年代に建築されたｺﾝｸﾘｰﾄ造の物件

名称･用途･所在地	外観写真	構造･規模･設計者	竣工年	備考
浅間温泉ウエストンホテル 宿泊施設(現在閉鎖) 松本市浅間温泉3-5-23		RC造 地上6階建て 延床 約5,500㎡ 設計：山本勝巳 (民芸建築家で、浅間温泉菊乃湯の改修も手掛ける)	昭和39年 (1964)	平成18年 (2006)11月より休業
佐久市庁舎 庁舎 佐久市中込3056	 中部建築賞HPより(竣工当時)	SRC造 地上8階建て 延床 10,932㎡ 設計：レーモンド建築設計事務所	昭和50年 (1975)	
浅間温泉文化センター 文化・コミュニティ施設 松本市浅間温泉2-6-1		RC造 地上2階建て 延床 約3,432㎡ 設計：みねぎしやすお建築設計事務所	昭和50年 (1975)	昭和50年(1975)に開設した旧社会文化会館を平成11年に文化センターと本郷消防署に改修 設計：カミムラ建築研究室
NHK文化センター(旧NHK松本支局) 文化施設 松本市深志3-10-3	 松本市HPより(昭和36年撮影)	RC造 地上3階建て 延床 不詳 設計：不詳	昭和35年 (1960)	放送局は、令和6年(2024)から本町の信毎メディアガーデンに移転している
才能教育会館 教育施設 松本市深志3-10-3		RC+S造 地上5階建て 延床 約1,533㎡ (改修後の面積) 設計：山本良一建築研究所	昭和42年 (1967)	平成29年 (2017)頃耐震改修工事 設計：アーキディアック
日本キリスト教団松本教会 宗教施設 松本市開智２-3-45		RC造 地上2階建て 延床 約620㎡ 設計：岩井要(松本高等学校出身の教会建築家)	昭和44年 (1969)	

6　類例建造物

(2)類例建造物比較調査

1 比較対象建造物の概要

類例建造物の中から、同じ設計者であり文化施設である上田市民会館を抽出する。

名　　称：上田市民会館
用　　途：文化施設　ホール(1330席・オーケストラピット50人)
　　・会議室(大･中･小･和室合計5室)
構造規模：鉄筋コンクリート造地上2階建て
床 面 積：3,231.386㎡
設 計 者：石本建築事務所
施 工 者：藤森組(上田市)　※舞台設備工事：撫子産業(東京都)　家具工事：西武百貨店(同)
工　　期：着工 昭和37年(1962)12月～竣工 昭和38年(1963)10月
建 設 費：153,000,000円

2 上田市民会館の立地

上田市民会館は、旧松本市立博物館と同様、城郭の史跡内、二の丸に立地する。上田城は明治以降は、破却や城外への移築が行われて城内には石垣と櫓が１棟残るのみであったが、櫓２棟、櫓門や塀などが木造復元(櫓は再移築)された。二の丸内には、市民会館のほかに、野球場、市立博物館、招魂社などが置かれているが、上田市は、市民会館を解体し跡地を史跡本来の姿に復元する方針で、計画改訂では、市民会館跡地への武者溜り復元整備の目標を掲げている。旧松本市立博物館跡地も今後は城郭としての保存整備がされる予定である。

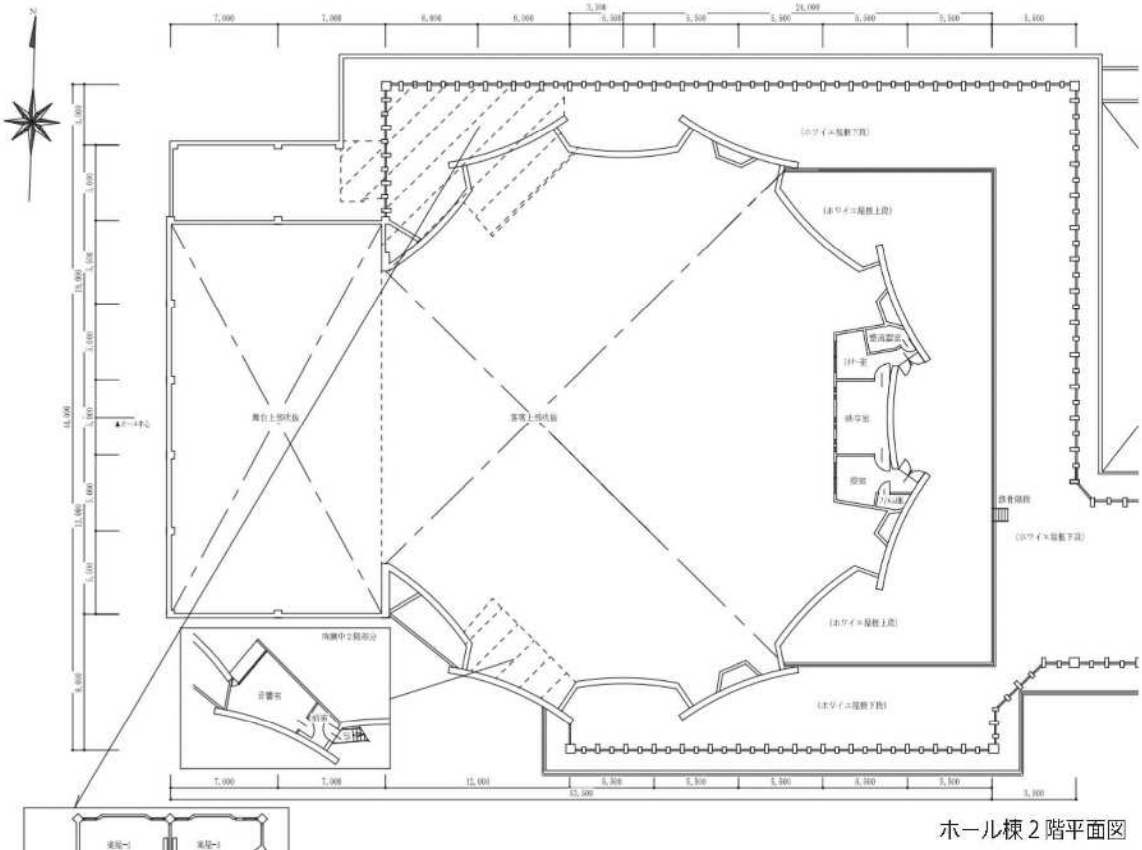
3 建物の特徴

上田市民会館は、上田城の築城380年祭を催すため、大正12年(1923)に建築された旧公会堂の跡地に計画された。旧松本市立博物館より４年ほど早く竣工している。

史跡としての公園の雰囲気を壊さないために、高さを抑える策としてメインホールを地盤面を掘り下げて計画、大きな面となる外壁を分節することで周囲とのスケール感に合わせた。

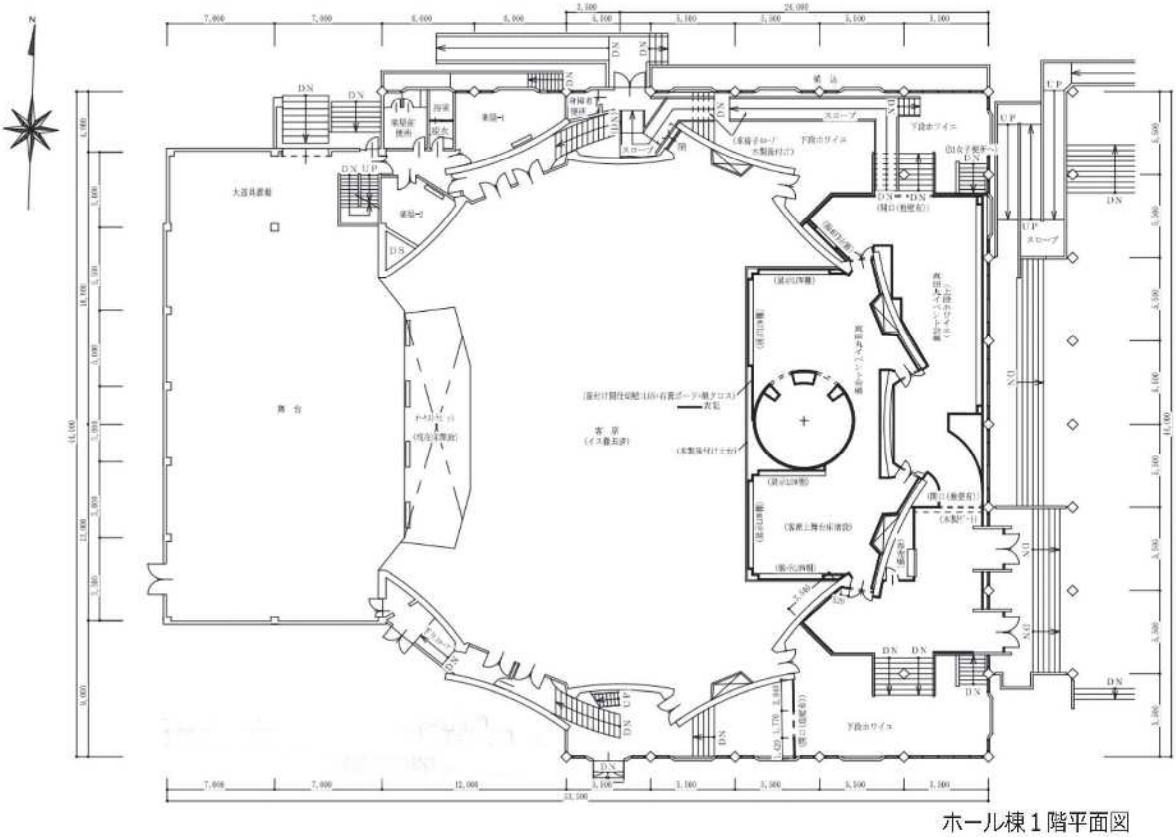
ホール棟と事務棟、回廊上のパーゴラで囲まれた中庭空間で構成されており、各棟への入口は中庭側に向いている。中庭が公園と施設の緩衝地帯となるとともに管理しやすい催事の場となっている。内部も大きな窓や吹抜けで自然光を採り込み、開放的な空間が創出されている。

1960年代のモダニズム建築の機能性や合理性の追求といった無駄のないシンプルな設計が建築的特徴でる。外観内観とも、杉の板型枠コンクリート打放し面や鉄骨などの素材感をそのまま見せ、建築の構造美を強調している。各室は効果的・効率的に配置され、それぞれの機能が明確である。敢えて音響に不利な円形型ホールを採用、対策として、菱形の特徴的なデザインの音響拡散パネルやホールの内壁を分節し曲面の向きを逆(内向)とした拡散壁を採用して、それが印象深いホール意匠となっている。

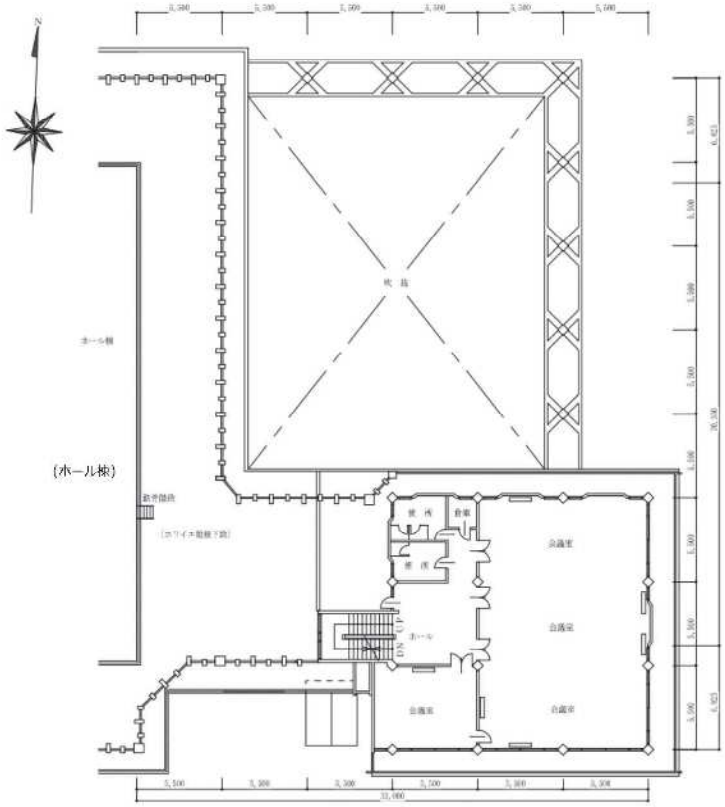


ホール棟２階平面図

上田市民会館現況図(令和7年2月)
(作成:(公益社団法人長野県建築士会
ヘリテージマネージャー協議会)



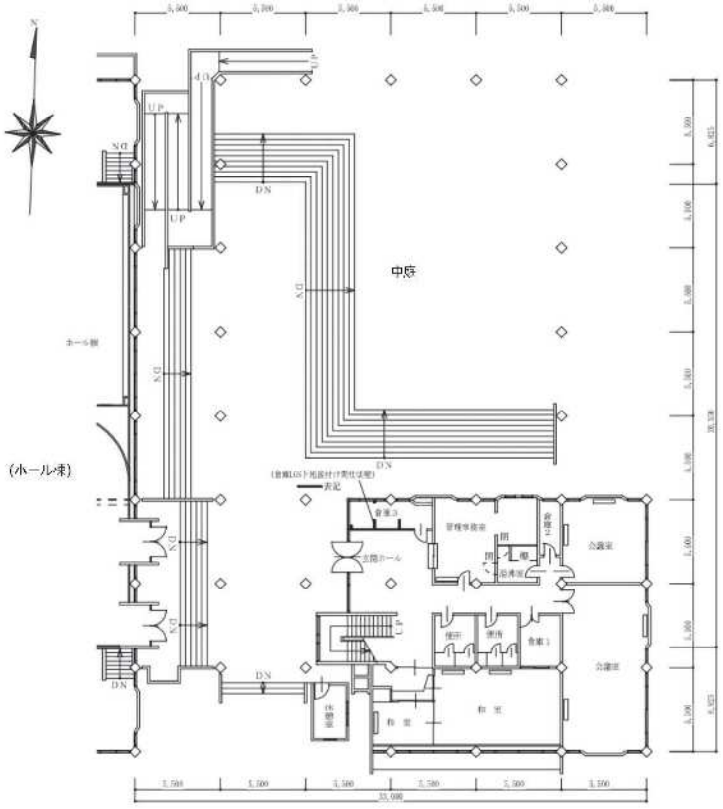
ホール棟１階平面図



事務棟２階平面図

上田市民会館現況図(令和7年2月)

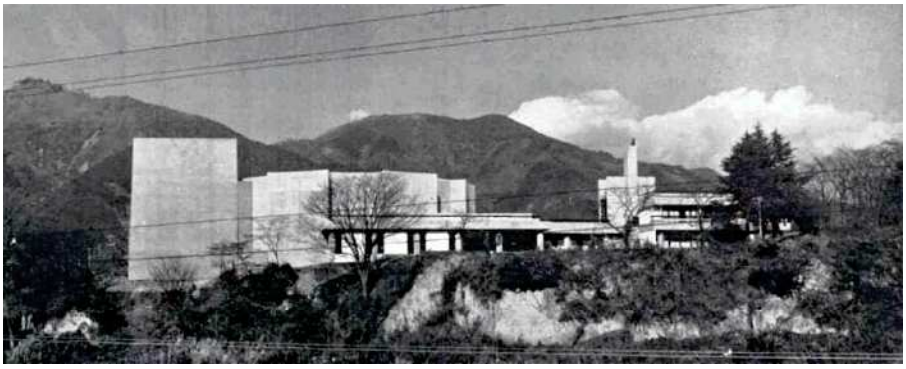
(作成:(公益社団法人長野県建築士会
ヘリテージマネージャー協議会)



事務棟１階平面図



上空より

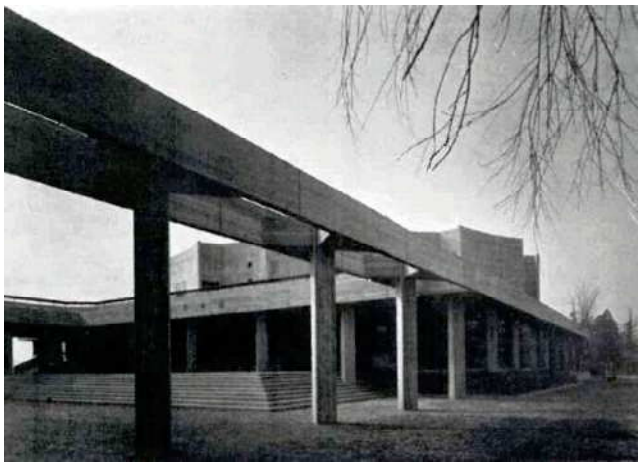


竣工当時　左：信越線からの風景

左下：エントランス

右下：公園入口より











左上：ホール棟外観　　上：ホール内観

左下：事務棟外観

上田市民会館の写真

(旧上田市民会館の記録保存のための調査報告書より)

7　まとめ

ここ数年、近現代建造物の老朽化による解体が進んでいる。黒川紀章の代表作とされる東京銀座のマンション、中銀(なかぎん)カプセルタワービルなど、著名な建築家の代表作とされるような建築物の中にも解体されてしまった事例が見受けられる。日本における組織事務所の走りである石本建築事務所の設計した庁舎等も、類例で挙げたように県内に有るが、上田市庁舎本館は令和３年(2021)に建て替えられ、上田市民会館は日本民俗資料館と時を同じくして解体作業に入る。

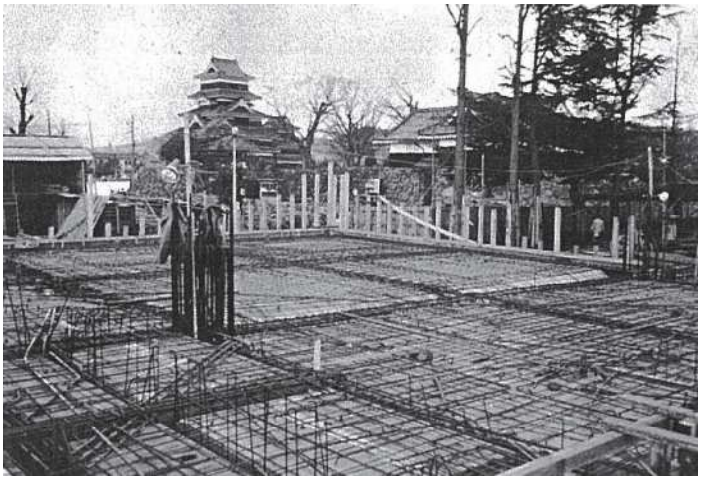
日本民俗資料館の１つの特徴であった北側のテラスからの入り口からのゾーン分け部分の閉鎖後は、入口は締め切られ、スロープ脇の松の木の枝がテラスの存在を隠してしまい、テラスがあることを知らない市民もいたようである。後年はほとんど活用されていなかったテラスやアルプスをバックにしたお城の眺望が楽しめる展望バルコニーが、この建物を市民に親しんでもらうための装置であり、肝であったことは間違いない。設計者の建物に対する想いと使用する側の効率を重視する考えの不一致が、この建物の後半を残念なものにしていたことが悔やまれる。

財団法人日本民俗資料館の理事長でもあった降旗徳弥市長は、建設に先立ち開催した講演会の序として、「永久建造物として建て替えて、新しく充実した内容の文化施設にすることが念願である」と述べている。永久建造物とはならなかったものの、半世紀の時を天守の傍らで送り、最後はマツモト建築芸術祭で有終の美を飾った。

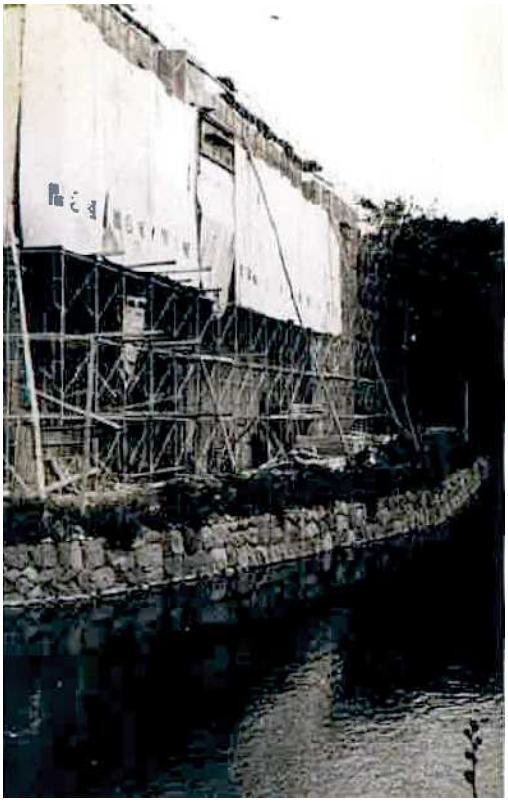
8　参考文献等

・『博物館100年モノ語り』　松本市立博物館(編集・発行)　　平成18年(2006)
・『博物館がみつめる松本』　松本市立博物館(編集・発行)　　平成27年(2015)
・『日本民俗資料館建設資金造成協賛企画』　信越放送㈱　昭和42年(1967)　松本市文書館蔵
・『郷土民俗資料関係調書報告書』　長浜市教育委員会　昭和42年(1967)　※1
・『民間伝承31(4)(279)　六人社(出版)　昭和42年(1967)　※1
・『市政17（全国市長会）』昭和43年(1968)　※1
・『旧上田市民会館の記録保存のための調査報告書』　令和7年(2025)
　公益社団法人長野県建築士会　ヘリテージマネージャー協議会
・『博物館の意義・(岡正雄講演会の記録)』　昭和42年(1967)　　日本民俗資料館(編集)
・『松本市立博物館重要民俗資料収蔵庫建設工事報告書』　昭和36年(1961)　松本市
・『日本民俗資料館新築工事竣工調書』　石本建築事務所 鈴木政右　昭和42年(1967)11月
・『日本民俗資料館　昭和41年～47年度』　日本民俗資料館(発行)
・『松本市立博物館収蔵庫改修工事 第二期工事特記仕様書』昭和48年(1973)㈱石本建築事務所
・『松本市立博物館　重要民俗資料収蔵庫　建設工事報告書』松本市　昭和36年(1961)
・『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌 別編(人名)』 昭和57年(1982)　同書郷土資料編纂会 編
・『国宝松本城』https://www.matsumoto-castle.jp/
・『石本建築事務所HP　会社情報(沿革：ISHIMOTOのあゆみ)』
・『安藤ハザマ HP　会社情報(沿革：安藤ハザマのあゆみ：1873年ー2012年)』
・『岡正雄』『岡茂雄』https://ja.wikipedia.org/wiki/(岡正雄)(岡茂雄)
・『上田市の教育』平成25年度　(2012)　上田市教育委員会(発行)　※1
・『上田市公式HP』『軽井沢町公式HP』『下諏訪町公式HP』
※1：国会図書館デジタルライブラリーより

写真　　(1)施工時



１階スラブ配筋状況　　(昭和41年(1966)3月28日撮影)



東側 足場解体前　　(昭和42年(1967)8月)



空撮　　(昭和42年(1967)3月ころか)

左上：『日本民俗資料館昭和41～47年度』より転載
右上：『博物館100年モノ語り』より転載
左及び下：横山元信氏提供

左の写真の拡大



写真　(2)竣工時



『日本民俗博物館案内』より、民俗資料館外観



『重要民俗資料収蔵庫のしおり』より、収蔵庫外観



常設展示室(１階)



常設展示室(２階)





建設資金協賛者・スポンサー芳名銘板(エントランス前の大階段の北側にはめ込まれた)



競輪公益資金による補助金を受けた施設であることの表示

全ての写真：『博物館100年モノ語り』より転載

写真　(3)調査時



メインエントランス



館長室の飾り棚奥の壁紙



図書研究室



メインエントランス(切符売り場窓口を塞いである)



図書研究室のらせん階段



1階事務室(奥のガラス小窓が旧切符売り場窓口)



2階図書研究室



事務室ー図書研究室のらせん階段上部

写真　(3)調査時



1階展示室(民俗)・サッシ外が「中庭」



1階展示室(民俗)



1階中庭



1階中庭にある「ててまがりの井戸」(右は格子蓋の中)



トイレ



1階倉庫



壁時計

写真　(3)調査時



サブエントランス



サブエントランス風除室



ラウンジ(元バルコニーを屋内に改造)



廊下(廊下の突当りには開口部があり自然光で暗闇を回避している)



サブエントランスポーチ(テラス)

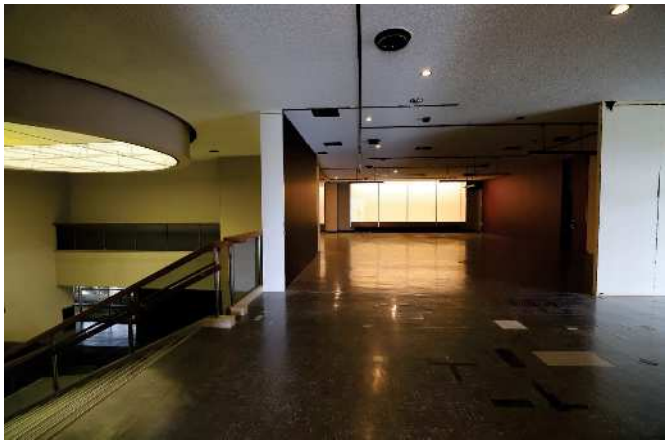


サブエントランスポーチ(切符売り場)

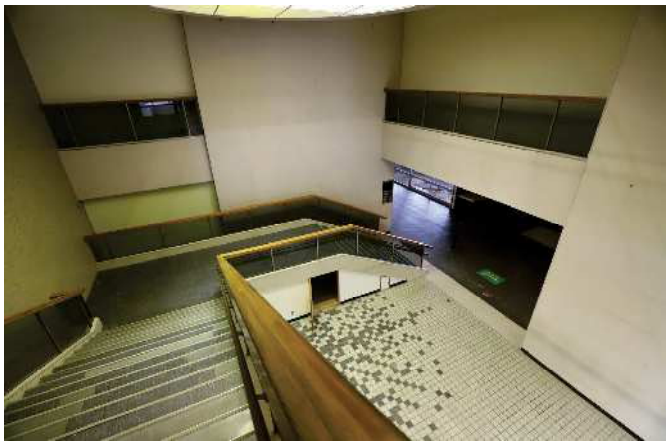


メイン階段ホールトップライト

写真　(3)調査時



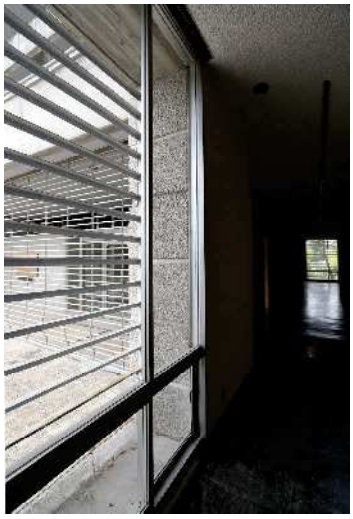
２階 階段ホール



２階 階段ホールから見下ろし

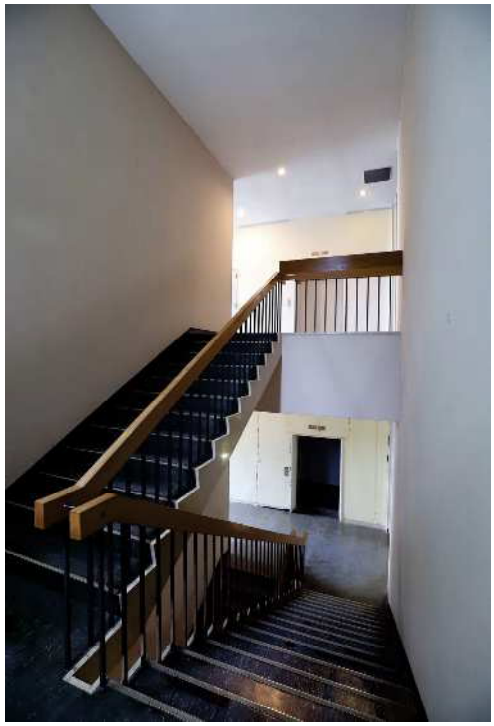


２階講堂



左：窓の外に格子

貴重な所蔵品の防盗難策として、プレキャストコンクリート製のルーバーや鉄格子で窓が護られている。



サブ階段



講堂西面の窓格子



講堂西面

（ガラスフィルムがなければお城が良く見えた）

写真　(3)調査時



２階 倉庫



地階 階段下倉庫



地階 荷解き室



地階 倉庫



地階 雑品庫



地階 公仕室



左写真の地階倉庫の電話機

写真　(3)調査時



地階 暗室



地階 倉庫(拡張した部分)



地階 倉庫(搬入口)



建設協賛スポンサー銘板



地階 燻蒸室



搬入口スロープ

写真　(3)調査時



地階 機械室



塔屋機械室(エレベーター機械室)



地階 技師控室　電気室へのドア



湿(温？)度監視盤



塔屋機械室(水槽室)



地階 ポンプ室(サブ階段下)



地階煙突下部



塔屋への上り口



煙突(屋上)



煙突(上部から)



煙突上部

写真　(3)調査時



外装(PCパネル･板型枠打放コンクリート･鉄格子)



搬入口スロープ入口門扉



北側ドライエリア



PCルーバー



PCルーバー及び、壁PCパネル下端



PCルーバー



PCルーバー端部



PCルーバー

写真　(3)調査時



トイレの換気フードは窓と併せて配置



開口部には防盗のための鉄格子



化粧目地打放コンクリート



展示ケース



化粧PC　(下:詳細)



階段横の植込(打放コンクリート)







〔P28〕　左：壁タイル(階段)　メイン階段手摺

写真　(3)調査時



通気塔



通気塔



収蔵庫屋上



収蔵庫入口



収蔵庫北面外観



収蔵庫　入口階段



収蔵庫内部(２階)



収蔵庫内部(１階)

10　解体中調査

解体工事中である、令和７年５月１９日の夕方、施工会社の協力のもと、解体中の調査を行った。躯体コンクリートの解体中の工程で、1時間ほど作業を止めて地上からの目視調査を行った。また、工事完了後、工事記録の写真を見せていただき、解体中の様子をいくつか抜粋した。

解体工事施工者の株式会社 共立解体　現場代理人 副社長御子柴氏にご協力いただいた。

●旧民俗資料館調査記録

・コンクリートは堅牢で、強力なパワーの重機が必要であった。そのため、予定よりサイズの大きなアタッチメントを使用した。その重さが4tであるため、それを装着するのに予定より大きな重機を入れることとなった。(御子柴氏談)

・主筋30φ以上の異形鉄筋が見受けられたが、25φくらいの丸鋼の鉄筋も主筋として使われている個所があった。

・主筋の圧接継手がみられた（すべての継ぎ手が圧接であったという事の裏付けではない）。

・太い丸鋼の端部が輪っか状に曲げて溶接されている物がいくつかあった。(用途不明)

・型枠は合板型枠ではなく板型枠が使用されていた。



解体風景



主筋の圧接継手



先端を曲げた太い丸鋼



板型枠の跡が見える躯体

・天井の下地組は、錆止め塗装されたアングル等鋼材に、軽量天井下地が使われていた。

・空調ダクトには保温材が施工されていた。※当初からのものかは不明

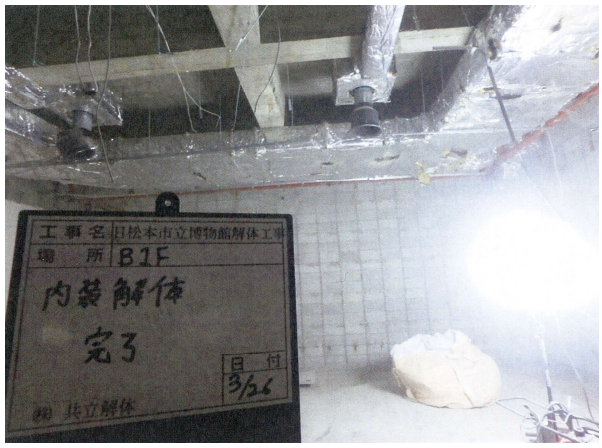
・排水管にも保温材が施工されていた(結露防止と遮音効果)※当初からのものかは不明

・屋根の仕上げ鉄板の下には、防水紙とアスファルト防水層(t15㎜程度）があった。

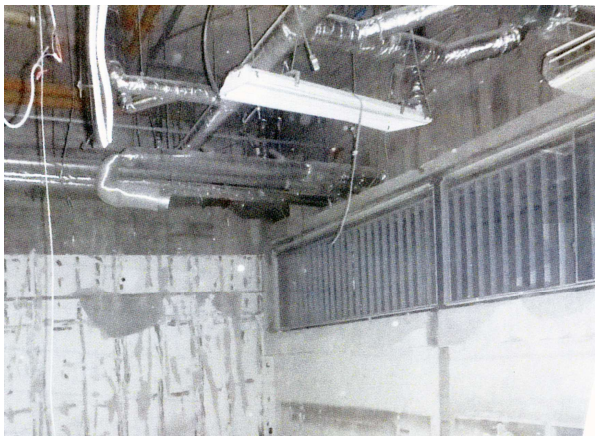
・ＰＣ化粧板の取付部分は、躯体埋込アンカーにアングルピース取付であった。



天井下地　(地階清掃夫室)



天井裏 空調ダクト施工状況



天井裏 排水管施工状況



屋上 アスファルト防水紙、アスファルト防水層



外壁打込みアンカー+アングルピース



外壁PC版取付部分(左写真部)

・ＰＣ化粧板の構成は2層で、下層はセメント色、表層は白セメントが使用されていた。

・ＰＣ化粧板にはワイヤーメッシュが入っていた。



外壁PC化粧板の断面(左側が表層)



外壁PC化粧板

●重要民俗資料収蔵庫調査記録【解体工事中に調査日が確保できなかったために、施工業者から提出された工事記録写真より抽出した】

・改修工事図面どおり、外壁躯体の内側にグラスウール断熱材が施工されていた。

・屋上の砂利が敷きの下には、アスファルト防水層が施工されていた。



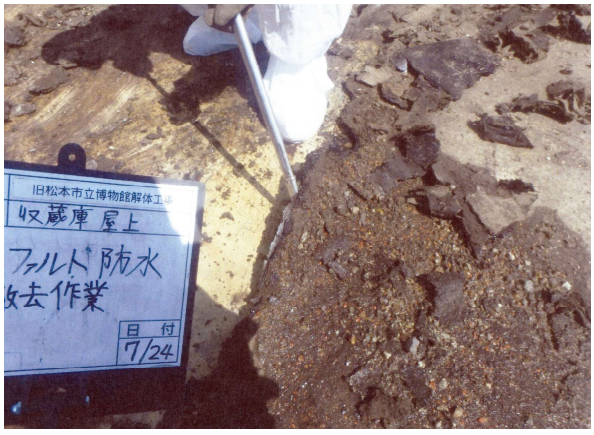
外壁解体　軽量下地、グラスウール



躯体解体



躯体解体



屋上アスファルト防水

●重要民俗資料収蔵庫の、建設に至るまでの経過

建設に至るまでの経過

1.	35. 5.13	5月10日付県教育委員会より収蔵庫建設費の国庫補助内定通知あり（補助額133万8千円）
2.	〃 6.21	国庫補助申請が県費補助確定及び市会議決を俟たねばならぬため、遅れる旨、県教育委員会へ報告。
3.	〃 7.19	県教育委員会より県費補助40万円確定（6月県会議決）通知あり。
4.	〃 10.13	市議会に於て収蔵庫建設予算議決
5.	〃 10.26	国庫補助申請書、県費補助申請書を提出（一旦返戻となり11月5日再提出）
6.	〃 10.27	国庫補助金額150万円に増額の予報あり。
7.	〃 11. 2	市会、文教厚生委員会へ建設費追加更正予算について諮る。
8.	〃 11.22	文化財保護委員会より国庫補助申請書添付の設計図について修正指示あり。
9.	36. 1.17	文化財保護委員会、記念物課、史蹟主査、黒板昌夫技官、位置指示のため出張さる。
10.	〃 1.18	1月14日付、国庫補助金額150万円の内定について松筑教育事務所長より通知あり。
11.	〃 〃	県有地内の現状変更申請書提出。（2月　　日認可）
12.	〃 1.20	史蹟松本城現状変更申請書を提出
13.	〃 1.26	市会、文教厚生委員会に建設位置決定について諒解を求める。
14.	〃 1.27	市会、総務委員会に経過を報告、競争入札に付することにつき同意を求める。
15.	〃 2.17	建設請負に関する現場説明
16.	〃 2.23	入札、株式会社　原組へ落札
17.	〃 2.25	起工式挙行
18.	〃 3.10	国庫補助金交付決定通知書送達される。
19.	〃 〃	県費補助金交付決定通知書送達される。
20.	〃 3.14	着工届を送付
21.	〃 4.21	建設工事実績報告書提出

出典：『松本市立博物館重要民俗資料収蔵庫建設工事報告書』　昭和36年(1961)　松本市

●重要民俗資料収蔵庫の、改修に関わる新聞記事



昭和48年3月31日(土曜日)
信濃毎日新聞

受け入れは決まったが…松本の民俗資料館

松本市の日本民俗資料館脇と問題の収蔵庫（左の小さな建て物）

貴重な古時計
〈本田コレクション〉

収蔵庫 公開はムリ
からむ改造の経過 「持ちぐされ」嘆く声

受入れは決まったが…松本の民俗資料館

「本田コレクション」として知られる珍しい和洋古時計を、持ち主の諏訪市大手二、本田親蔵さんから寄贈されることになっていた松本市は、日本民俗資料館脇の収蔵庫(本来は市立博物館の建物)で、を改造して受け入れることになった。しかし、収蔵庫は小さいうえ、改造に至るまでの経過が絡み、あくまで保管倉庫としての機能しかなく、当面、古時計の常時一般公開はムリとなった。このため一部からは「せっかくの財産が、"宝の持ち腐れ"になる」と嘆く声が出ている。

…寄贈の申し出に大喜びした松本市は、資料館脇の収蔵庫(本来は市立博物館の建物)で、これらの古時計展示を考慮。資料館と収蔵庫を渡り廊下で結び、資料館入館者にも観覧してもらう意向だった。ところが、一帯は松本城前で史跡指定地(県有地)。渡廊下を造ることは史跡の原状変更になり、これに県文化課と文化庁が「まかりならん」と待ったをかけた。これには資料館建設の際、市側が「今後増改築しない」との約束を県などにしていた経過もあった。 このため、市はやむなく渡廊下案をあきらめ、収蔵庫の内部を改造して古時計を収容することに計画を変更。このほど文化庁から内諾を得た。この収蔵庫は鉄筋コンクリート平屋、高床造りで約100㎡しかない。市は1500万円の工事でこれを中二階にして収蔵スペースを約二倍にする。工事は4月から始めて7月いっぱいで完成させる計画。ところが、収蔵庫は渡り廊下がダメになったため、資料館入口とは40m離れた独立の建物になってしまう。従って、別に受付の人員を配置しなければ一般の入場はできず、まして小さいため団体客がぞろぞろ入ることは不可能。さらに収蔵庫建設に補助金を出した文化庁は「収蔵庫は展示館ではない」との見解を示しており、市も当面、収蔵庫での一般公開を断念せざるを得なくなった。

館長の話：当面は寄贈の受け入れが第一段階なので収蔵庫を改造する。300年も昔の時計があり、精密機械だから保管にも条件がいろいろある。展示公開は今後検討する問題だ。

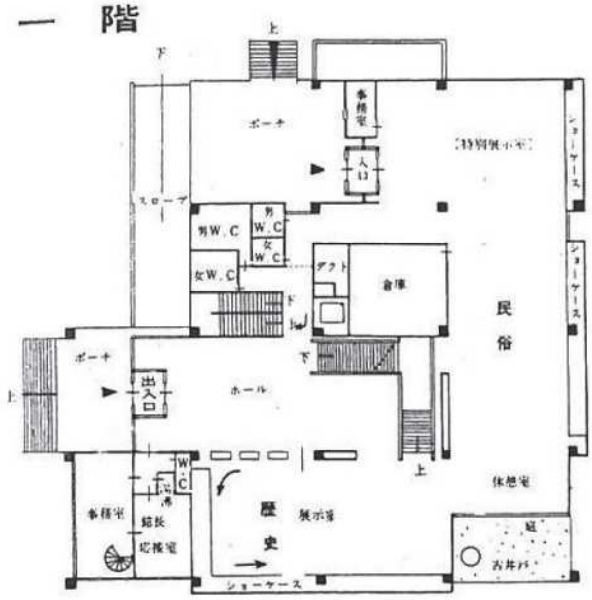
出典：『信濃毎日新聞昭和48年3月31日』　昭和48年(1973)　信濃毎日新聞データベースより

●日本民俗資料館の開館当初平面図

二　階



一　階



地　階



出典：『日本民俗資料館　昭和41年～47年度』　日本民俗資料館(発行)

●竣工時の内部面積

部　門	面　積		比　率	備　考
展　示	地階 161.9 2階 609.1	1階 579.2 ㎡ 計 1,350.2	408.4 坪	41.44 %	展示室
管　理	地階 304.9	1階 97.2 計 402.1	121.6	12.34	機械，電気，管理員室，事務室，応接室，湯沸室
研　究		155.0	46.9	4.76	研究図書室
教　育		176.8	53.5	5.43	講堂，会議室
収　蔵	地階 122.1 2階 64.3	1階 53.3 計 239.7	72.5	7.36	倉庫，雑庫，荷解室
収集・整理		25.9	7.8	0.79	暗室，くん蒸室
階段・廊下 そ　の　他		934.1	276.0	27.88	階段，廊下，バルコニー，テラス，スロープ，便所他
計		3,265.7	987.9	100.00	

出典：『日本民俗資料館　昭和41年～47年度』　日本民俗資料館(発行)

●平成18年当時の内部面積

1　施設の概要（本館）
（1）敷地面積　5,905.49㎡（1,789.54坪）
（2）建築面積　1,331.53㎡（403.49坪）
（3）工　　期　昭和41年10月1日～昭和42年10月10日
（4）構　　造　鉄筋コンクリート造・地下1階・地上2階・塔屋付



2　部門別面積
（1）本館

部　門	総面積（㎡）	比　率	内　訳	（㎡）
展　示	1,400.0	40.96%	地階展示室	339.8
			1階展示室	507.2
			2階展示室	553.0
収　蔵	298.5	8.73%	地階収蔵庫	118.1
			1階収蔵庫	49.6
			2階収蔵庫	47.0
			地階倉庫（旧薫蒸室）	14.4
			地階倉庫（旧暗室）	9.0
			事務室下倉庫	60.4
教　育	207.5	6.07%	講堂	161.3
			休憩室・情報コーナー	46.2
研　究	138.2	4.04%	研究図書室	138.2
事　務	128.2	3.75%	館長室	29.8
			事務室	46.1
			技師室	13.5
			受付・売店	38.8
管　理	225.2	6.59%	機械室	170.9
			電気室	34.5
倉　庫	185.4	5.42%	塔屋	19.8
			荷解室	54.4
			書庫	16.5
			その他倉庫	114.5
その他	835.3	24.44%	更衣室・トイレ・廊下・階段・エレベーターほか	835.3
合　計	3,418.3	100.00%		

（2）重要有形民俗文化財収蔵庫

収蔵	153.00	87.5%	
その他	21.95	12.5%	機械室・風除室
別館合計	174.95	100.0%	

出典：『博物館100年モノ語り』　松本市立博物館(編集・発行)　　平成18年(2006)

●日本民俗資料館 竣工時の施設の概要

(1) 建物の概要

1．建設場所	松本市丸の内4番1号（松本城二の丸跡）
2．工期	自昭和41年10月1日～至昭和42年10月10日
3．構造	鉄筋コンクリート造り：地下1階・地上2階・塔屋付
4．敷地画積	5,905.49㎡（1,786坪41）
5．建築画積	1,331.53㎡（ 402坪79）
6．延床面積	3,265.73㎡（ 987坪89）
	内訳： 地階 949.61㎡（287坪26） 1階 1,112.02㎡（336坪39）
	2階 1,157.46㎡（350坪13） 塔屋 46.64㎡（ 14坪11）

(2) 設備の概要

1．受電設備	受電電圧――3相，6600KV，60%
	内訳： 電灯――3相単線式，100V，60% 動力――3相3線式， 60%
2．直流電源設備	直流整流器24V，15A，バッテリー（6V，60AH，PGS型），非常灯配置
3．電話設備	8回線可能（ボタン電話切換装置），インターホン12回線
4．盗難警報設備	各ケース内に超音波警報器―レーダーアイ（3ゾーン），ミニットマンⅡ（1ゾーン）設置，ニューホームポリス装備
5．自動火災報知設備	1級受信機，副受信盤
6．BGM放送設備	全館BGM放送（8トラック）
7．一般放送設備	主に全館緊急呼出用
8．非常放送設備	主に全館の避難，誘導，緊急放送等
9．非常警報設備	ロッカー型，防災アンプ装備および非常電源内蔵
10．講堂放送設備	ポータブル型，出力10W
11．昇降機設備	荷物用エレベーター1台，1000kg，30m/m I
12．給排水設備	高置水槽 2000ℓ 1基，膨張水槽 2000ℓ 1基，揚水ポンプ 3.7kW 3台，雑排水中ポンプ 1.5kW 2台，汚水竪形ポンプ 3.7kW 2台
13．消火栓設備	各階2カ所消火栓設備，消火ポンプ 7.5kW
14．焼却炉設備	自然式焼却炉設備
15．井水設備	水中ポンプ 15kW，井水ポンプ 3.7kW 各1台
16．ガス設備	都市ガス
17．空気調和設備	全館，セントラル系統・事務室系統・倉庫系統に分ける。冷凍機設備，ボイラー設備，空気調和機，ファンコイルユニット，オートロールエアフィルター設置
18．換気設備	機械室給排気ファン，便所排気ファン，湯沸室排気ファン，中間期排気ファン，燻蒸室排気ファン，倉庫排気ファン，事務室排気ファン
19．避雷針設備	

(3) 総工費 2億円

出典：『日本民俗資料館 昭和41年～47年度』 日本民俗資料館(発行)

●取得価格

※上記の総工費は、調査費、備品費、事務費雑工事費などを含む

建物：125,558,000円 電気設備：17,661,000円 空調調和設備：25,388,000円
衛生設備：9,535,000円 消火設備：1,405,772円 暖房設備：4,798,000円
昇降機設備：5,626,000円 （合計：188,438,772円）

出典：『日本民俗資料館 昭和41年～47年度』 日本民俗資料館(発行)

●メーカー(納入業者)リスト、行った試験のリスト

昭和42年11月　日本民俗資料館新築工事　『竣工調書』　石本建築事務所(鈴木政右)　より、転記

6.各メーカーリスト　　(竣工調書：№19-26)

A.建築工事

工事区分	業者	住所
弋工事	尾藤組	愛知県渥美郡田原町神田深田46
土工事（骨材重機）	塚原石産興業	南安曇郡豊科町田沢字町田
シートパイル	広瀬鋼材KK	名古屋市中村区小鳥町19
コンクリートパイル	羽田コンクリート	南安曇郡豊科町髙家区飯田
杭打工事	松和重機	名古屋市昭和区五軒家町2の7
生コンクリート	昭和産業	松本市大字芳川野溝字東原85の1
仮枠工事	田中工務店	松本市埋橋1650
鉄筋工事	萩野鉄筋	松本市元原町2148
異型鉄筋	東芝製鋼	東京都足立区新田3丁目23の1
普通鉄筋	北越メタル	新潟県長岡市蔵王3丁目3の1
アスファルト防水工事	羽多野産業	松本市北深志2丁目3番35号
ー)	田島応用化工	東京都千代田区神田岩本町13
マイシール防水	東都化成	東京都江戸川区船橋2の15の4
モルタル防水（メーカー）	国際工材	東京都千代田区内幸町1の1
石及プレコン工事	関ケ原石材KK	名古屋市千種区髙見町6丁目2の65
プレキャストコンクリート（メーカー）	旭プレコンKK	塩尻市緑ヶ丘
コンクリートブロック	信州軽石ブロック	豊科町大字髙家
ベンチレーションブロック	木下工業	東京都墨田区江東橋4の32
レンガ、耐火レンガ施工	信州建材	松本市庄内3丁目4番60号
レンガ、耐火レンガ（メーカー）	日東ヨーギョー	愛知県刈谷市寿町2の2
木工事	田中工務店	松本市埋橋1650
木工事（材料）	松本林友木材	松本市渚388
木工事	髙島屋	名古屋市中村区笹島町1の221の2豊田ビル
アルミ製建具	昭和コーニア	東京都千代田区神田1丁目13番7号
鋼製建具	東京建鉄	東京都板橋区志村町1の17
ステンレス製建具	田島順三製作所	東京都板橋区前野町6の2（新潟市東大通1の12北陸ビル）
シャッター	東洋シヤッター	東京都墨田区錦糸町1の23
木製建具	安藤木工	松本市逢初町
ガラス工事	伊藤ガラス	松本市城東2丁目7番23号
ガラス工事（メーカー）	旭ガラス	名古屋市中村区笹島町1の221
鋼製金物	花村産業	松本市庄内2丁目5番47号
ステンレス手摺	田島順三製作所	東京都板橋区前野町6の2
建具金物	岡野金物店	松本市本庄1丁目5番地16号
建具金物	美和商事	東京都港区芝3丁目1番地
建具金物	森岡商店	東京都中央区日本橋茅場町2の13
トップライトルーバー	日立化成	東京都千代田区丸の内1の4新丸ビル
物	中博光商店	東京都千代田区神田多町2の11
館名文字、ノンスリップ	中博光商店	東京都千代田区神田多町2の11
左官工事	松田左官店	松本市中条西□668の16
フェロコン	ABC商会	新潟市東仲通2の280
内装工事（全般）	羽多野産業	松本市北深志2丁目3番35号
天井工事	助友建材工業	東京都荒川区東尾久6の10の3
プラスターボード	吉野石こう	東京都千代田区丸の内3の2新東京ビル
吸音テックス	大建ウォールボード工業	大阪市北区中の島2の22

フレキシブルボード	浅野スレート	静岡市こん屋町11の1
床タイル	積水化学	大阪市北区宗是町1大阪ビル
床タイル	田島応用化工	東京都千代田区神田岩本町13
ビニール巾木	田島応用化工	東京都千代田区神田岩本町13
オリエンタルクロス	うつみ	東京都中央区日本橋小伝馬町3の2
ヘッシヤンクロス	川島	東京都中央区日本橋小伝馬町1の4
ヘンプクロス	川島	東京都中央区日本橋小伝馬町1の4
ビニールクロス	共和レザー	東京都墨田区京島1の39の7
タツムラクロス	タツムラ美術織物	東京都中央区日本橋通り2の4
カーペット	敷島紡績	大阪市東区備後町4の34
ゾノライト	大建建材	東京都新宿区花園町46
岩綿	長野日アス鉱ロン	松本市旭1丁目5の3
タイル工事	信州建材	松本市庄内3丁目4番60号
75モザイクタイル	伊奈製陶	愛知県常滑市扇面新田
クリンカータイル 特殊モザイクタイル	日本陶管	東京都中央区日本橋江戸橋3丁目7峯峯ビル
塗装工事	立石塗装	松本市大橋通り
塗料	関西ペイント	大阪市東区伏見町5の27
ステンレス流し	サンウェーブ工業	松本市中央3丁目5番5号
畳	丸山製畳	松本市中央1丁目
クリーニング	日建整美	名古屋市中村区髙道町5の2の27
サッシュコーキング	ABC商会	新潟市東仲通2280

B.電気設備工事

工事区分	メーカー/代理店	住所
電線ケーブル類	昭和電線/応用電気	東京都港区赤坂1-4-1
電線管	■陽工業/直接	東京都港区芝浦2-16-14
同上付属品	共同電気/直接	東京都港区麻布南日ケ窪
照明器具	山田照明/直接	東京都千代田区外神田3-16-12
配線器具	松下電工/三光電気	松本市深志3-10-13
高低圧配電盤	富士電材/信州電材	松本市中央4-5-38
動力制御盤	同上	同上
電灯分電盤	同上	同上
端子盤	同上	同上
NFB	日幸電気/信州電材	同上
電磁開閉器	富士電材/信州電材	同上
計器	横川電機/信州電材	同上
変圧器	日立製作所/信日材電	松本市高宮町109
進相用コンデンサー	松下電器/信日材電	同上
電気時計	ＴＩＣ/直接	東京都新宿区下宮北町1
放送材機	松下通信/サスナカ通信	松本市大手2-9-17
テレビ共聴	同上	同上
盗難警報	松下電工/サスナカ通信	同上
インターホン	同上	同上
蓄電池/充電器	神戸電気/赤次電材	松本市深志1
火災報知器	能美防災/直接	東京都千代田区九段町44
避雷針	村田電機/直接	東京都港区1-2-5
益面継電盤	立石電機/信州電機	松本市中央4-5-38
継電器	同上	同上
セレクタースイッチ	松下電工/三光電気	松本市深志3-10-13
プレート類	同上	同上

C.空調・給排水・衛生設備設備メーカーリスト

工事区分	メーカー	住所
鋼管類	協成工業名古屋営業所	名古屋市昭和区鶴舞町
鋼管継手	大嶽商店	名古屋市中村区下笹島町1丁目
同類	同上	同上
同類	東海物産	名古屋市中区矢場町2-15
登記及び付属金物	指兼KK	名古屋市中区西瓦町14
鋳鉄製品	大嶽鋳興行	名古屋市中区向田町77
消火栓類	大石商事名古屋出張所	名古屋区中区那古野町
ポンプ類	神野製作所	名古屋市北区杉村町8-10
ヒューム管	中川ヒューム管工業	松本市島内西河原6931
焼却炉	不二ボイラー中部営業所	名古屋市昭和区吸場町215
高架水槽	朝日化産業	名古屋市中村区広末町大名古屋ビル
湯沸器	松本ガス設備	松本市渚316
鋼鈑タンク	サカエ工業	名古屋市南区笠寺町
ヘッダー類	赤堀鉄工所	名古屋市中村区岩塚町
ウォータークーラー	管原商会名古屋営業所	名古屋市中区松島町4
ターボ冷凍機	同上	同上
ボイラー及びバーナー	前田鉄工所名古屋営業所	名古屋市東区森下町33
真空給水ポンプ	同上	同上
ｵｲﾙｻｰﾋﾞｽﾀﾝｸ及びｷﾞﾔﾎﾟﾝﾌﾟ	同上	同上
空気調和器	東洋製作所名古屋営業所	名古屋市中区新栄町1-6中日ビル
ファンコイルユニット	同上	
吹出・吸込口	エアーコントロール	東京都港区新橋4-7-8
熱交換器	東洋製作所名古屋営業所	名古屋市中区新栄町1-6中日ビル
送風機	ミツヤ送風材名古屋営業所	名古屋市中村区鈍池町1-24
オバール流量計	名古屋朝日物産	名古屋市中区錦3丁目センタービル
換気扇・シロッコ	日興産業	名古屋市中区東新町日興ビル
エアロスポット	エアロマスター名古屋営業所	名古屋市中区下広井街3-15
オートロールフィルター	日本空調サービス	名古屋市中区新栄町1-6中日ビル
自動計器類	東海物産	名古屋市中区矢場町2-15
監視盤	同上	同上
(下請施工関係)		
ダクト工事	進和工業所	名古屋市瑞穂区浮島町2-315
断熱工事	住栄工業所	名古屋市中村区下米野町2-14
塗装工事	立石塗装店	松本市大橋通1300
電気工事	関東電気工事	松本市埋橋1-1-10
鑿泉工事	奥村鑿泉	名古屋市中村区太閤通4-1

どのような材料、設備機器等が使用されたか、どのような業者がかかわったかが窺える資料として添付。

11.試験成績書　　（竣工調書：№35-37）

A.建築工事

コンクリート試験成績書
杭打ち実績所
鉄筋試験成績書(引張他)
鉄筋圧接試験成績書

B.電気工事

電圧受電盤試験成績書
高圧電灯動力盤試験成績書
高圧夏期動力盤試験成績書
電灯動力盤試験成績書
夏期動力盤試験成績書
空調動力盤試験成績書
各階分電盤試験成績書
試自動定電圧整流器験成績書
PGS4-6形蓄電池試験成績書
絶縁抵抗測定試験
ケーブル及び電気室静圧試験
接地抵抗測定試験
遮断機試験

C.空調・給排水・衛生設備設備工事

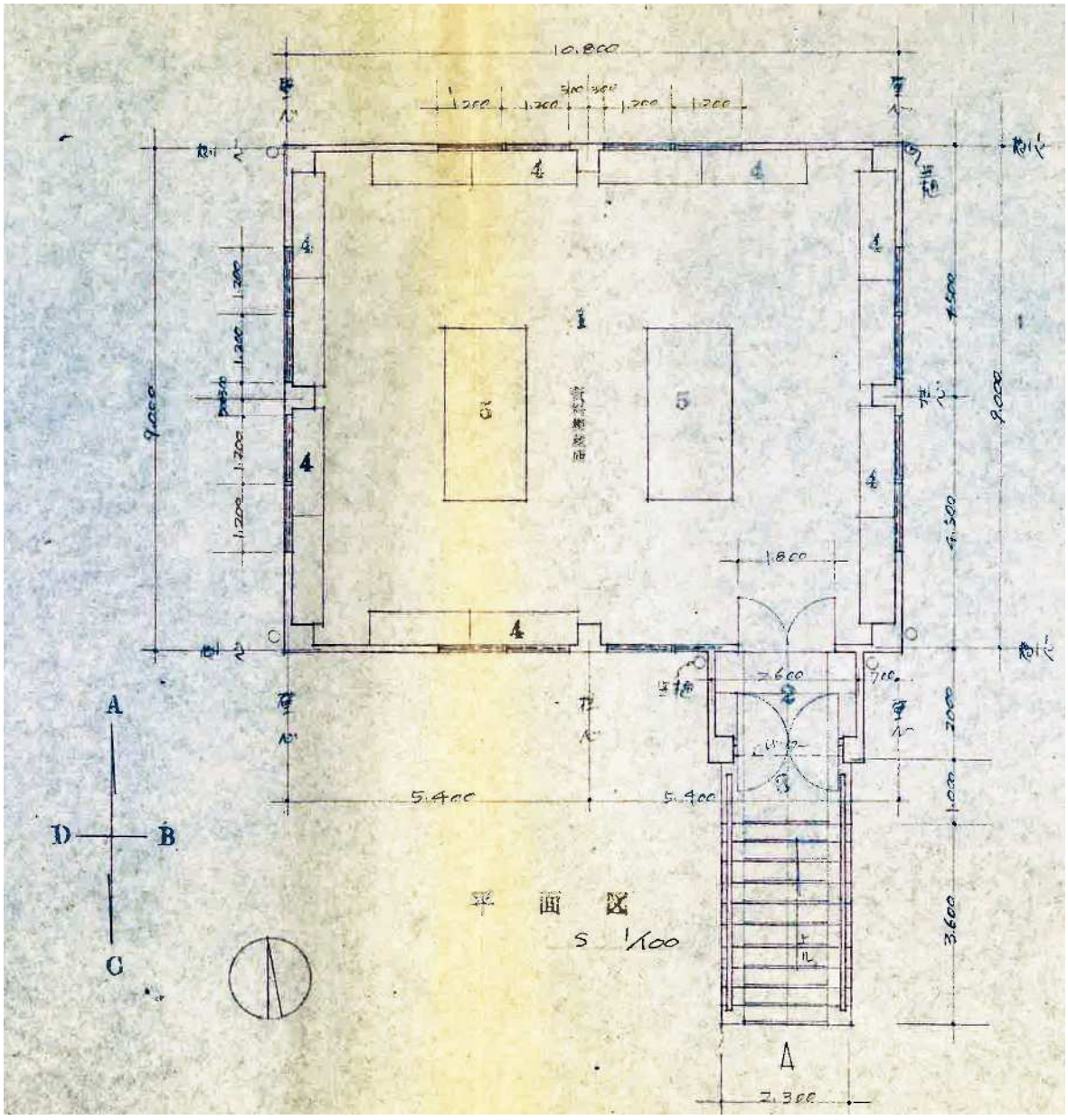
上水揚水ポンプ試験成績書
井水揚水ポンプ試験成績書
消火ポンプ試験成績書
汚水水中ポンプ試験成績書
型汚物ポンプ試験成績書
井水ポンプ試験成績書
井水水中モーターポンプ試験成績書
加圧用ポンプ試験成績書
冷却水ポンプ試験成績書
冷水ポンプ試験成績書
冷温水ポンプ試験成績書
真空給水ポンプ試験成績書
ボイラー検査証
オイルバーナー試験成績書
放熱器水圧試験表
オートロールフィルター試験成績書
送風機試験成績書
ユニットコンディショナー試験成績書
温度指示計試験成績書
井水揚水記録表
ターボ冷凍機試験成績書

D.エレベーター設備工事

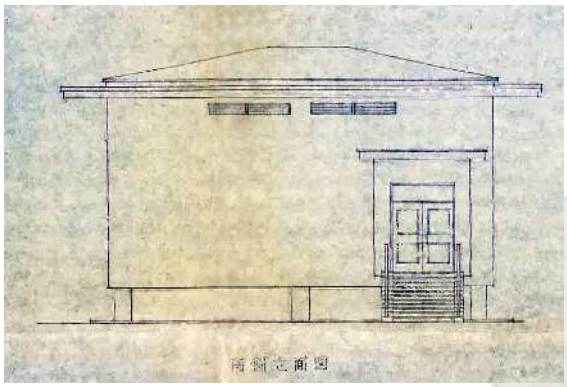
竣工検査記録表

どのような設備機器等が使用されたかが窺える資料として添付。

●重要民俗資料収蔵庫当初設計図



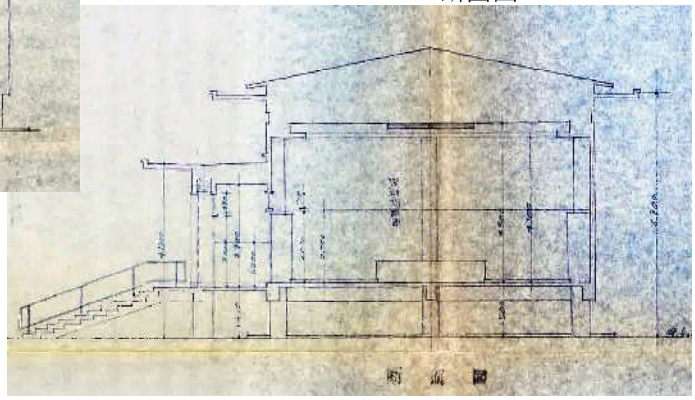
平面図



立面図

※階段は西へ向きを変えて造られた。

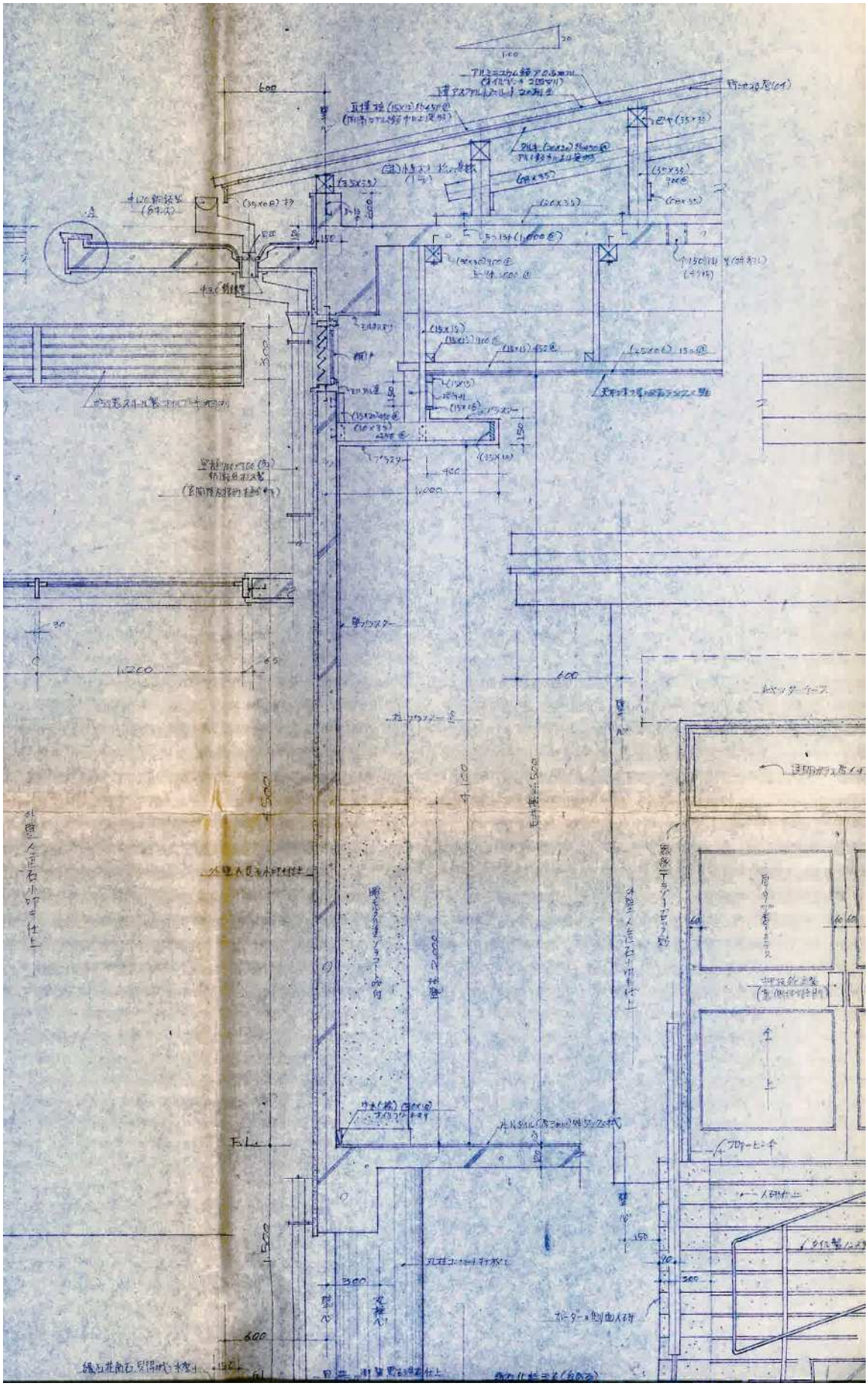
断面図



〔資料図面－1〕

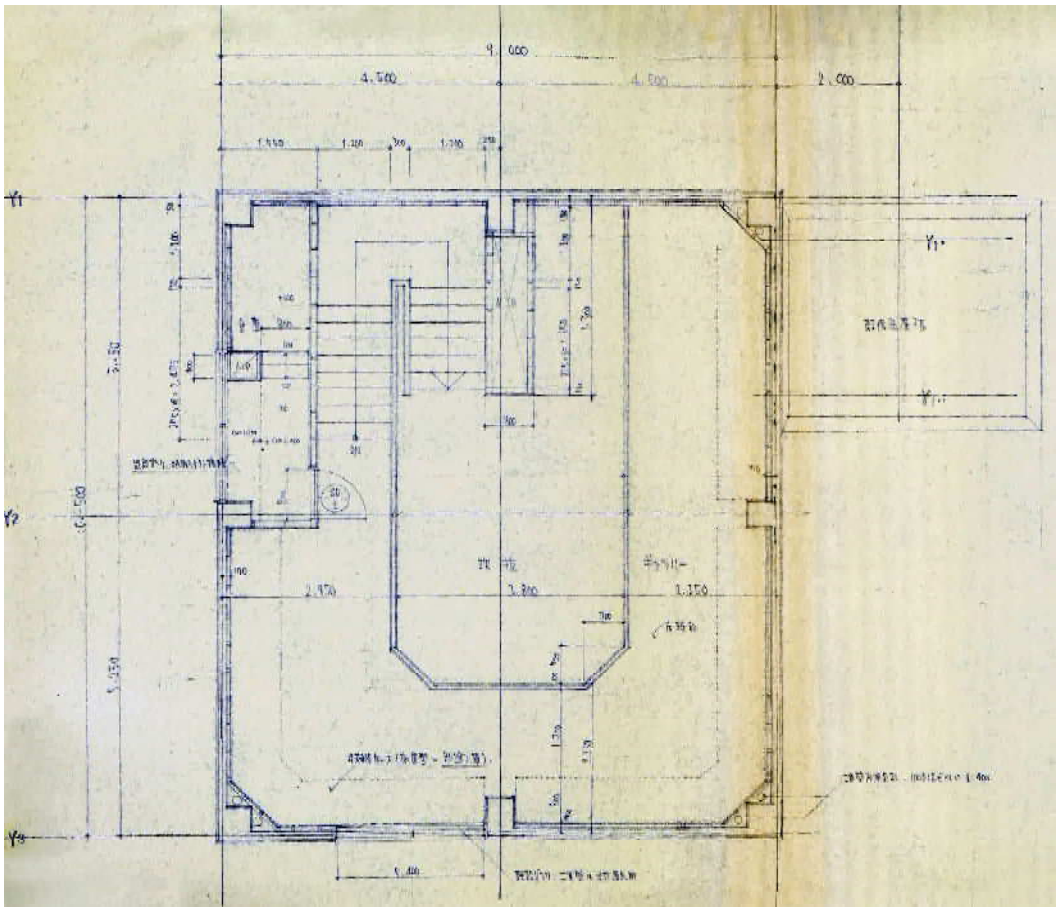
●重要民俗資料収蔵庫当初設計図

矩形図　　断熱材は無く、天井裏の換気は自然換気。置き屋根→陸屋根に変更された。

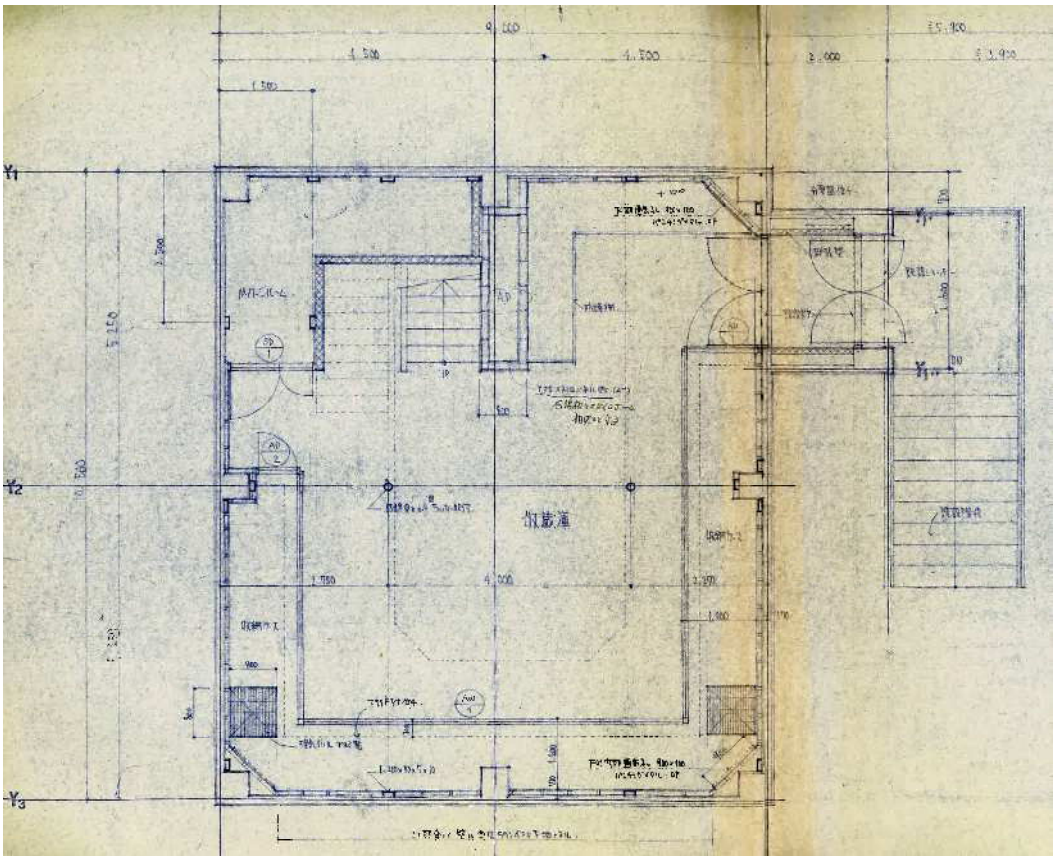


〔資料図面－2〕

●重要民俗資料収蔵庫 昭和47年改修設計図



2 階平面図　　内部に鉄骨造の中二階を増床、機械室を階段下に設け空調を完備した。

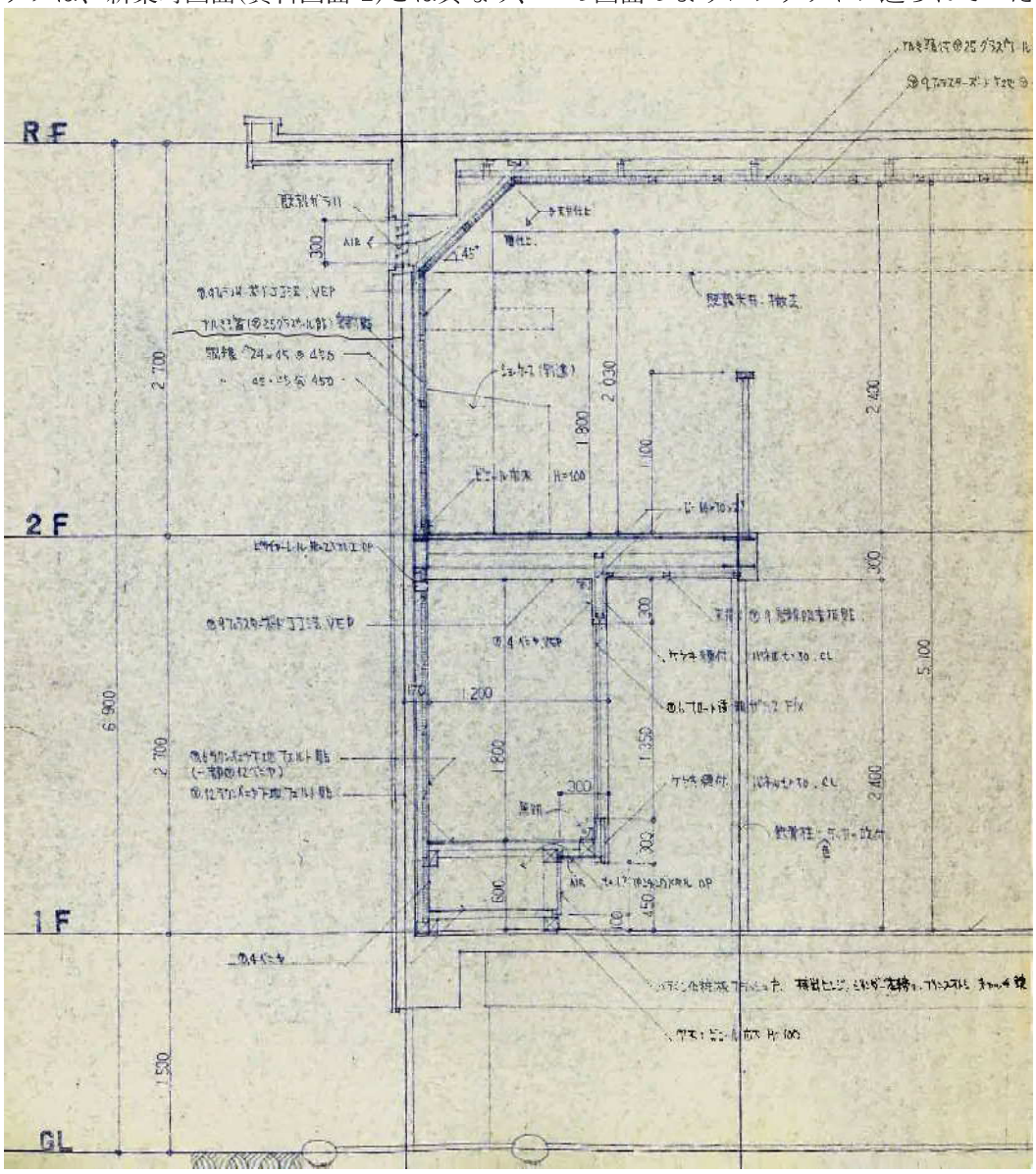


1 階平面図　　貴重な古時計コレクションを収納するケースが造付けられた。

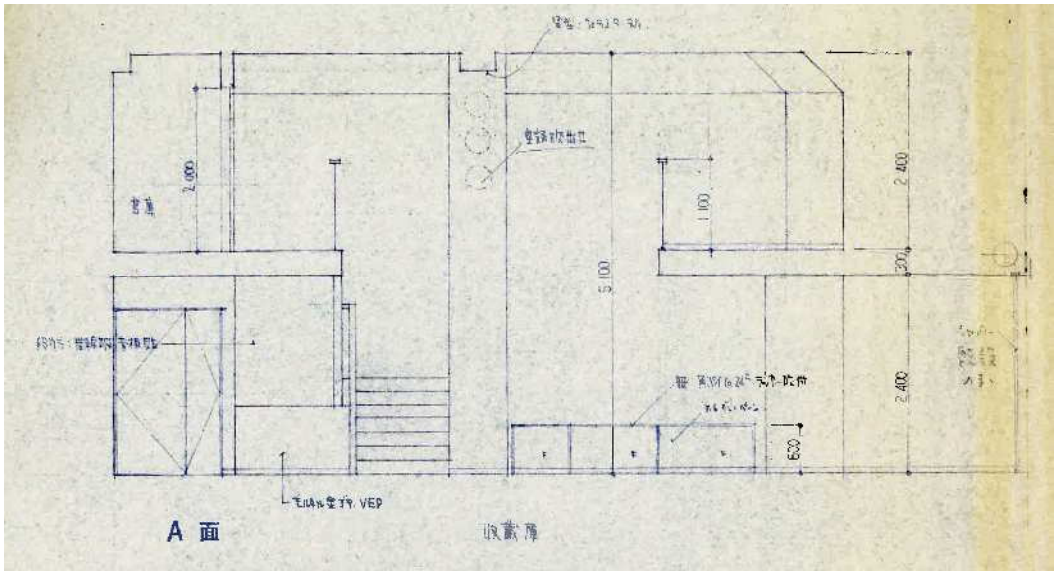
〔資料図面－3〕

●重要民俗資料収蔵庫 昭和47年改修設計図

屋根スラブは、新築時図面(資料図面-2)とは異なり、この図面のようにフラットに造られていた。



矩形図　　天井を最大限上げて中二階を造り、壁･天井に断熱材を入れた。

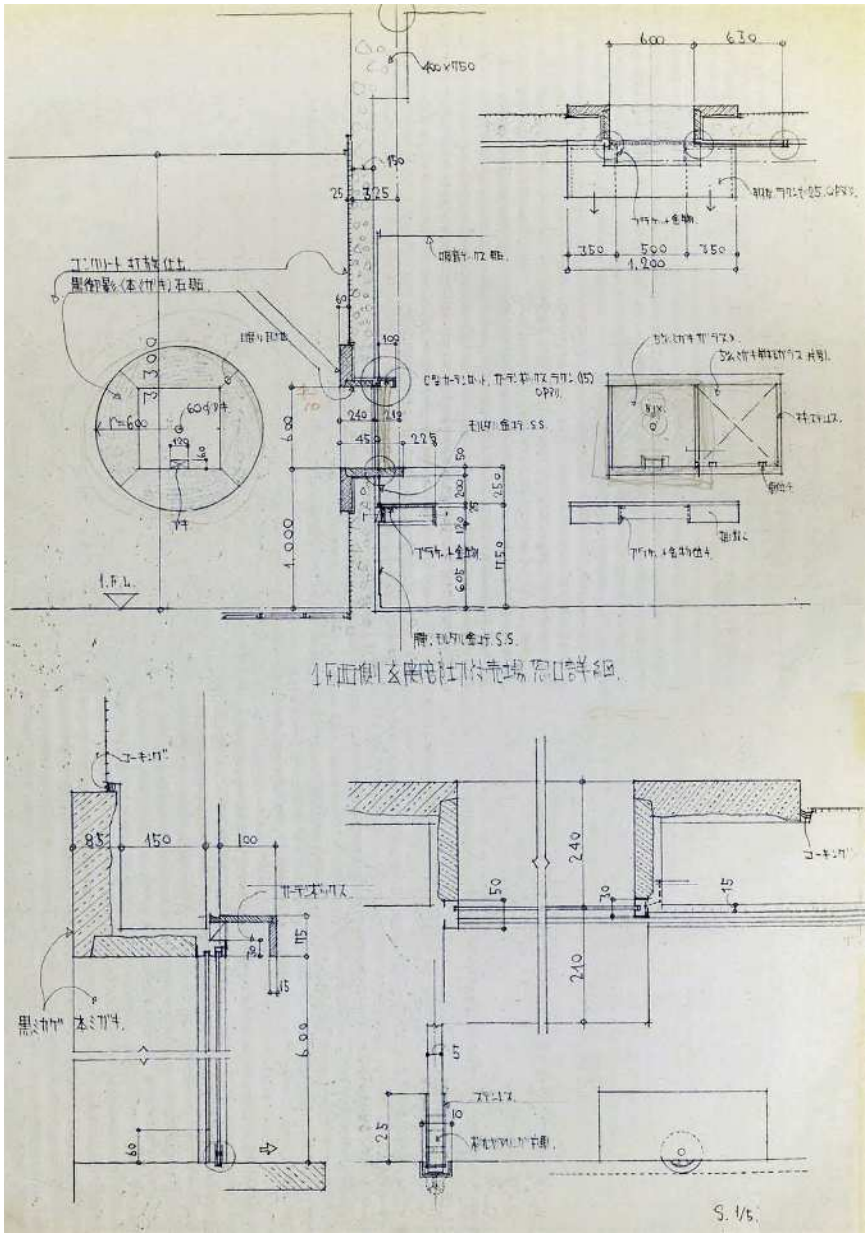


断面図　　梁部分の天井を斜めにした事で、壁ガラリで天井裏換気が出来た。

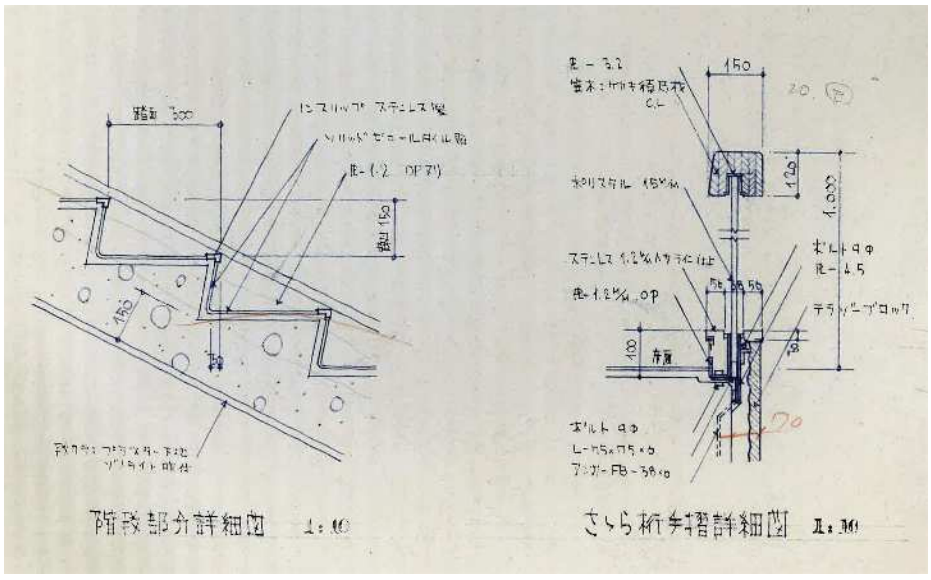
〔資料図面－4〕

●日本民俗資料館当初設計図－詳細図

メインエントランス
切符売り場窓口詳細図



メイン階段詳細図

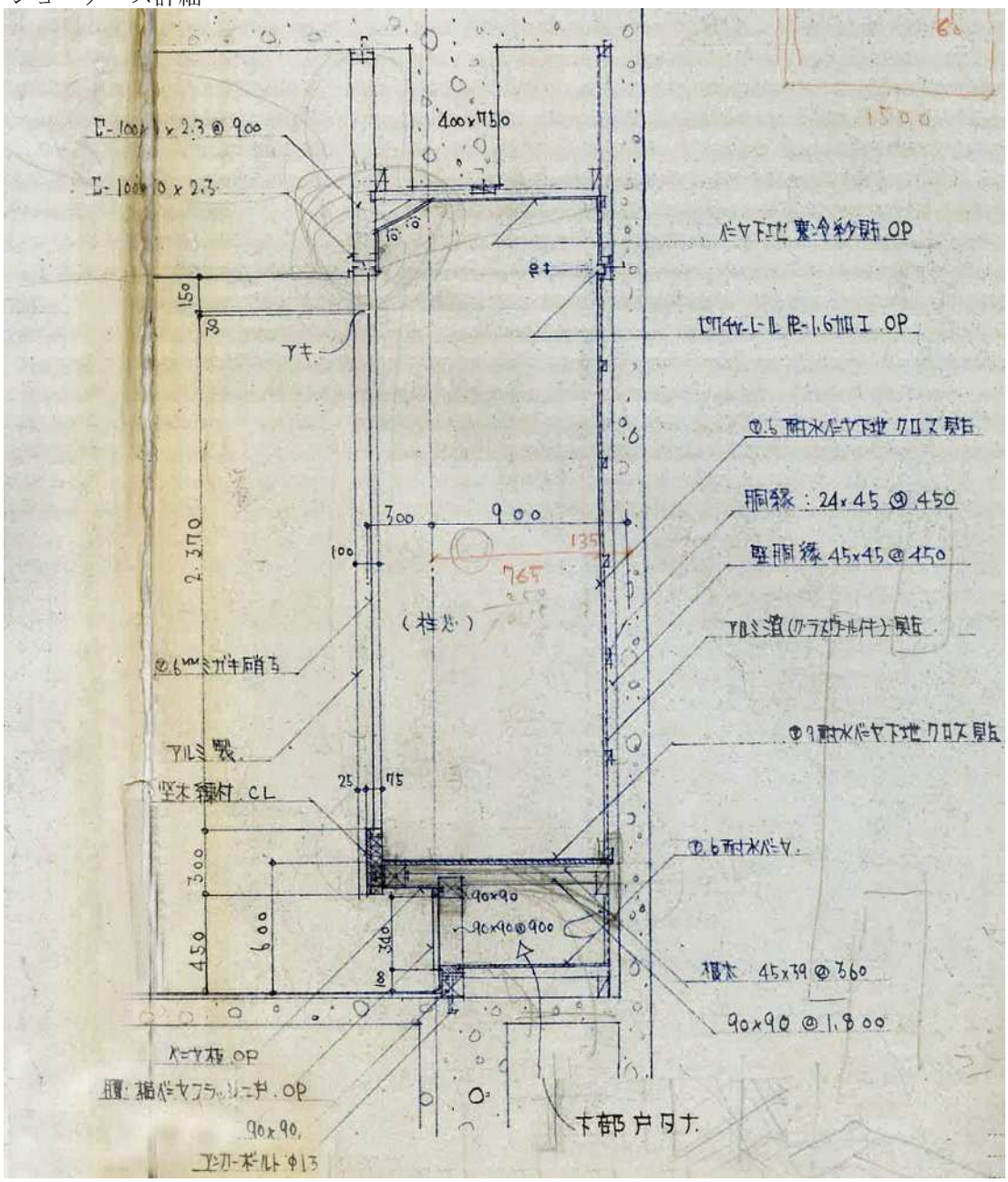


〔資料図面－5〕

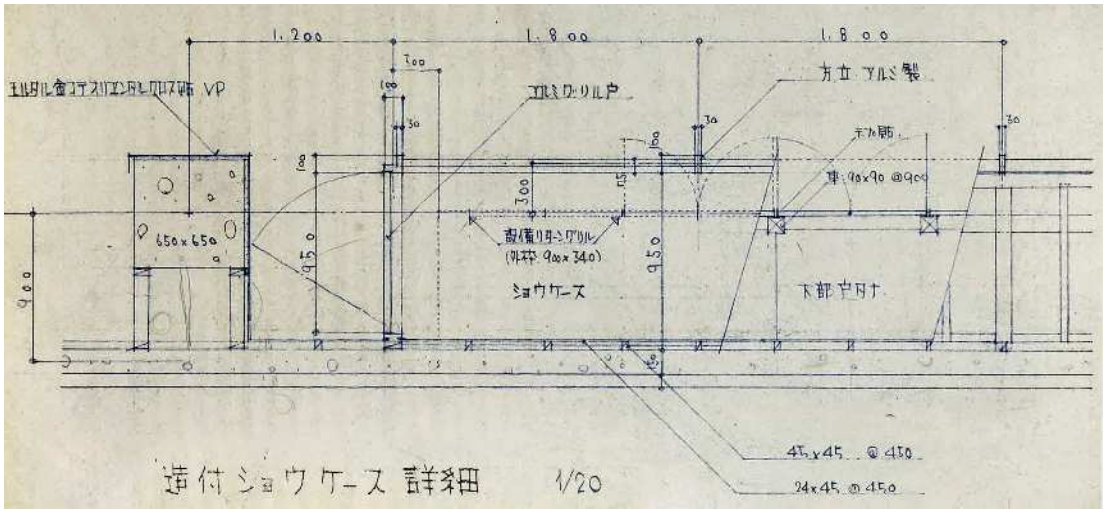
●日本民俗資料館当初設計図－詳細図

展示室　ショーケース詳細

縦断面



平面

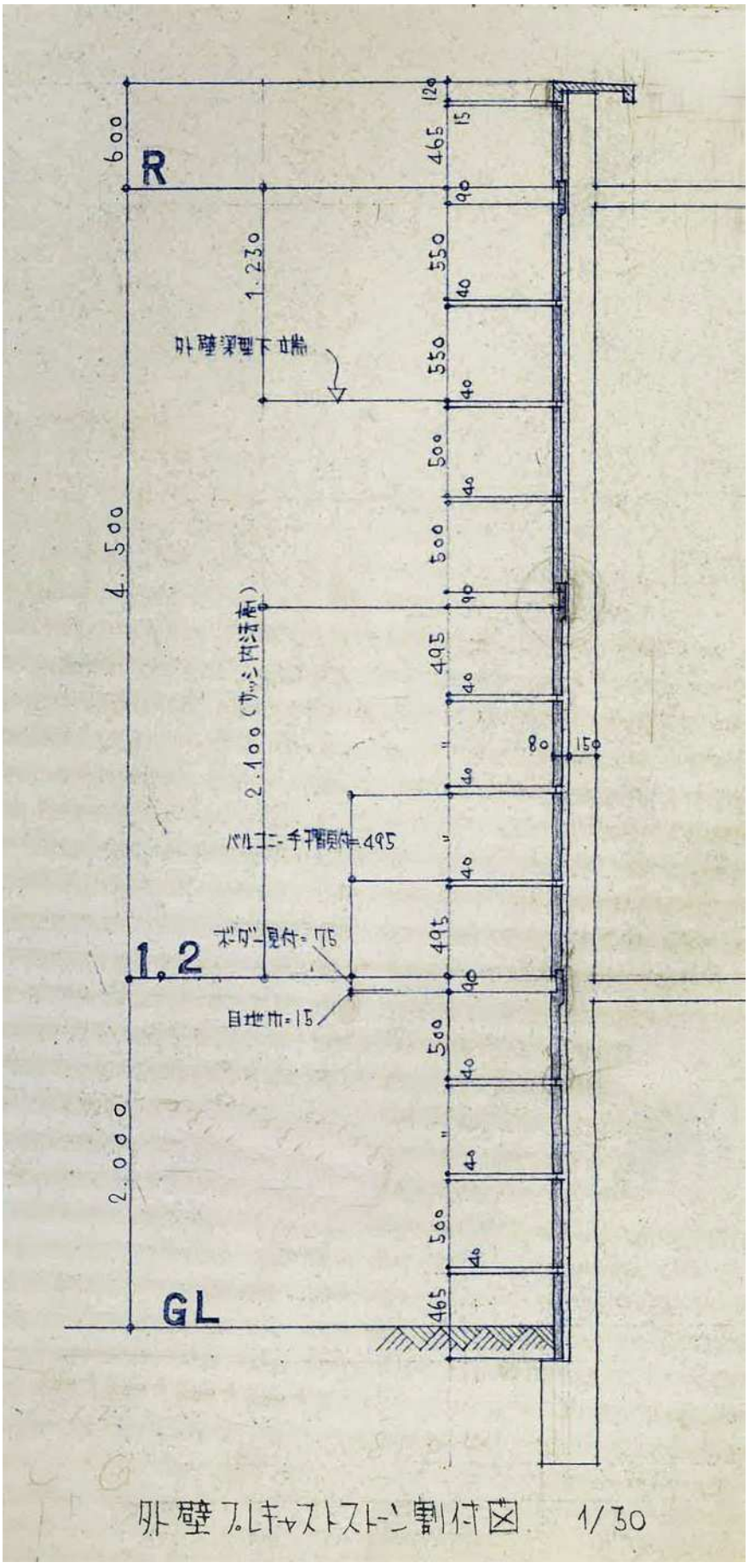


〔資料図面－6〕

●日本民俗資料館当初設計図－詳細図

外壁パネル割付図

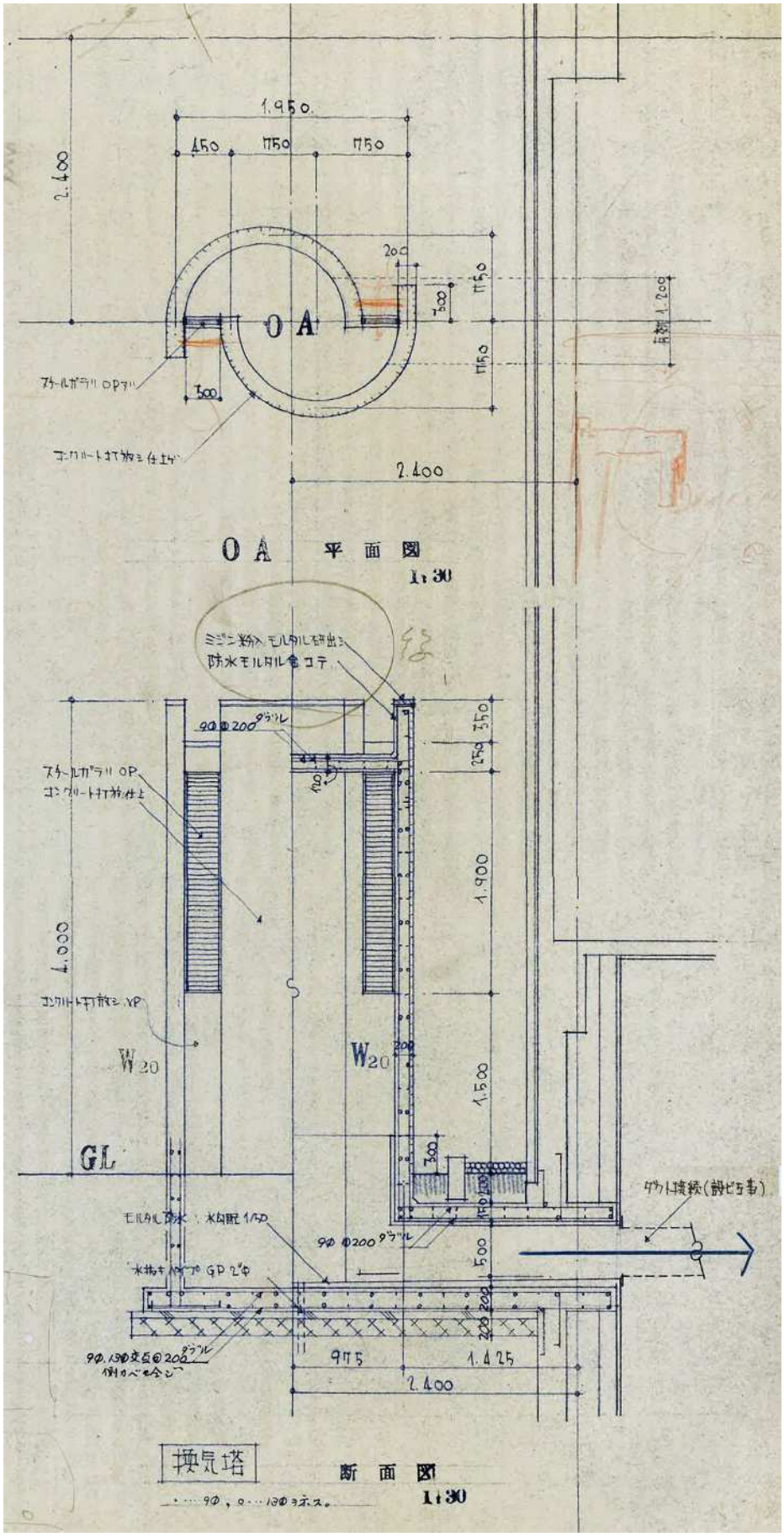
※詳細は施工図による
（資料図面9～）



〔資料図面－7〕

●日本民俗資料館当初設計図－詳細図

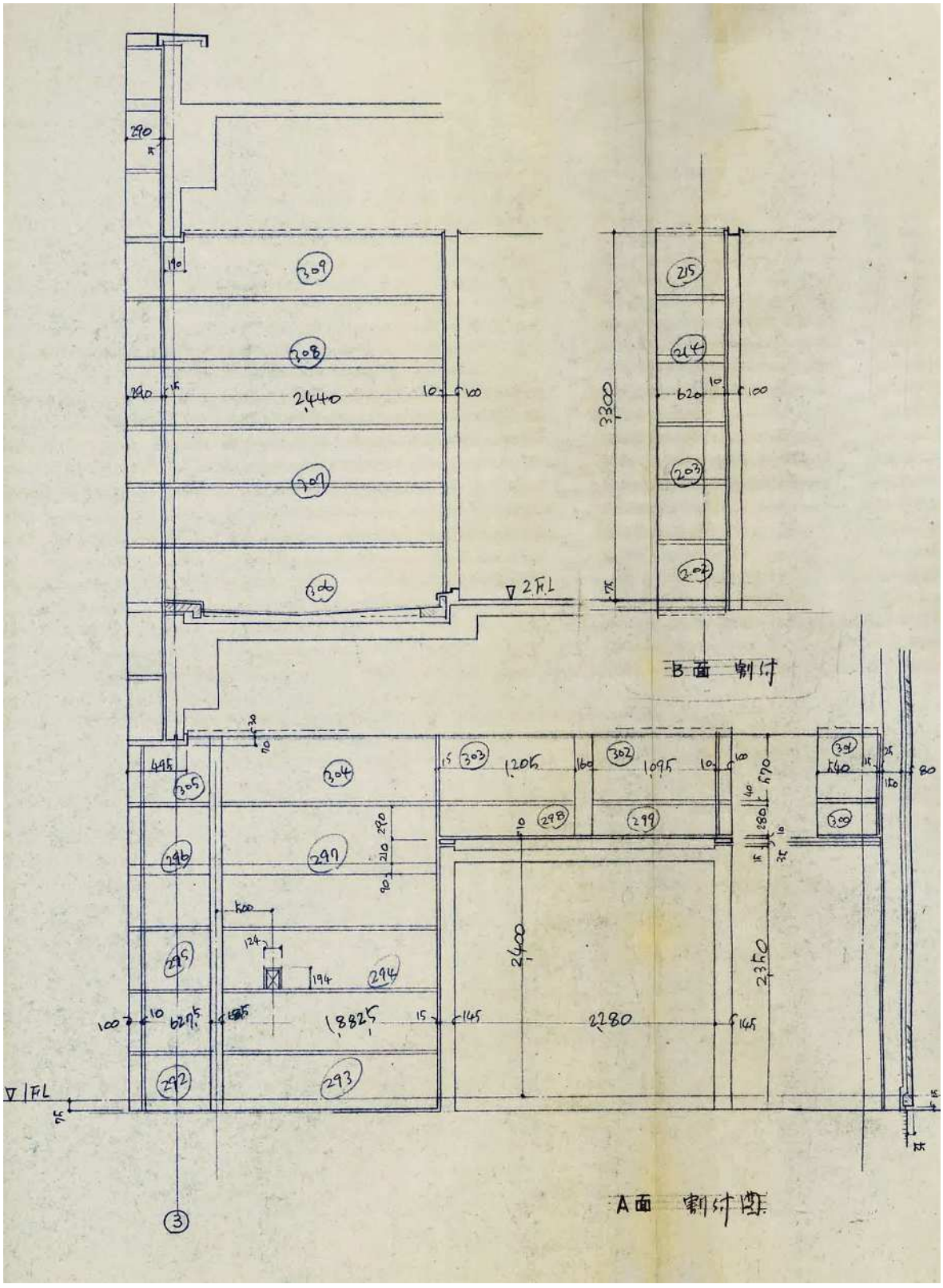
新鮮空気取入ダクト
換気塔



〔資料図面－8〕

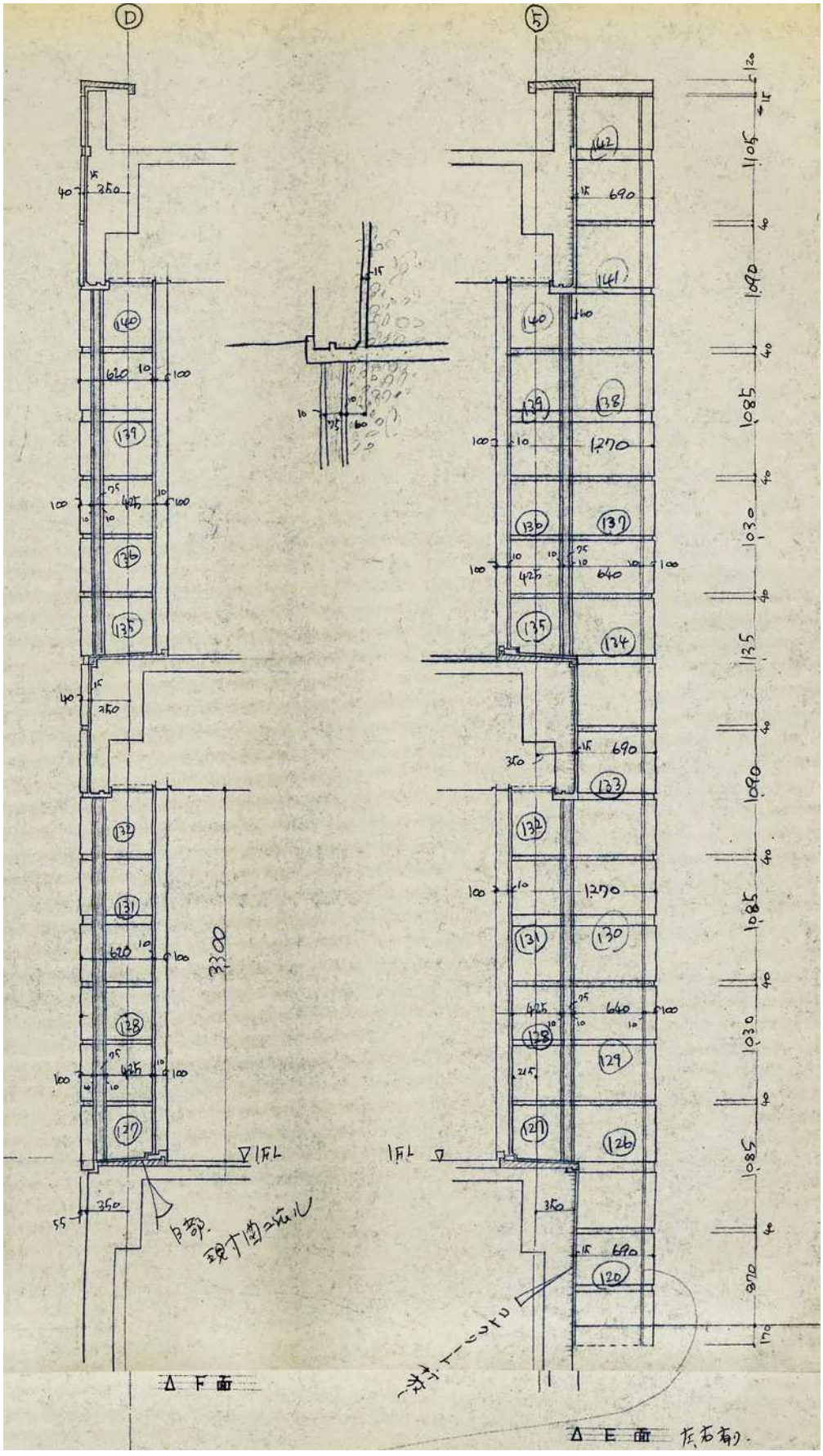
●日本民俗資料館外壁施工図　（昭和42年(1967)3月・関ケ原石材株式会社製作）

外壁プレキャストコンクリートパネル割付


B面 割付
A面 割付図
2FL
1FL
2440
3300
2400
2350
2280
1882.5
1205
1095
1200
620
629.5
1445
1445
495
640
670
80
100
100
100

●日本民俗資料館外壁施工図　（昭和42年(1967)3月・関ケ原石材株式会社製作）

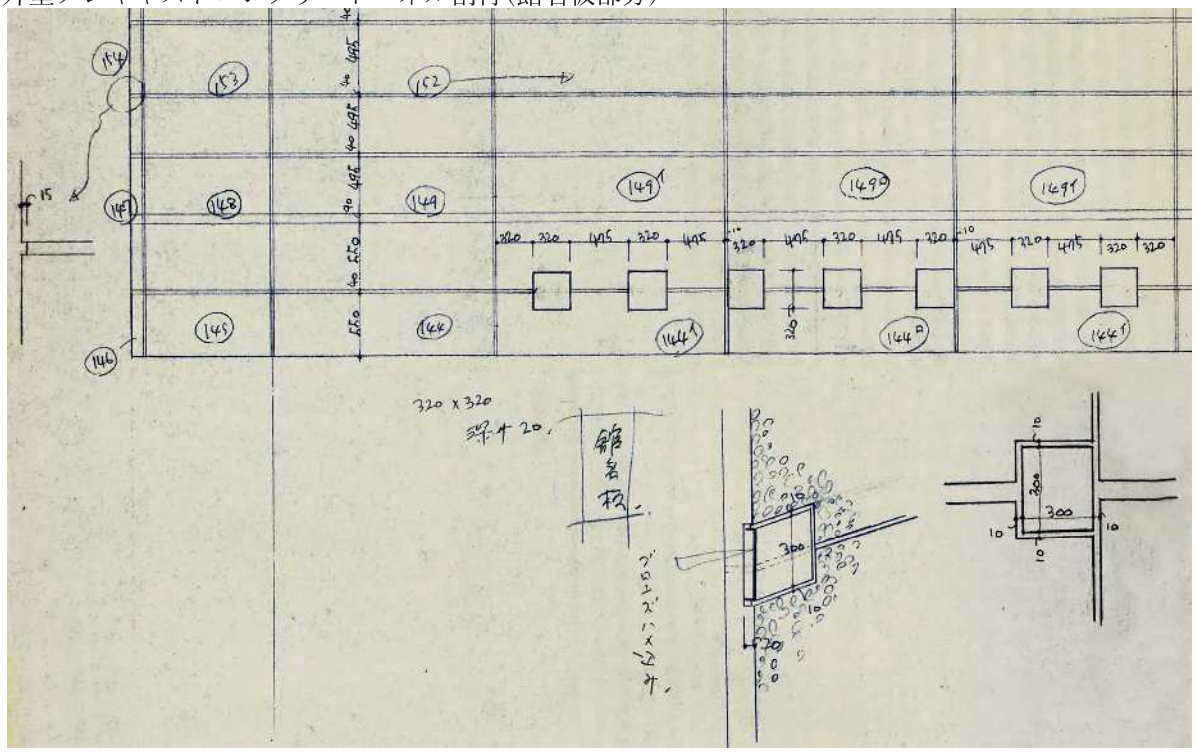
外壁プレキャストコンクリートパネル割付



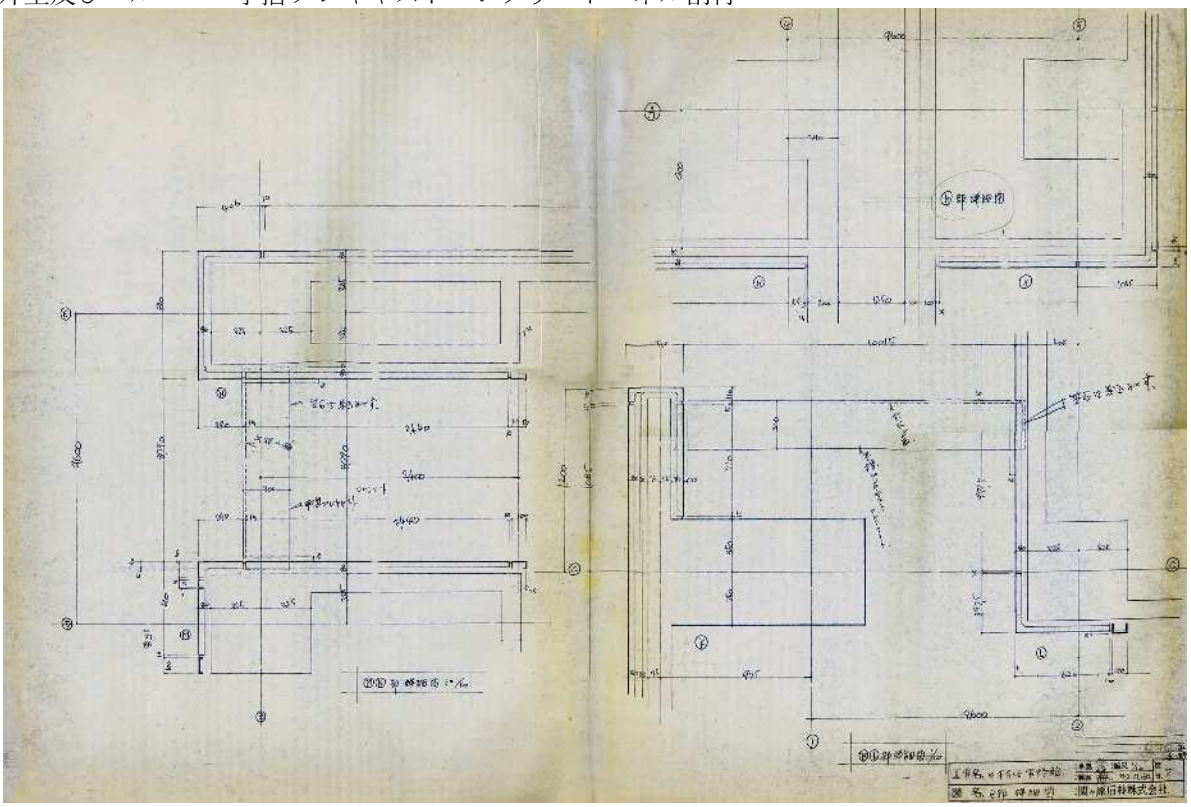
〔資料図面－10〕

●日本民俗資料館外壁施工図　（昭和42年(1967)3月・関ケ原石材株式会社製作）

外壁プレキャストコンクリートパネル割付(館名板部分)

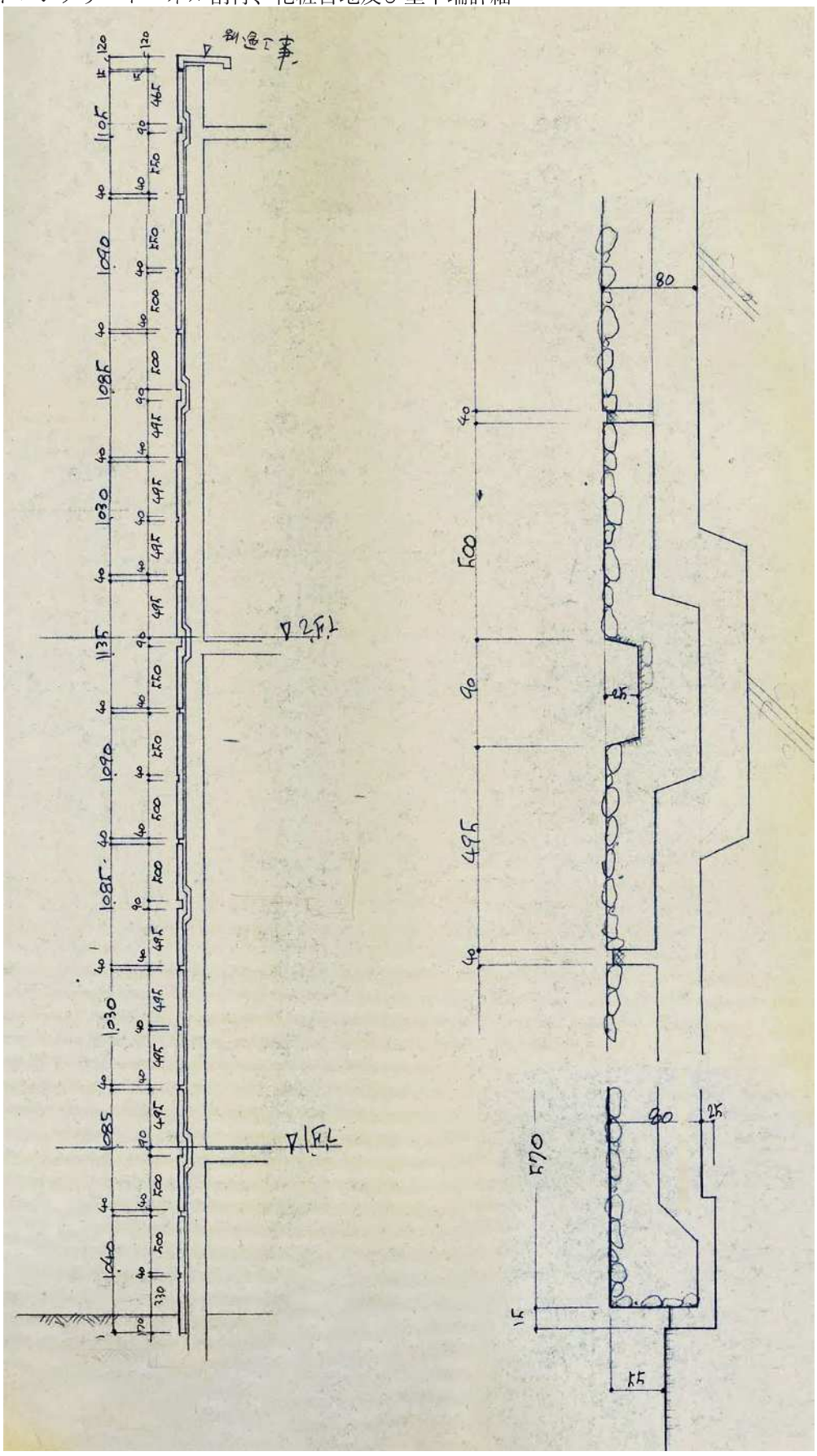


外壁及びバルコニー手摺プレキャストコンクリートパネル割付



●日本民俗資料館外壁施工図　（昭和42年(1967)3月・関ケ原石材株式会社製作）

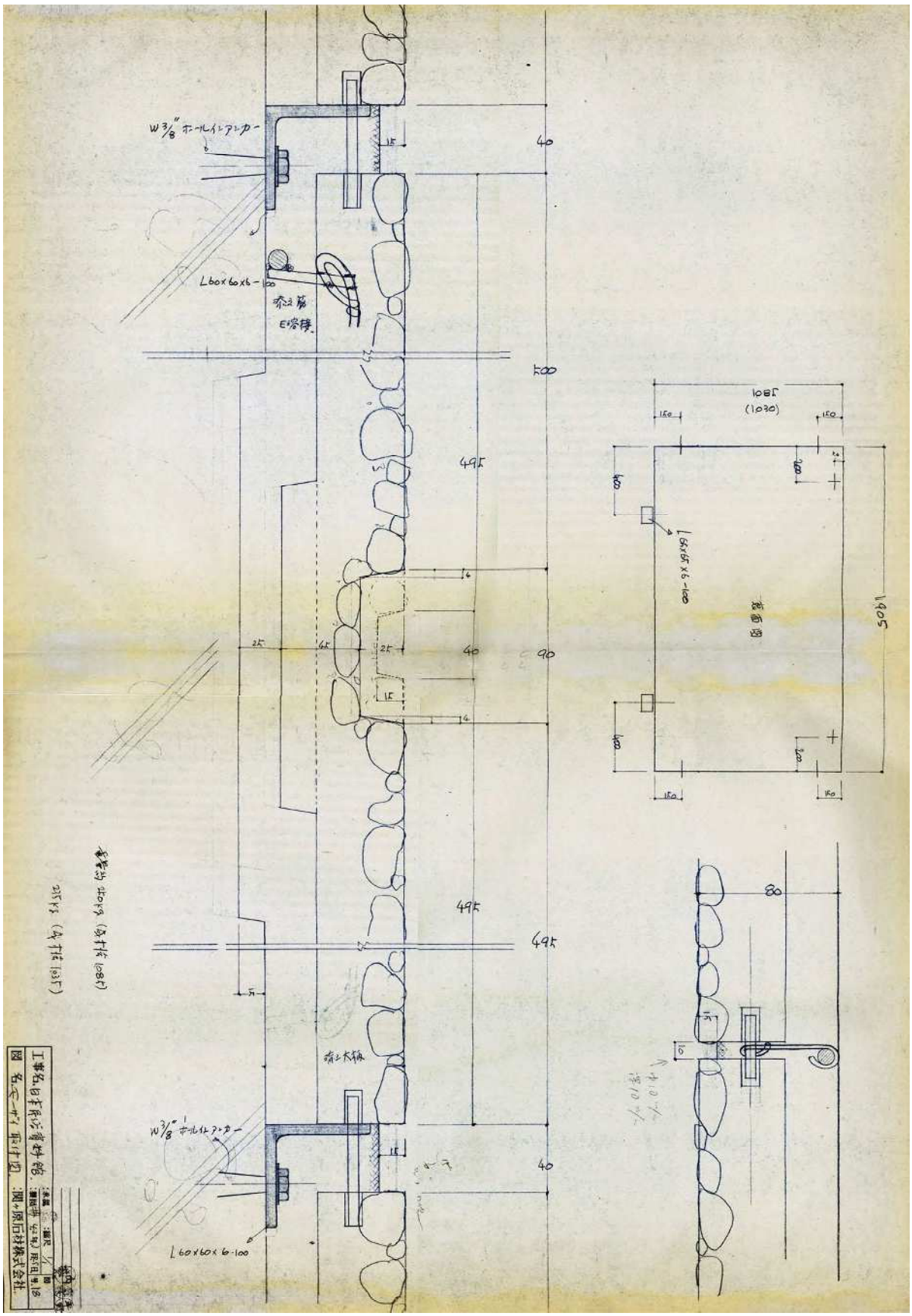
外壁プレキャストコンクリートパネル割付、化粧目地及び壁下端詳細



〔資料図面－12〕

●日本民俗資料館外壁施工図　（昭和42年(1967)3月・関ケ原石材株式会社製作）

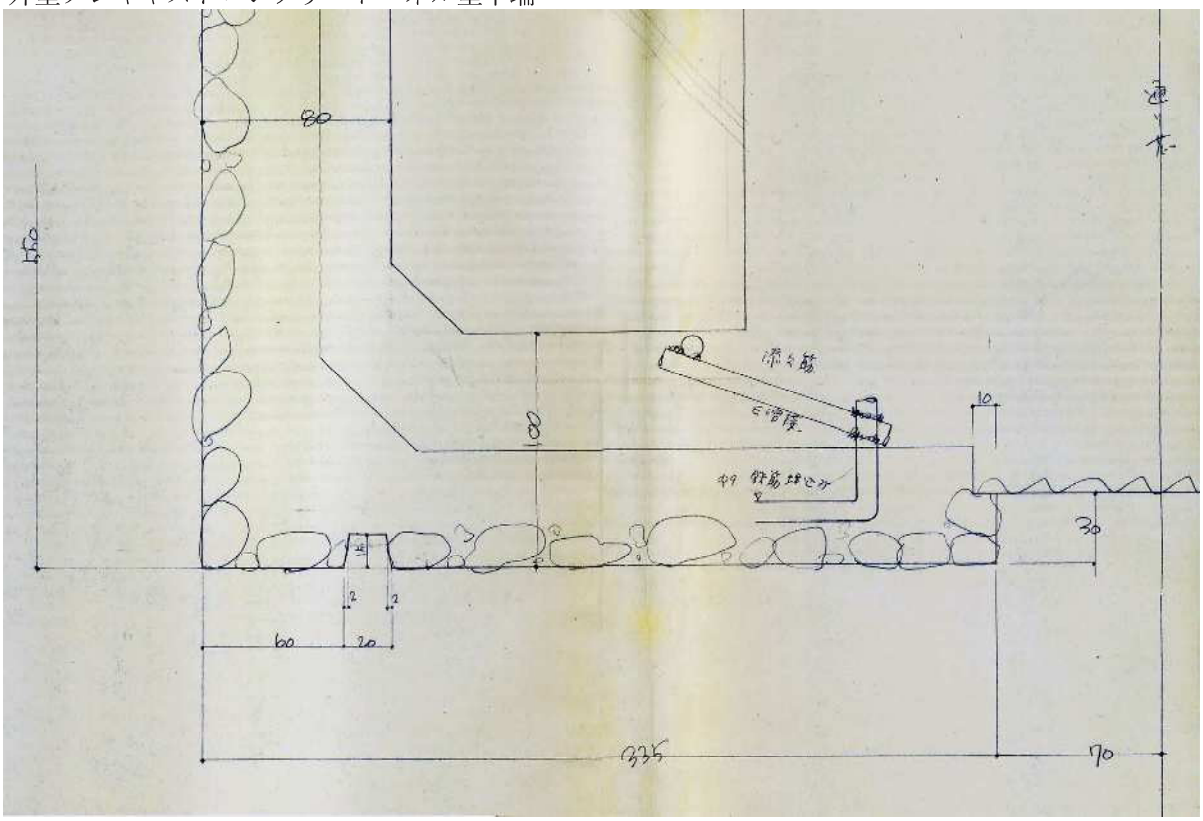
外壁プレキャストコンクリートパネル化粧目地及び躯体への取付詳細



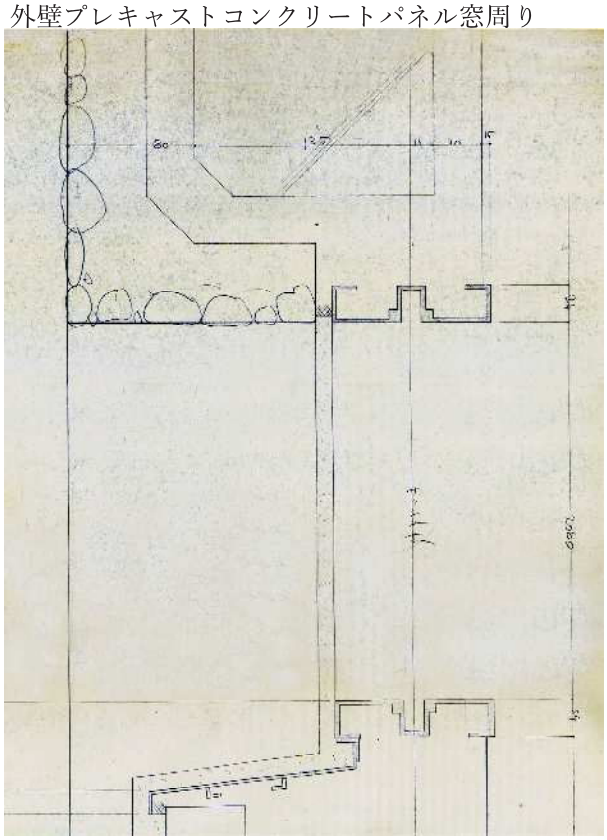
〔資料図面－13〕

●日本民俗資料館外壁施工図　（昭和42年(1967)3月・関ケ原石材株式会社製作）

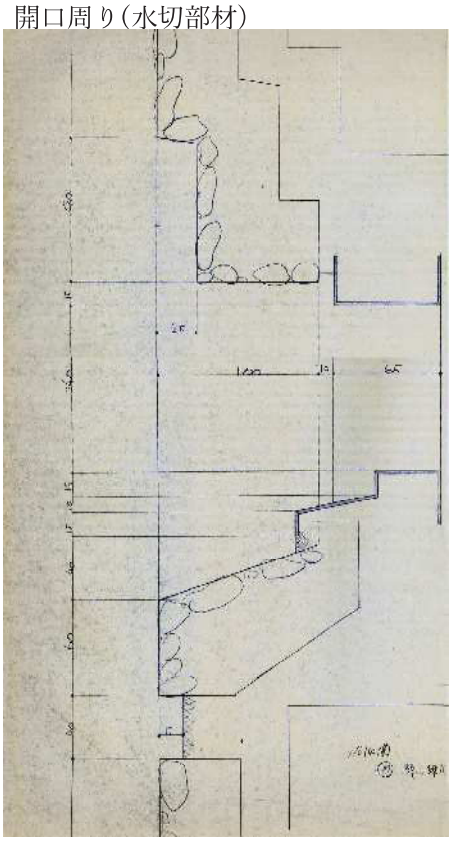
外壁プレキャストコンクリートパネル壁下端



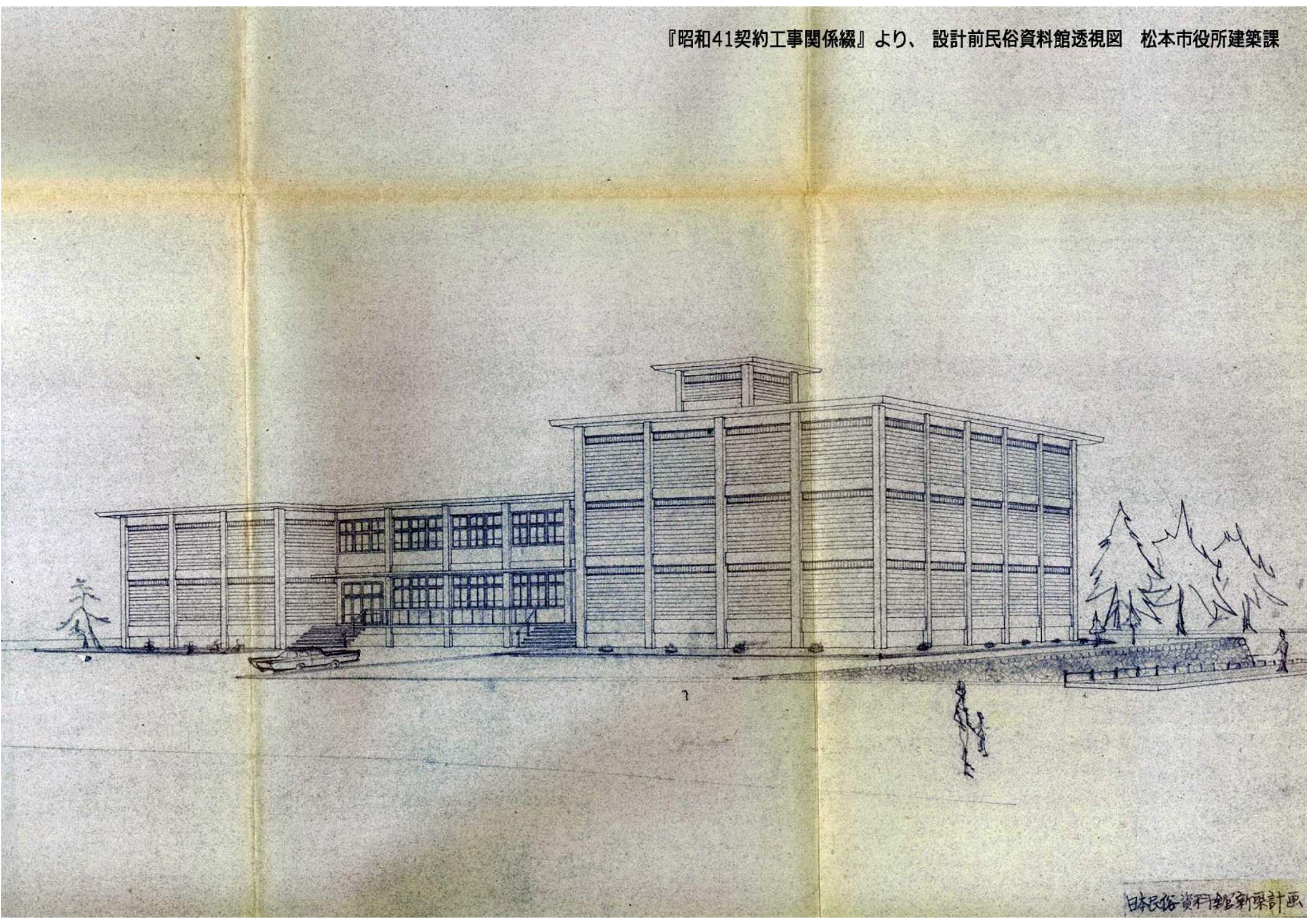
外壁プレキャストコンクリートパネル窓周り

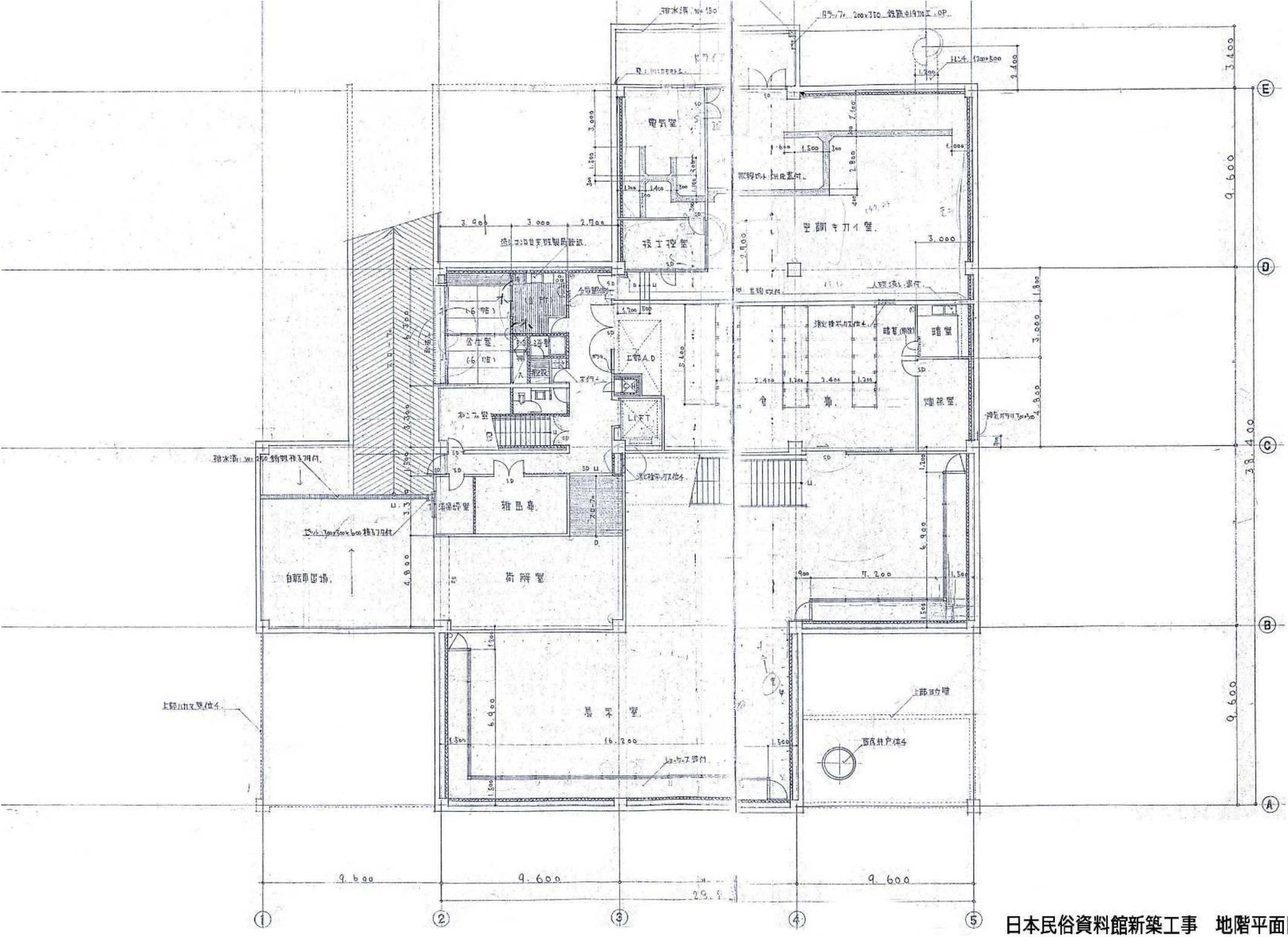


開口周り(水切部材)

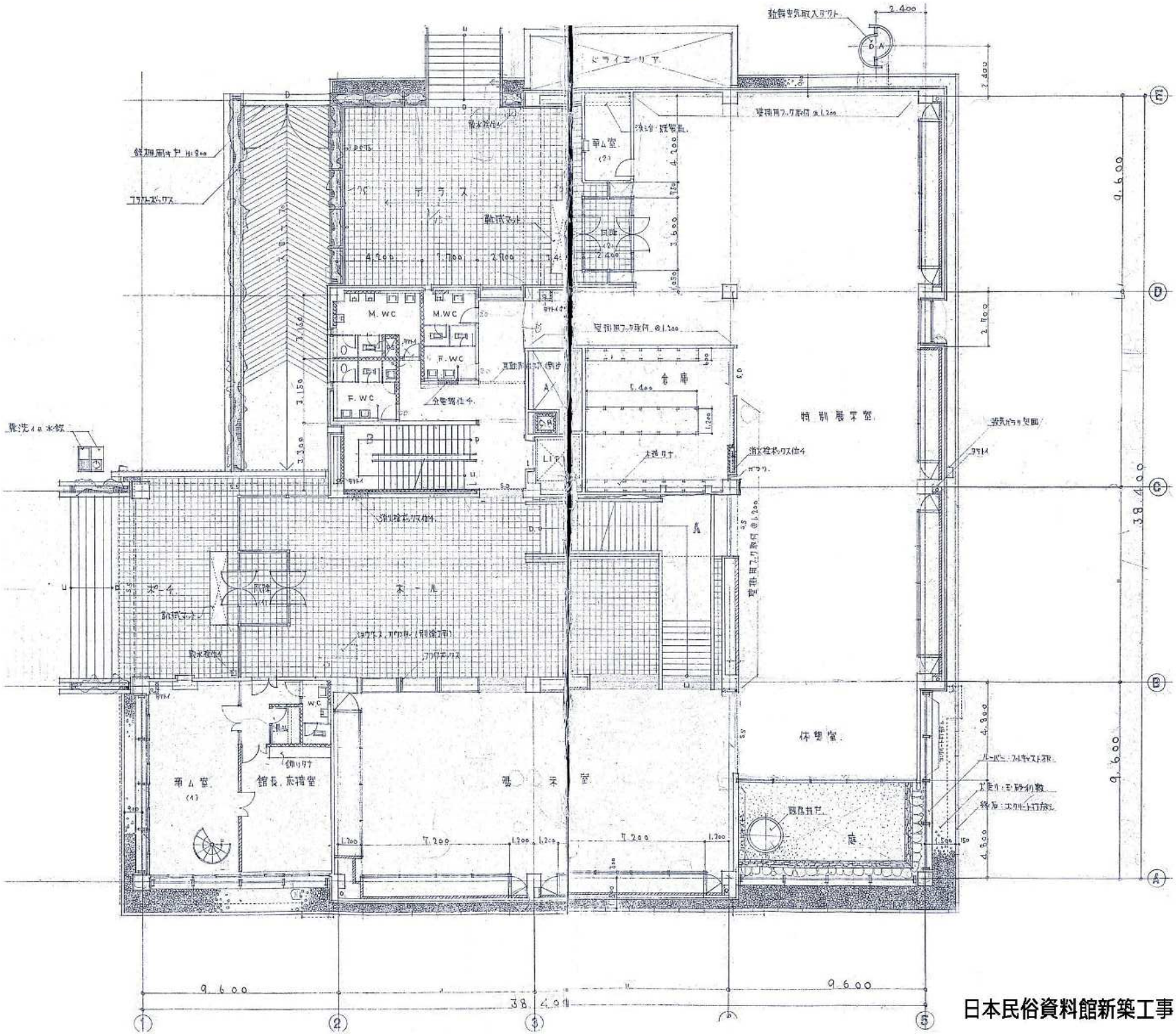


『昭和41契約工事関係綴』より、 設計前民俗資料館透視図　松本市役所建築課

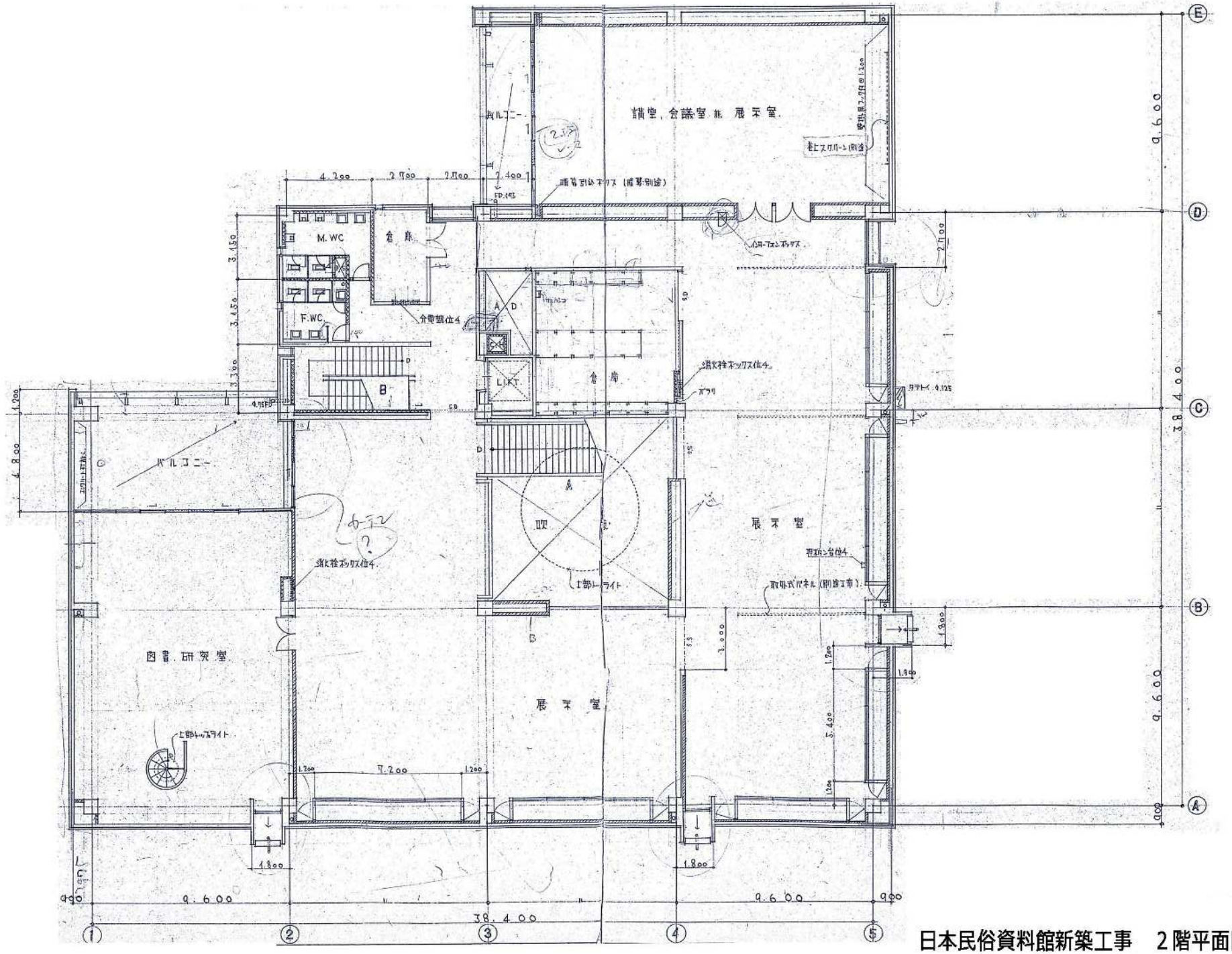




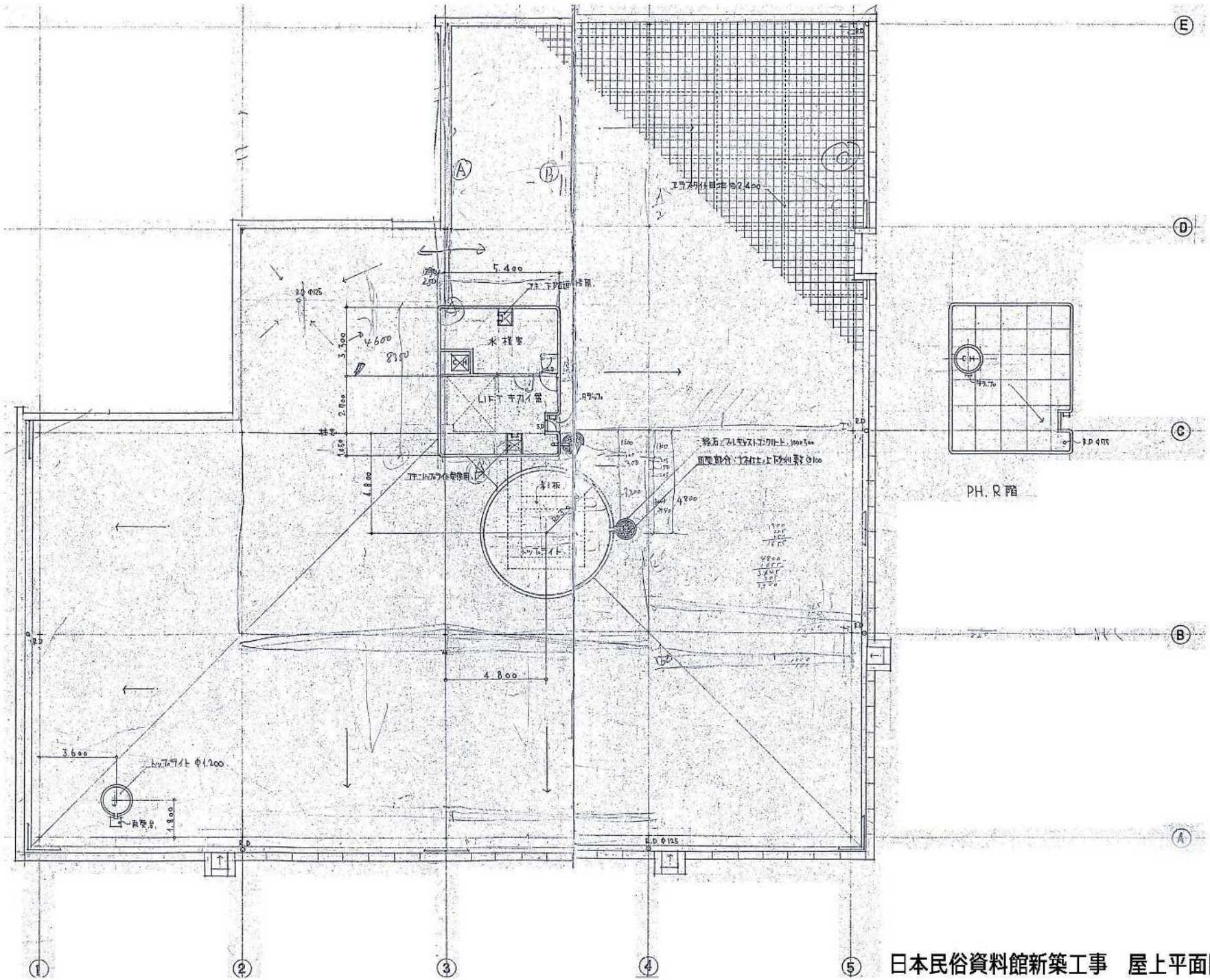
日本民俗資料館新築工事　地階平面図



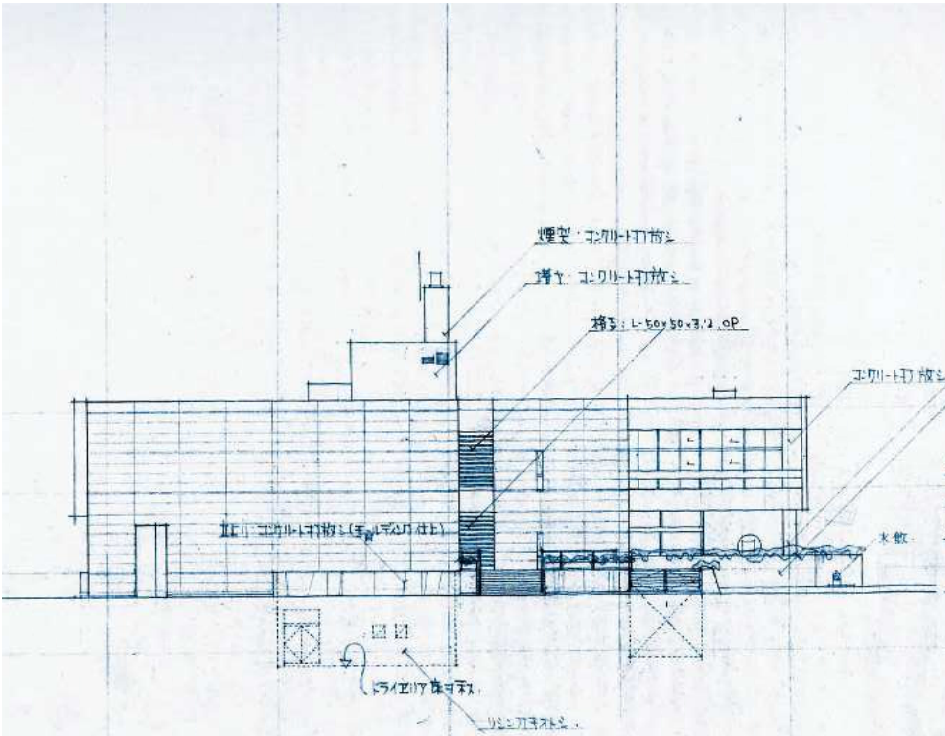
日本民俗資料館新築工事　1階平面図



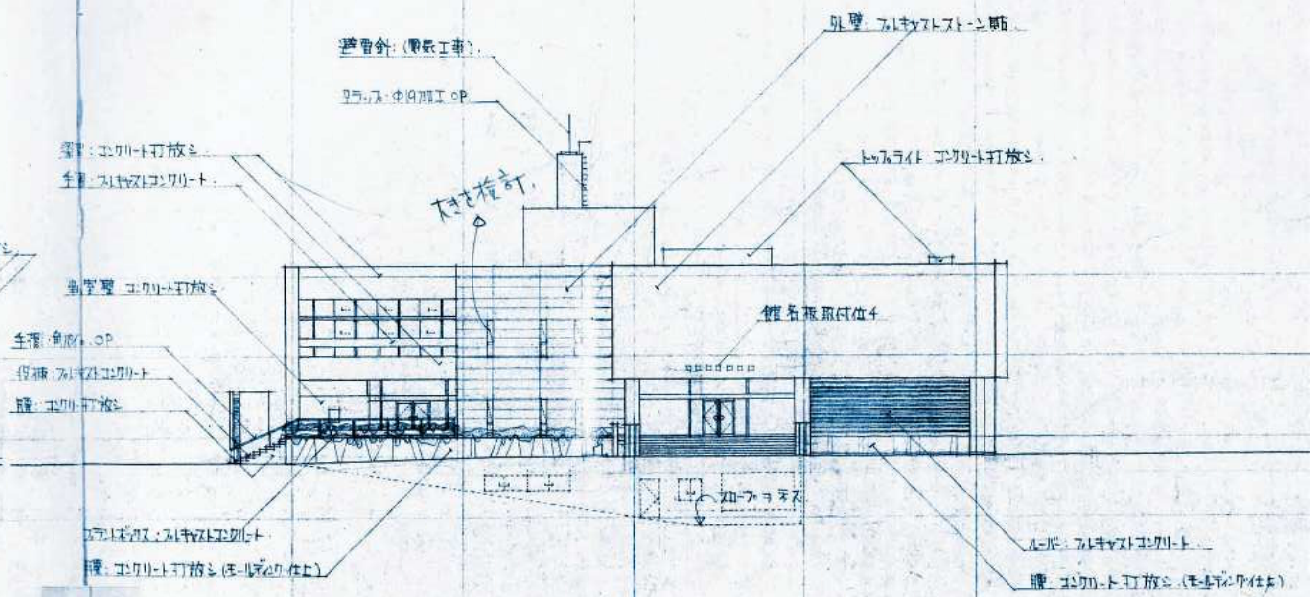
日本民俗資料館新築工事　2階平面図



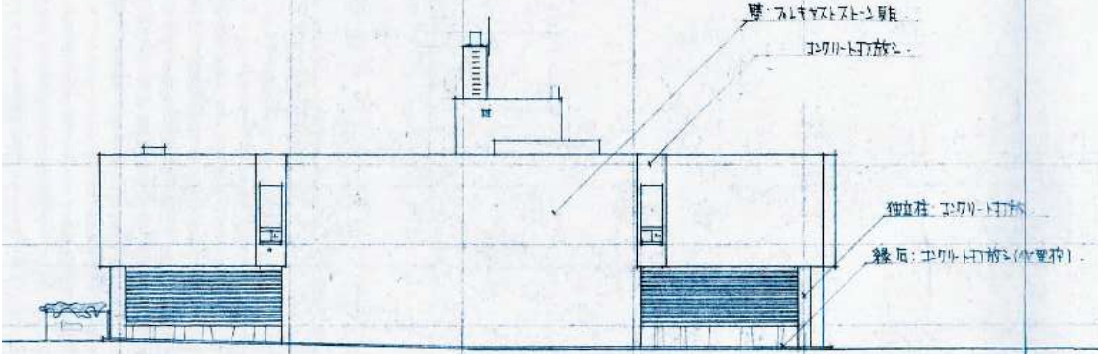
日本民俗資料館新築工事　屋上平面図



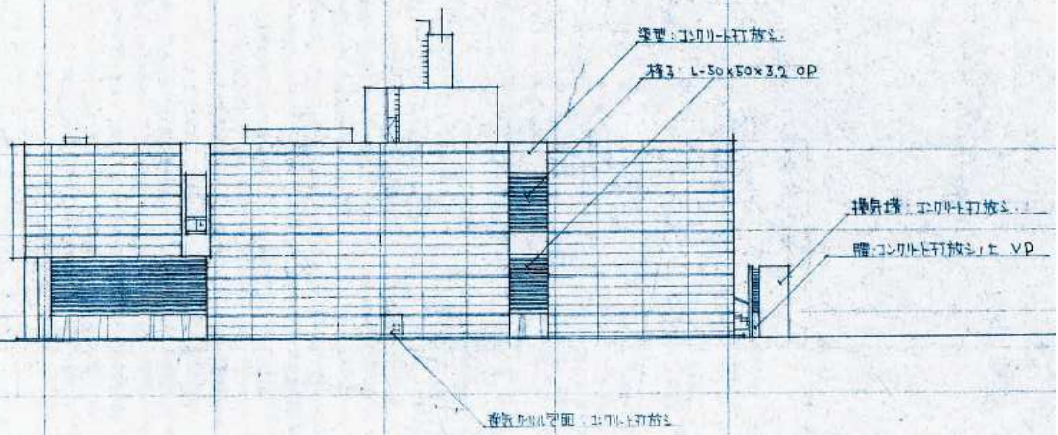
● 北 面



● 西 面

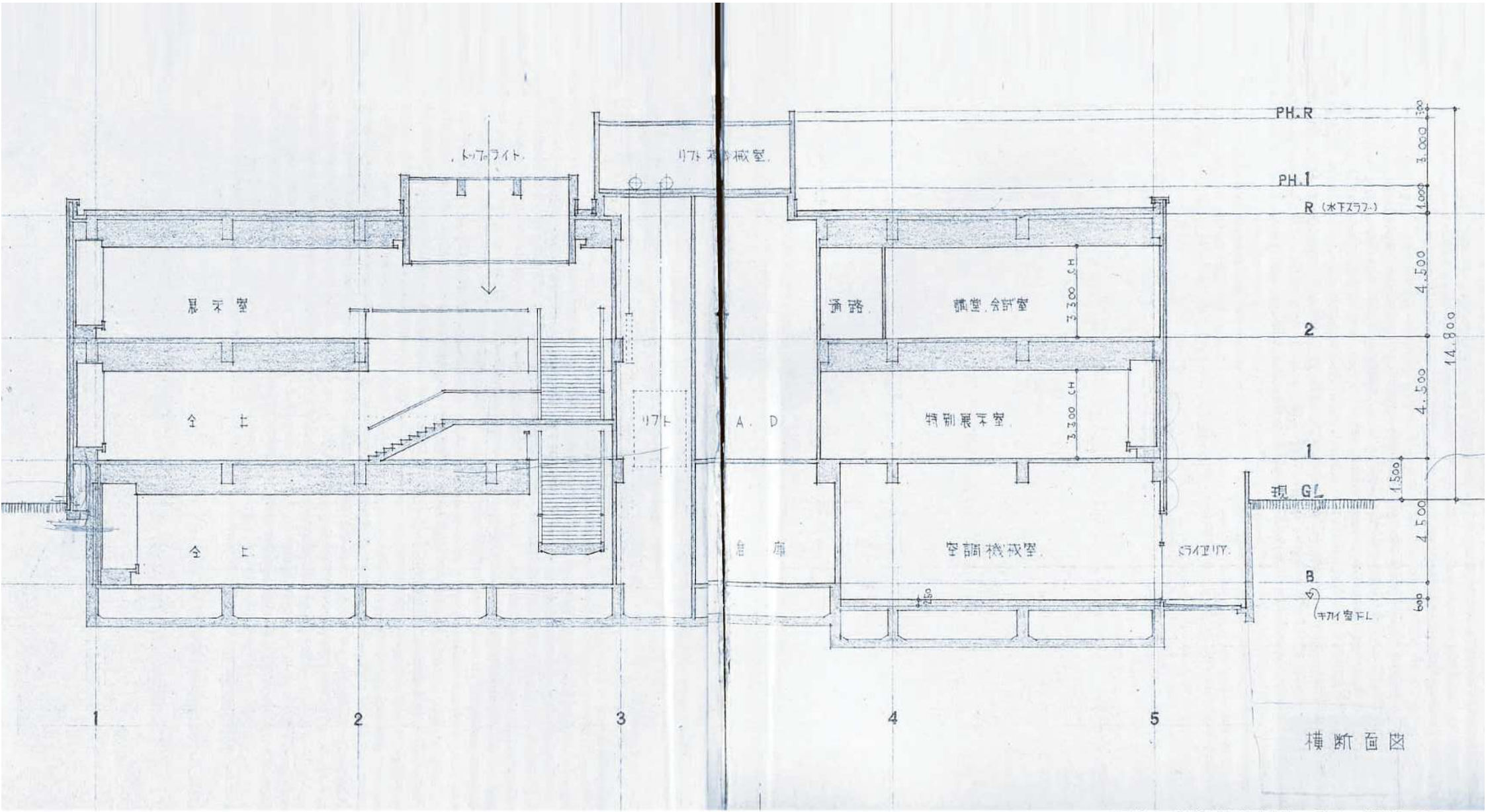


● 南 面

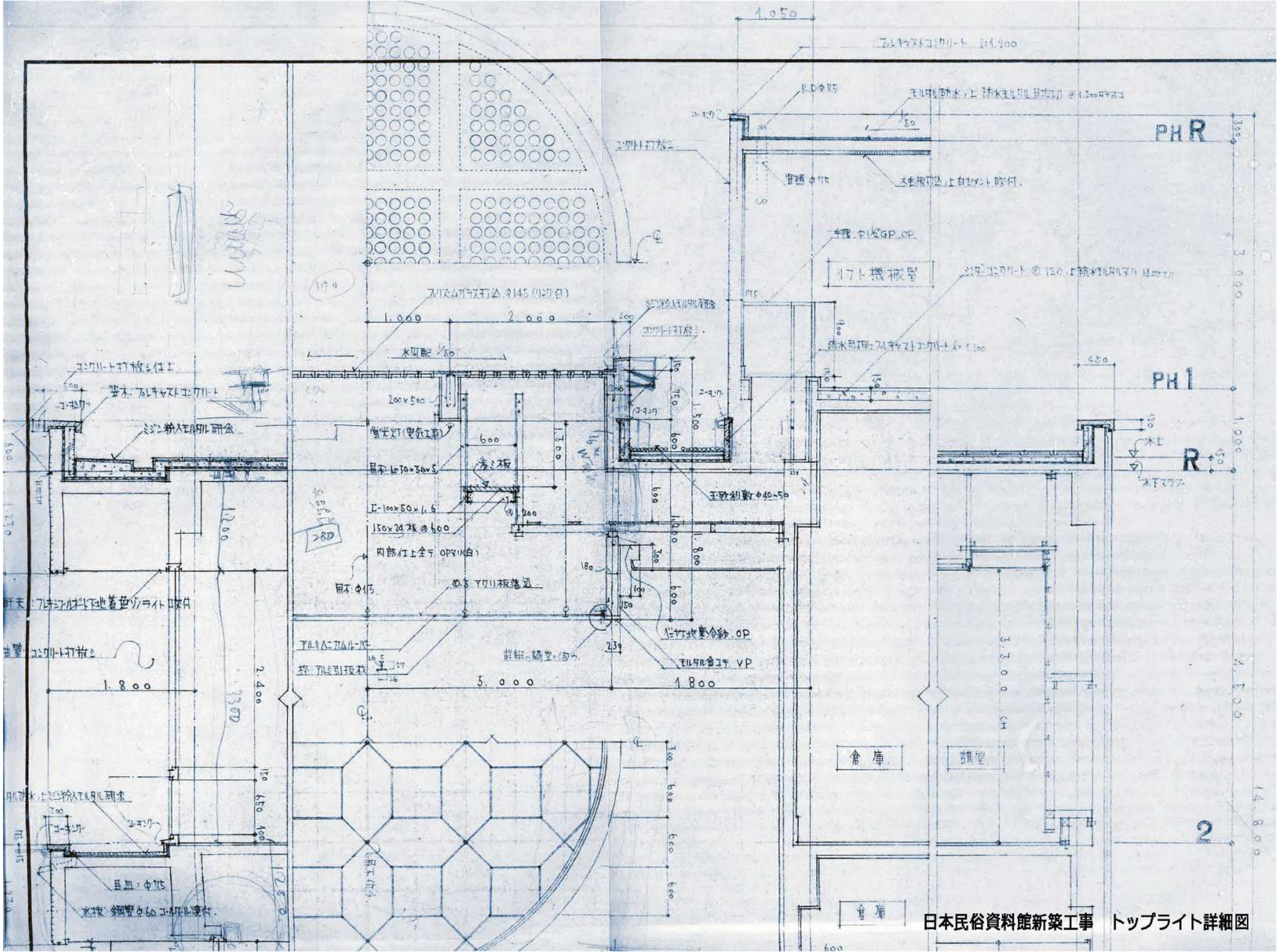


● 東 面

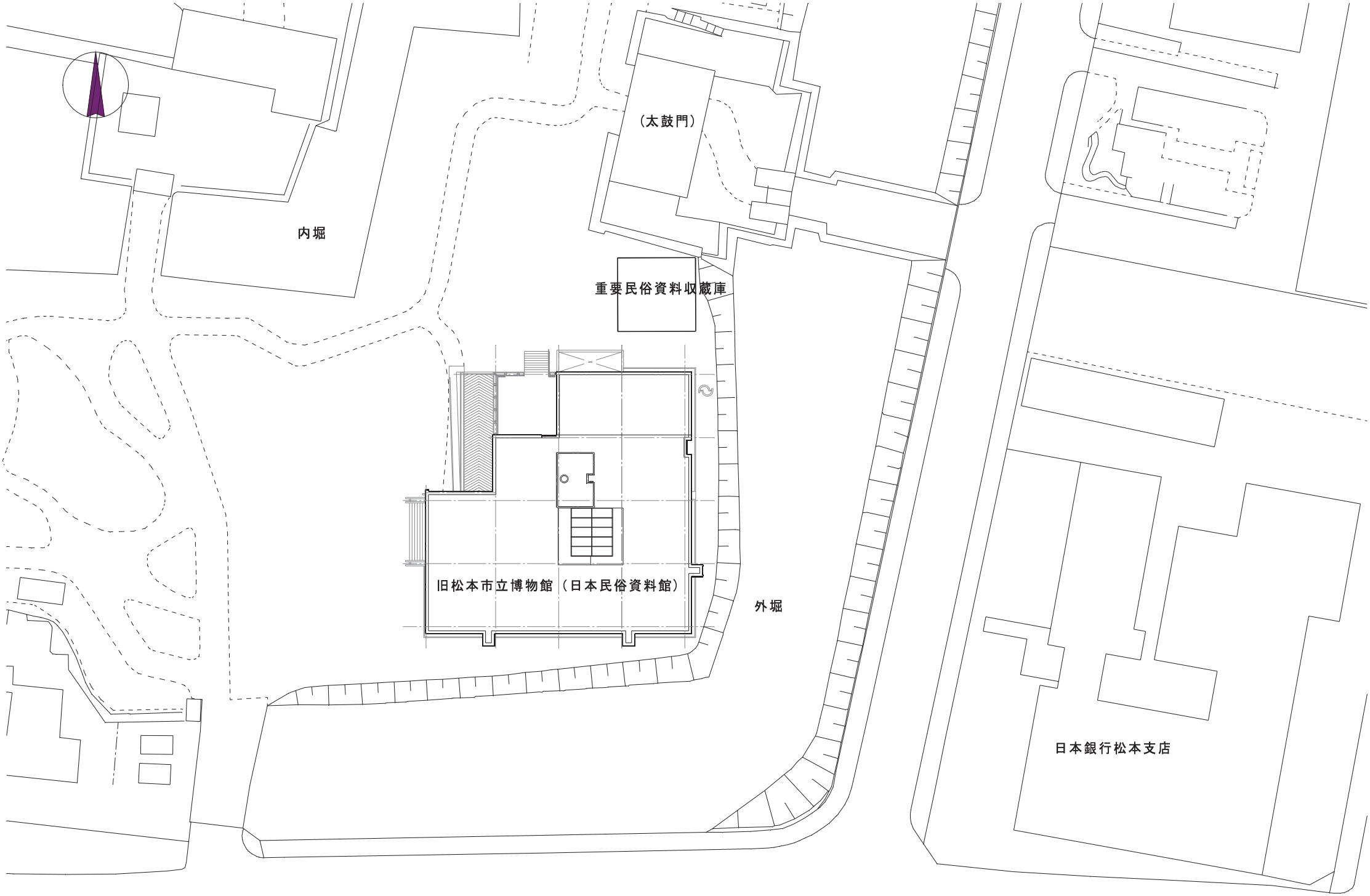
日本民俗資料館新築工事　立面図



日本民俗資料館新築工事　横断面図

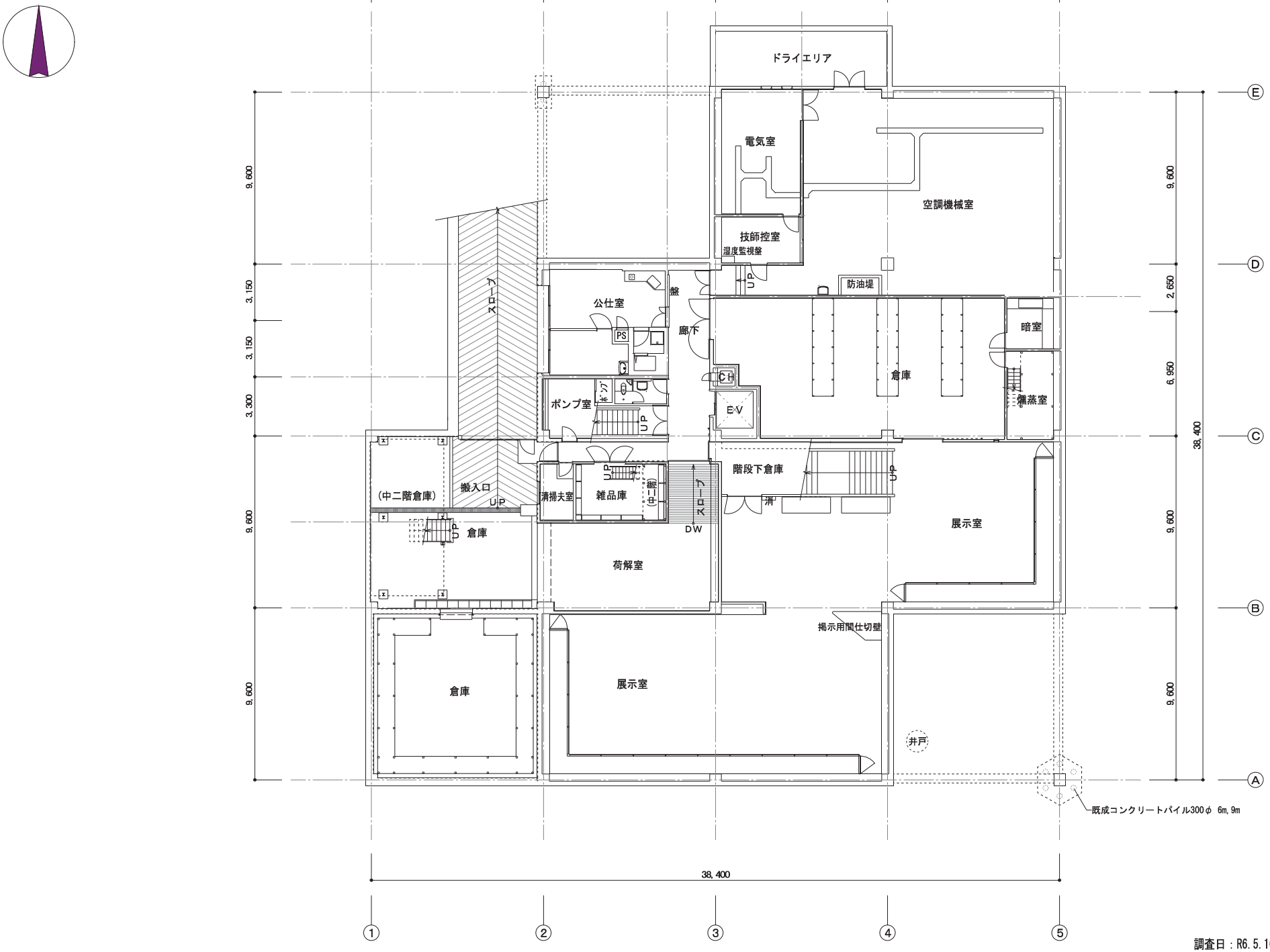


日本民俗資料館新築工事　トップライト詳細図



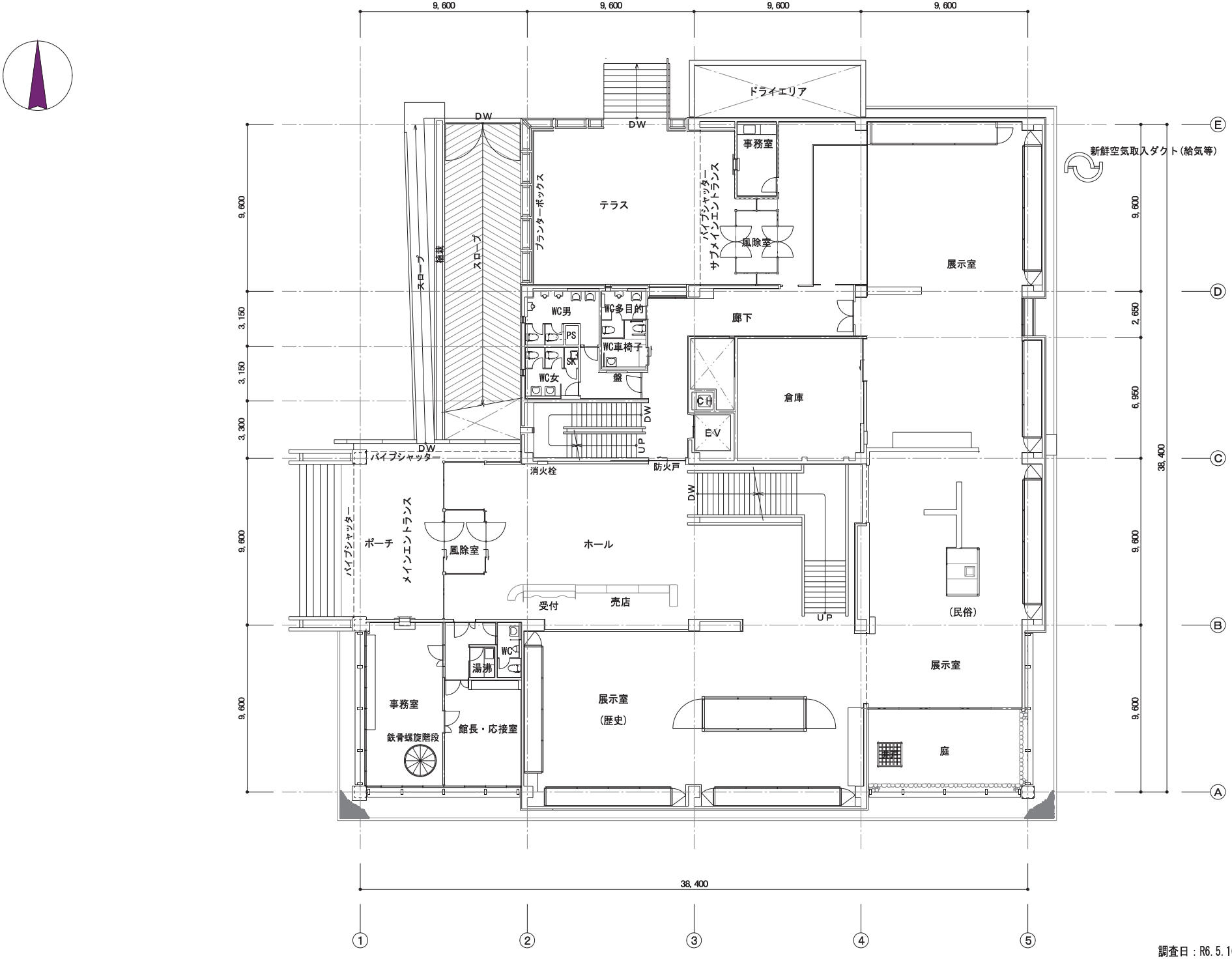
調査日：R6.5.16、8.29、10.1、R7.1.20

旧松本市立博物館（日本民俗資料館）解体前記録調査　配置図　S＝1/500　R7.1月作成



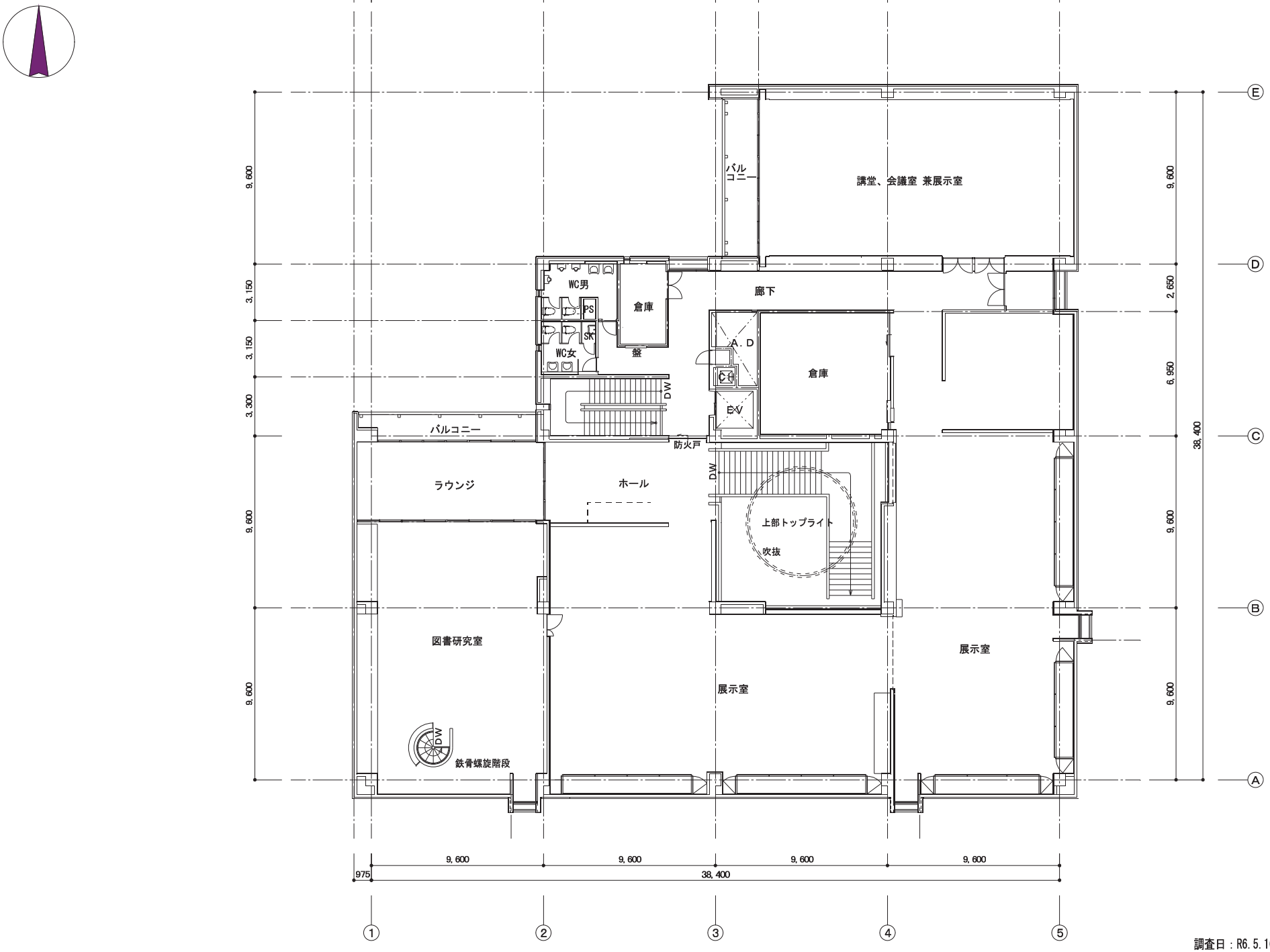
調査日：R6.5.16、8.29、10.1、R7.1.20

旧松本市立博物館（日本民俗資料館）記録保存調査　　現況地階平面図　　S＝1/200　　R7.1月作成



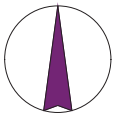
調査日：R6.5.16、8.29、10.1、R7.1.20

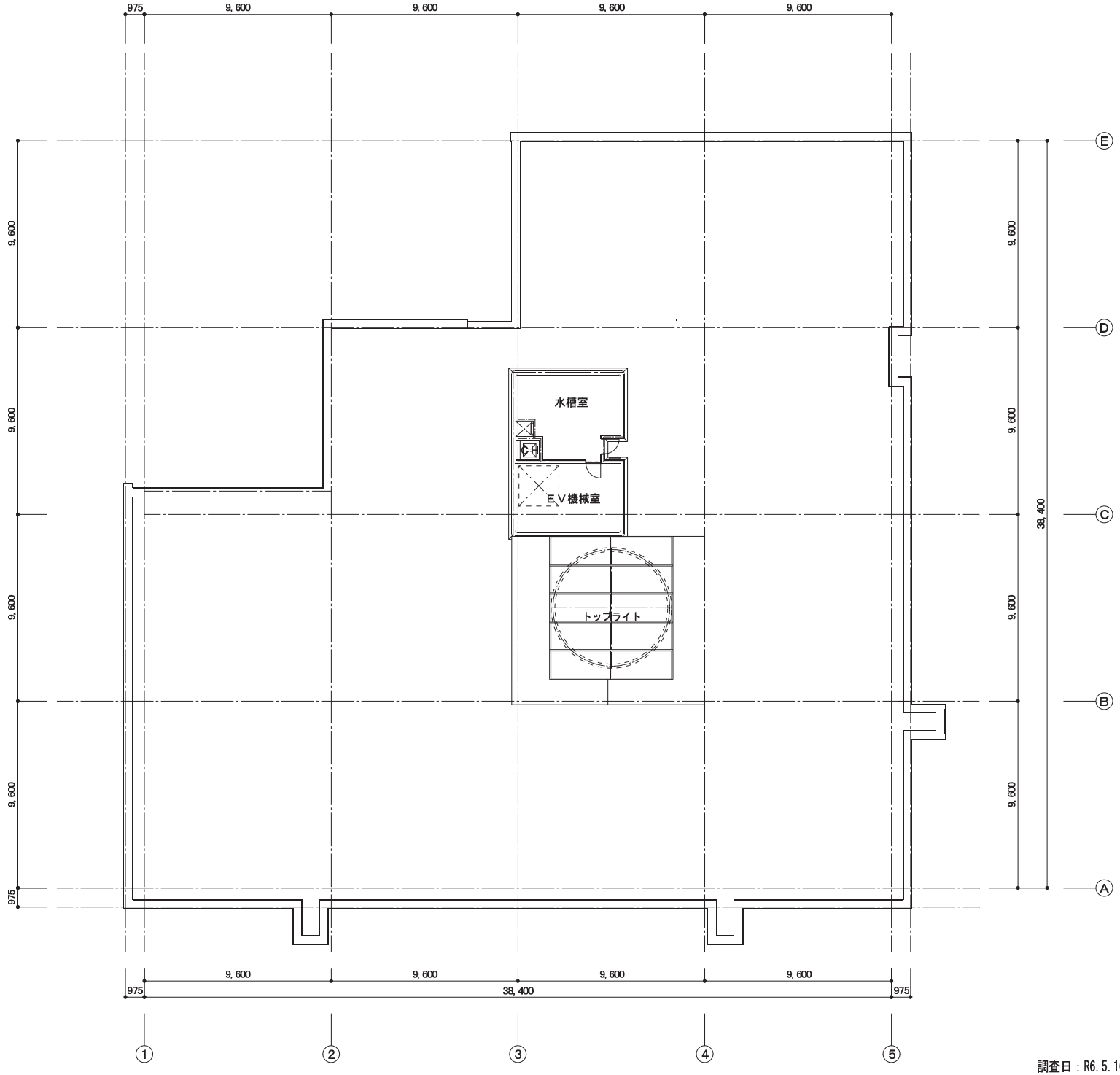
旧松本市立博物館（日本民俗資料館）記録保存調査　　現況１階平面図　　S＝1/200　　R7.1月作成



調査日：R6.5.16、8.29、10.1、R7.1.20

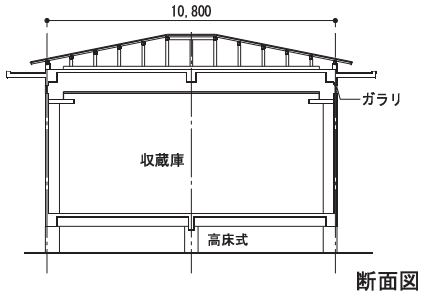
旧日本民俗資料館（旧松本市立博物館）解体前記録調査　　現況２階平面図　　S＝1/200　　R7.1月作成





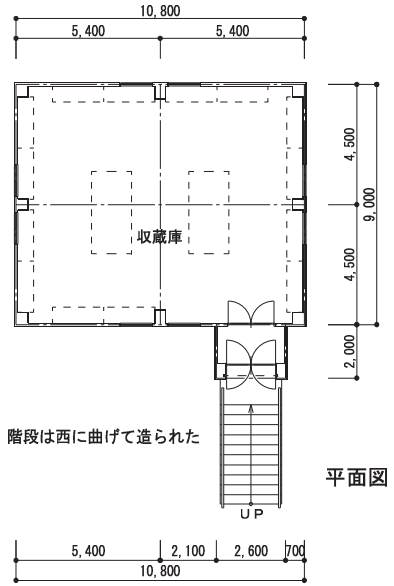
調査日：R6.5.16、8.29、10.1、R7.1.20

旧松本市立博物館（日本民俗資料館）解体前記録調査　　現況屋上階平面図　S＝1/200　　R7.1月作成



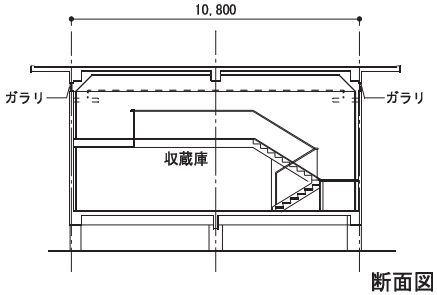
断面図

※文化財保護委員会(文化庁の前身)の
指導により、屋根が陸屋根に変更。



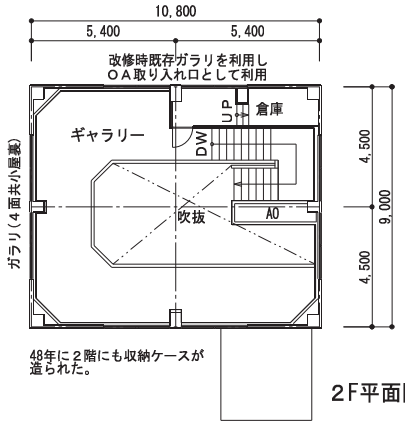
平面図

昭和35年12月作成設計図

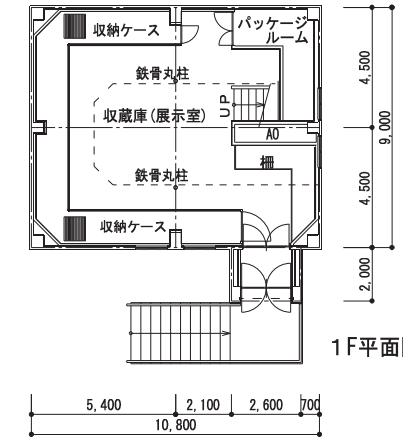


断面図

48年に外壁塗替えと屋上防水改修、床下の防護柵
(ネットフェンス)、警報設備設置等が行われた。

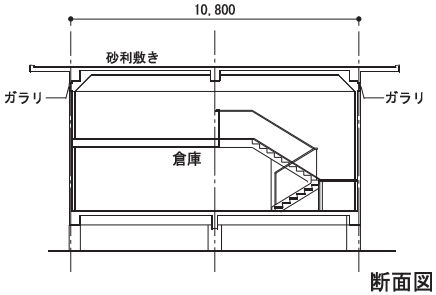


2F平面図

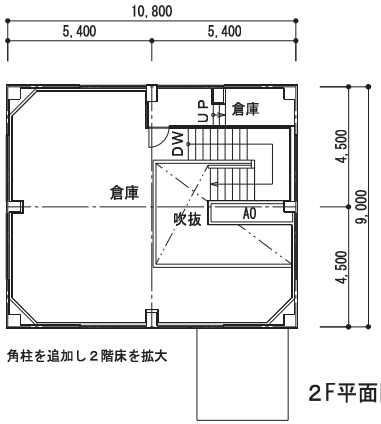


1F平面図

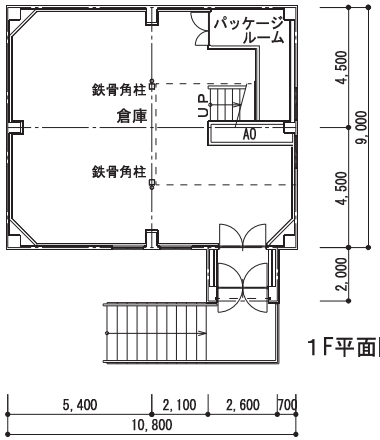
昭和47年10月作成設計図



断面図



2F平面図



1F平面図

調査時平面図

建築面積(軒下含めず)
9.0×10.8+2.0×2.6=102.40㎡

調査日：R6.5.16、8.29、10.1、R7.1.20

旧日本民俗資料館（収蔵庫）解体前記録調査	平面図・断面図	S＝1/200	R7.1月作成